



大分市教師用道徳指導資料集「中学校」編

第3集

# 魅力ある道徳授業の展開

〈改訂版〉

平成26年9月  
大分市教育委員会

## はじめに

近年、子どもの自制心や規範意識の低下、基本的生活習慣の定着が不十分であることや、都市化あるいは過疎化の進展に伴い、伝統・文化を尊重する心や郷土に対する愛着が希薄になっているなどの指摘がなされている。

このようなことから、学校においては、教育活動全体を通じて、道徳的な心情、判断力、実践意欲と態度などの道徳性をはぐくむことが肝要である。とりわけ、道徳の時間においては、各教科、総合的な学習の時間及び特別活動等における道徳教育と密接な関係を図りながら、計画的、発展的な指導によってこれを補充、深化、統合し、道徳的価値の自覚及び自己の生き方についての考えを深め、道徳的実践力を育成することが重要である。

大分市教育委員会では、これまで、各学校の道徳の時間における指導の充実を目指し、「大分市教師用道徳指導資料集」の作成・活用を進めてきた。平成17年度は、第1集「主として自分自身に関すること」、平成19年度は、第2集「主として他の人とのかかわりに関すること」、平成20年度は、これらの内容に「主として自然や崇高なものとのかかわりに関すること」、「主として集団や社会とのかかわりに関すること」を加えた第3集を作成・配布してきたところである。

その後、平成20年3月に国において学習指導要領の改訂が行われ、学校段階における指導の重点の明確化、学校における道徳教育の推進体制の充実等の基本方針が示された。また、平成26年度には、児童生徒が道徳的価値について自ら考え、実際に行動できるようになることをねらいとして、これまで道徳教育用教材「心のノート」を全面改定した「私たちの道徳」が作成・配布された。

このような状況等も踏まえ、本書は、第3集に掲載している指導事例及び道徳授業に取り組むための心構えや留意点の内容に加え、「私たちの道徳」との関連や学年段階・学校段階の系統等を新たに盛り込んでおり、道徳の時間だけでなく、校内研修等においても活用できるよう改訂したものである。

各学校においては、本書の活用が、道徳の時間を要として学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の充実につながり、子どもたちの豊かな心の育成に資することを期待するところである。

平成26年9月

大分市教育委員会

# 目 次

## I 道徳教育の推進

1 今、求められる道徳教育	
(1) 道徳教育の趣旨	1
(2) 道徳教育の目標と道徳の時間の目標	
(3) 道徳教育を充実させる3つの計画づくり	2
(4) 道徳の時間の指導 —指導の基本方針—	
(5) 道徳の時間の特質が押さえられた指導	3
(6) 道徳の時間の評価	4
(7) 評価の観点	
(8) 道徳の時間の工夫改善の視点	
2 指導資料集の見方	5
3 魅力ある道徳の時間をつくるために	6

## II 「視点」ごとの内容の趣旨と指導及び学習指導案・資料

〈1の視点〉 主として自分自身に関すること		9
1年 健太の朝	望ましい生活習慣	1－(1) 12
1年 言えなかったひとこと	自律の精神	1－(3) 16
2年 田中君が教えてくれたこと	誠実な態度	1－(3) 20
2年 祖父の話	志をもって生きる	1－(4) 24
3年 磨けば光る原石	自分ならではの生き方	1－(5) 30
3年 7.5メートルからのジャンプ	自分の弱さに屈しない	1－(2) 34
〈2の視点〉 主として他の人とのかわりに関すること		39
1年 ユキさんのノート	思いやり	2－(2) 42
1年 ファイト、オー	異性の尊重	2－(4) 46
2年 少し成長した自分になって	人間尊重の精神	2－(1) 50
2年 僕にできること	寛容の心	2－(5) 54
3年 私の心に届いたもの	思いやり	2－(2) 58
3年 健二の涙	深め合う友情	2－(3) 62
〈3の視点〉 主として自然や崇高なものとのかわりに関すること		67
1年 いのち	生命の尊重	3－(1) 70
3年 ステージの直樹	人間の強さと気高さ	3－(3) 74
〈4の視点〉 主として集団や社会とのかわりに関すること		79
1年 地域でつくった大記録	郷土を愛する	4－(8) 82
2年 あったほうがいい?	公德心	4－(2) 86
2年 私の職場体験	勤労の尊さ	4－(5) 90
3年 窓辺のラン	家族愛	4－(6) 94

## III 「道徳の内容」の学年段階・学校段階の一覧表 98

# I 道徳教育の推進

## 1 今、求められる道徳教育

### (1) 道徳教育の趣旨

子どもたちに必要とされる「生きる力」の核となる豊かな人間性とは、

- ① 美しいものや自然に感動する心などの柔らかな感性
- ② 正義感や公正さを重んじる心
- ③ 生命を大切にし、人権を尊重する心などの基本的な倫理観
- ④ 他人を思いやる心や社会貢献の精神
- ⑤ 自立心、自己抑制力、責任感
- ⑥ 他者との共生や異なるものへの寛容

などの感性や道徳的価値を大切にすることである。

このような力を育てるのが、心の教育であり、**道徳教育**である。



### 道徳教育改善の基本方針

- ① 小学校では、あいさつなどの基本的な生活習慣、人間としてしてはならないことをしない、法やきまりの意義など、中学校では、主体的に社会の形成に参画するなど、児童生徒の発達段階を踏まえた指導の重点化を図ること
- ② 先人の伝記、自然、伝統と文化、スポーツなどを題材とした児童生徒が感動を覚えるような魅力的な教材の開発や活用の推進
- ③ 校長の方針の下に、道徳教育の推進を主に担当する教師（道徳教育推進教師）を中心とした指導体制の充実

### (2) 道徳教育の目標と道徳の時間の目標

#### < 道徳教育の目標 >

- 道徳教育は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神に基づき、人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を家庭、学校、その他社会における具体的な生活の中に生かし、豊かな心を持ち、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛し、個性豊かな文化の創造を図るとともに、公共の精神を尊び、民主的な社会及び国家の発展に努め、他国を尊重し、国際社会の平和と発展や環境の保全に貢献し未来を拓く主体性のある日本人を育成するため、その基盤としての道徳性を養うことを目標とする。
- 道徳教育の目標は、第1章総則の第1の2に示すところにより、学校の教育活動全体を通じて、道徳的な心情、判断力、実践意欲と態度などの道徳性を養うこととする。

#### < 道徳の時間の目標 >

- 道徳の時間においては、以上の道徳教育の目標に基づき、各教科、総合的な学習の時間及び特別活動における道徳教育と密接な関連を図りながら、計画的、発展的な指導によってこれを補充、深化、統合し、道徳的価値及びそれに基づいた人間としての生き方についての自覚を深め、道徳的実践力を育成するものとする。

#### ■ 「補充、深化、統合」

- ・補充…子どもは、学校の諸活動の中で多様な道徳的価値について感じたり考えたりするが、そのすべてについて考える機会があるとは限らない。道徳の時間は、このように学校の諸活動で考える機会を得られにくい道徳的価値などについて補充する役割がある。
- ・深化…体験の中では道徳的価値の意味などについて必ずしもじっくりと考え、深めることができていないとは限らない。道徳の時間は、このように道徳的価値の意味やそれと自己とのかかわりについて一層考えを深化させる役割を担っている。
- ・統合…多様な道徳的体験をしていたとしても、それぞれがもつ道徳的価値の相互の関連や、自己とのかかわりにおいての全体的なつながりなどについて考えないままに過ごしてしまうことがある。道徳の時間は、それらを統合し、子どもに新たな感じ方や考え方を生み出すというような役割もある。

### (3) 道徳教育を充実させる3つの計画づくり

#### ① 学校の道徳教育全体計画

道徳教育の全体計画は、学校における道徳教育の基本的な方針を示すとともに、学校の教育活動全体を通して、道徳教育の目標を達成するための方策を総合的に示した教育計画

<道徳教育の全体計画の内容(例)>

- 学校教育目標    ○ 道徳教育の重点目標    ○ 各学年の重点目標    ○ 道徳の時間の指導の方針
- 各教科等における道徳教育の指導の方針    ○ 豊かな体験活動における指導の方針
- 家庭、地域社会、関係機関との連携    ○ 道徳教育の推進体制

#### ② 道徳の時間の年間指導計画

各学年ごとに主題を構成し、それを年間を見通して適切に位置付け、配列し、展開の概要等を示した指導計画

#### ③ 学級における道徳教育の指導計画

全体計画に基づいて学年の指導方針の下に、学級における指導をどのように行うのかを具体的に計画し、見直しをもって指導にあたることが大切

### (4) 道徳の時間の指導 - 指導の基本方針 -

道徳教育の要としての道徳の時間においては、年間指導計画に基づき、子どもや学級の実態に即し、道徳の時間の特質に基づく適切な指導を展開しなければならない。

#### ① 道徳の時間の特質の理解

道徳の時間は、子ども一人一人が、一定の道徳的価値の含まれるねらいとのかかわりにおいて自己を見つめ、道徳的価値を発達の段階に即して内面的に自覚し、それに基づいた人間としての生き方についての自覚を深め、主体的に道徳的実践力を身に付けていく時間である。

#### ② 信頼関係や温かい人間関係の確立

道徳の時間の指導は、よりよい生き方について子どもが互いに語り合うなど学級での温かな心の交流があつて効果を発揮する。教師と子どもとの信頼関係や生徒相互の温かい人間関係は、子ども一人一人が自分の感じ方や考え方を伸び伸びと表現することができる雰囲気や日常の学級経営の中で創り出していく。

#### ③ 子どもの内面的な自覚を促す指導方法の工夫

道徳の時間は、道徳的価値についての単なる知的理解に終始したり、行為の仕方を一方的に指導したりする時間ではなく、ねらいとする道徳的価値について子ども自身がどのようにとらえ、どのような葛藤があるのか、また価値を実現することにどのような意味を見いだすことができるのかなど、道徳的価値を自己とのかかわりにおいてとらえる時間である。子どもが道徳的価値を内面的に自覚できるよう工夫に努める。

#### ④ 子どもの発達や個に応じた指導方法の工夫

子どもの発達は、年齢によってほぼ共通した特徴を示すこと、年齢相応の発達の課題があることなどを十分把握して指導に当たる必要がある。

#### ⑤ 道徳の時間が道徳的価値の自覚を深める要となるような工夫

豊かな体験は、子どもの内面に根ざした道徳性の育成に資するものである。これらの体験活動を通して子どもが気付く様々な道徳的価値は、それらがもつ意味や大切さなどについて深く考える道徳の指導を通して、より確かな道徳的実践力として定着する。また、各教科、総合的な学習の時間及び特別活動等における道徳教育を補充、深化、統合し、要としての役割を果たす道徳の時間の特質を踏まえ、ねらいに含まれる道徳的価値の側面から他の教育活動との関連を把握し、それを生かした授業を工夫する。

#### ⑥ 道徳教育推進教師を中心とした指導体制の充実

校長の方針を明確にし、道徳教育推進教師を中心に指導体制の充実を図るとともに、道徳の時間への校長や教頭などの参加、他の教師との協力的指導、保護者や地域の人々の参加や協力などが得られるように工夫する。

#### ⑦ 指導に当たっての基本的姿勢についての理解

全教師が学校の道徳の時間の基本方針を共通理解し、自らの個性を十分に生かして指導に当たることが望ましい。その際、教師は子どもとともに考え、悩み、感動を共有していく姿勢で臨むことが必要である。

**(5) 道徳の時間の特質が押さえられた指導**

道徳の時間は、子ども一人一人が、一定の道徳的価値に含まれるねらいとのかかわりにおいて自己を見つめ、道徳的価値の自覚及び自己の生き方についての考えを発達段階に即して深め、内面的資質としての道徳的实践力を主体的に身に付けていく時間である。

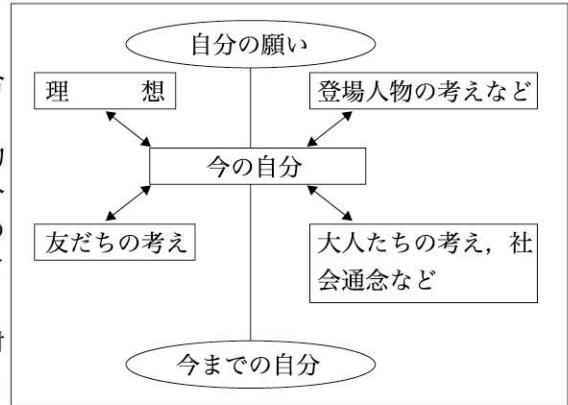
道徳の時間は、学校教育全体で行う道徳教育を補充、深化、統合する要となる時間として、上記のような特質を示している。

**特質① 子ども一人一人が自己を見つめる**

道徳の時間は、「子ども一人一人が、一定の道徳的価値に含まれるねらいとのかかわりにおいて自己を見つめる」時間である。

道徳の時間では、右図のように、子どもが資料中の登場人物の感じ方、考え方だけでなく、友だちの考え、社会の通念、今までの自分の姿、理想とする考えなどに会い、それらと今の自分とを比べたりすることによって自己を見る目を豊かにしていくことができる。

そのためにも、道徳の時間の指導では、一人一人の自分に対する思いや願いが大切にされ、自分について直接考える時間と多様な考えにふれる時間が大切にされなくてはならない。



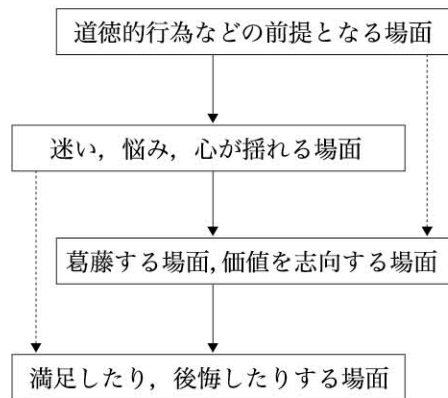
＜ 図 多様な考えと比べながら自己を見つめる ＞

**特質② 子どもが価値を内面的に自覚する**

道徳の時間は、子どもが「道徳的価値を発達段階に即して内面的に自覚」する時間である。したがって、道徳の時間では、子どもの発達段階を押さえながら内面的な思考を促し、いわば内的な体験ができるような支援をすることが求められる。

道徳の時間では、道徳的な行為が含まれる読み物が資料として広く用いられている。それは、子どもが日常では体験できないことについて共感的な追求をして追体験をしたりするためでもある。

道徳の時間の中心的な資料は、例えば、右図のような構成や流れをもっているものが多い。このような資料での登場人物の気持ちの流れに共感したり、それを受け止めたり、それについて検討したりする活動を通して、子どもの中に道徳的価値の内面的な自覚が図られていく。



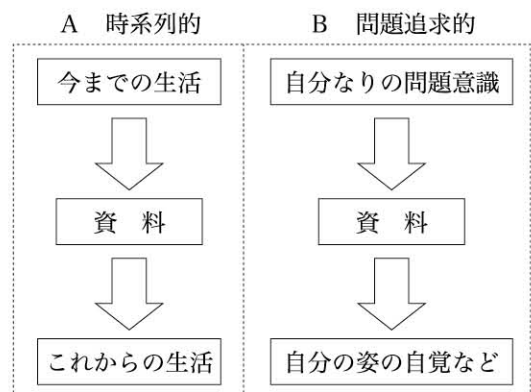
＜ 図 読み物資料に多く見られる流れの例 ＞

**特質③ 子どもが主体的に道徳的实践力を身に付けていく**

道徳の時間は、子どもが「主体的に道徳的实践力を身に付けていく」ための時間である。そのためにも、学習も子どもにとってできるだけ主体的に追求している感覚がもてるようにする必要がある。学習が子どもにとって受け身一辺倒の感覚では、主体的に道徳的实践力を身に付けていくということにはなりにくいからである。

右図のAは、時系列的な指導である。今までの問題点を発掘した後、その反省点などをもとに資料で学び合い、これからの自分について考えるという流れである。

Bは、子どもが問題意識をもち、話し合いへの見通しをもったうえで資料に出会い、その中で追求を通して、自分の見方を深めていくという筋道である。



＜ 図 指導の流れについての2つの考え方 ＞

この2つは明確に分けられるものではないが、Aのような指導は、教師の意図に引かれる受け身的、教え込み的な指導になりやすい。子どもが問題意識をもたないままに資料と出会っても、子どもの中に必然性や切実性がわきにくいからである。子どもの問題意識が生きた授業、個性的な追求が保障された授業へと道徳の時間の工夫や改善を心掛けていきたいものである。

## (6) 道徳の時間の評価

道徳の時間の指導案では、評価の観点を置かない場合が一般的であった。それは、「道徳の時間のねらいが向上目標的であり、内面的な変化を見取るのは難しい。」「一時間での変化を期待するのは行為の変化を押し付ける指導にもなりかねない。」などの理由からであった。

しかし、学習指導要領第3章道徳でも、子どもの取組の様子、学び合いの豊かさ、期待したい深まりなど、数値に表れない面での評価は、むしろ積極的に行うことを求めている。その視点から、例えば、下記のような観点での評価は丁寧に行い、それを学習や事後指導に生かすことが大切である。

- ・学習への構えや意欲……自分なりの考えを持ち、進んで発表するなど、意欲的に話し合ったか。
- ・学び合いや考えの深まり…他の考えに学び合い、自分の考えを深めていたか。 等

## (7) 評価の方法

- 私たちの道徳や書き込み可能なプリント等を利用し、授業中の重要箇所的心情、理解、判断などを評価する。
- 導入や展開、終末など各過程において、子どもの発言等を記録し、その変容などから評価する。
- 授業中だけでなく、授業の前後にも心を配り、子どもの動きや態度の変容などにも目を向け評価する。
- 研究授業を実施し、他の教師から評価を受けたり、授業への感想やアンケートなど子どもに評価を求めたりする。

## (8) 道徳の時間の工夫改善の視点

### ① 教師の基本的な姿勢に関すること

- 子どもの直面している悩みや心の揺れ、葛藤等の課題を取り上げ、自己と他者との関係を深く見つめられるよう配慮しているか。
- 子どもの個に応じた適切な指導をしているか。
- 教師は子どもと共に考え、悩み、感動を共有していく姿勢で指導に当たっているか。

### ② ねらい及び資料に関すること

- ねらいは適切であるか。子どもの変容を把握する手だてが用意されていて、ねらいが達成されたかを確認することができるか。
- 取り上げられた資料の内容とその扱い方が、ねらいの達成と子どもの実態に即して適切であるか。
- 地域や保護者の協力を得て、地域の特色を生かした資料を開発し有効に活用しているか。

### ③ 学習指導過程に関すること

- 導入、展開、終末の過程を形式的、固定的にせず、ねらいや資料及び子どもの反応などとの関連において柔軟に対応しているか。
- 他の教育活動などにおける体験的な学習をはじめ他の教育活動の成果が指導に生かされているか。
- 事前、事後の指導が有効に機能しているか。

### ④ 指導の諸方法に関すること

- 子どもが自分の生き方の問題として意欲をもって取り組み、積極的に学習に参加できるよう工夫しているか。
- 子どもが互いにその感じ方や考え方を理解して話し合い、その時間の終わりを借しむような指導であるか。
- 校長及び教頭及び他の教師との協力的な指導が工夫されているか。
- 保護者や地域の人々の協力を得て、さまざまな生き方や考え方について直接学ぶよう工夫されているか。

## ■ 「道徳性」を構成する諸様相

- ・道徳的心情……道徳的価値の大切さを感じ取り、善を喜び、悪を憎む感情
- ・道徳的判断力……それぞれの場面において善悪を判断する能力
- ・道徳的実践意欲…道徳的心情や道徳的判断力によって、善とされたものをやろうとする積極的な気持ち
- ・道徳的態度……具体的な道徳的行為への身構え
- ・道徳的習慣……長い間繰り返して行われているうちに習慣として身に付けられた望ましい日常的行動

## ■ 「道徳的実践と道徳的実践力」

- ・道徳的実践……道徳的に高い価値をもった行為や実践
- ・道徳的実践力……道徳的実践につながる内面の力。「～しないではおれない。」というところまで高まった心

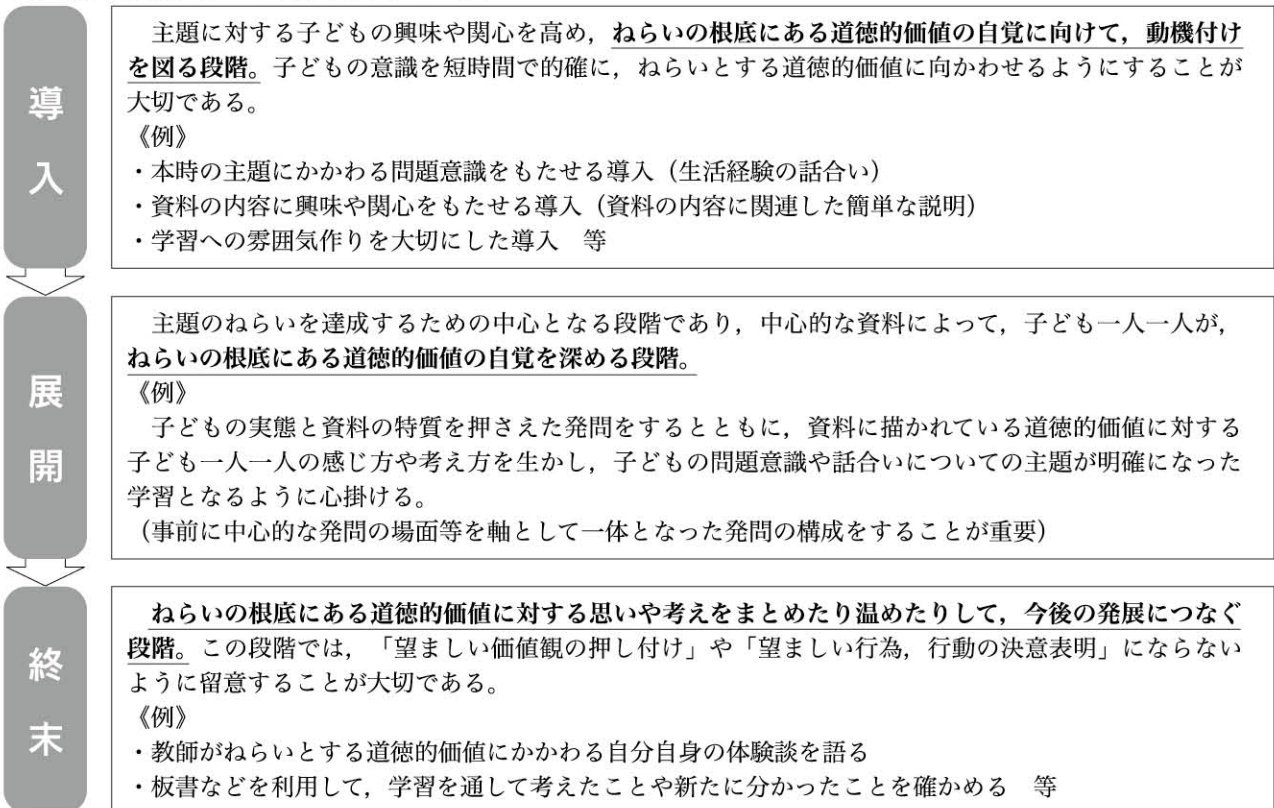




### 3 魅力ある道徳の時間をつくるために

#### (1) 基本的な学習指導過程

道徳の時間は、子ども一人一人が道徳的価値の自覚を深め、内面的資質としての道徳的実践力を育成するという特質を十分考慮し、それに応じた学習指導過程や指導方法を工夫することが大切である。一般的には、導入、展開、終末の各段階を設定することが広く行われている。



#### (2) 道徳の時間に生かす指導方法の工夫

- ① 資料提示の工夫
 

◇大型絵や紙芝居等を用いる方法	◇パネルシアターによる方法	◇視聴覚機器を生かす方法
◇黒板を舞台のようにして提示する方法	◇実物や写真等を生かす方法	等
- ② 発問の工夫
 

◇子どものこだわりや問題意識を生かす・生み出す発問
◇発言の自由度があり、個性的な考えが生かされ、引き出される発問
◇考える必然性や切実感があり、心が揺さぶられる発問 等
- ③ 話合いの工夫
 

<b>【対応の工夫例】</b> ◇心の様子や考えの立場の色、類別、グラフ等による視覚化 ◇多様な意見、きっかけとなる意見を引き出す意図の指名 等 <b>【場作りの例】</b> ◇座席配置で立場を鮮明にする工夫 ◇ペアを組んだ話合い ◇全体討議的な形態、グループ討議的な形態の工夫 等
--
- ④ 書く活動の工夫
 

◇吹き出しを付けた形式	◇自分のことを伝える手紙の形式	◇自己評価欄を設けた形式
◇作業的、ゲーム的な内容を組み入れた形式	◇絵や記号等で書く形式	等
- ⑤ 表現活動の工夫
 

◇役割演技…特定の役割を持って即興的演技から深める方法
◇動作化……動きを忠実に真似をして実感的な理解を深める方法
◇疑似体験活動…セットされた条件の中での追体験的な活動
◇劇化……せりふや演技の真似をして状況を感じ取る方法 等
- ⑥ 板書の工夫
 

◇話し合いの中心部分を特にクローズアップした構成。
◇意見の違いがとらえやすく類別化、類型化させて示された構成
◇子どもが参画できる構成 ◇黒板を舞台のようにした構成 等
- ⑦ 説話の工夫
 

◇日常の話題や学級での出来事の中から印象的な話題を軸に話す
◇格言やエピソード、「私たちの道徳」などを生かして願いを伝える
◇教師の忘れられない体験をもとに教師の人間性を表現する 等

(3) 道徳の時間の特質を欠かさないために

◆道徳的価値の理解を深める学習

道徳的価値の理解は、「ねらいとする道徳的価値が大切であること（価値理解）」、「大切ではあるが道徳的価値に根拠した行為は容易ではないこと（人間理解）」、「道徳的価値にかかわる感じ方・考え方は人によって様々であること（他者理解）」である。これらの学習を行うことが必要である。

◆子どもが自分とのかかわりで考える学習（自己の生き方についての考えを深める）

子どもが自分とのかかわりで考える学習とは、ねらいとする道徳的価値にかかわる諸事象などについて、自分とのかかわりを実感しながら学ぶことである。授業構想にあたっては、子どもが諸問題を自分事としてとらえ、自分の体験などに基づいて考えられるようにすることが重要である。

◆ねらいとする道徳的価値を視点に自分自身を振り返る学習

自分自身を振り返る学習とは、ねらいとする道徳的価値にかかわる行為、考え方、感じ方はどうだったかを具体的に振り返ることである。授業者は、確固たる指導観に基づき、子どもにどのような視点で振り返りをさせるのかを明確にする必要がある。

(4) 道徳指導資料集（小学校編P.79～82）を活用した授業展開例

過程	学習活動	指導及び留意点	評価の視点
導入 10分	1 資料を読み、休み時間を楽しみにしているあき子の気持ちを考える。	○ 学校のきまりにふれた後、資料を読み聞かせながら、あらすじを理解させる。 やっとなんかボールがまわってきた時、あき子は、どんな気持ちだったのかな。 ● 朝からドッジボールを楽しみにしていたあき子の気持ちを感じ取らせる。	◆ ドッジボールを楽しみにしているあき子の気持ちに共感しているか。
		○ ボールを投げたいというあき子の気持ちの高まりをおさえた後、課題を位置付ける。 あき子が、「もう、やめよう。」と言ったのは、なぜか。 ● 子どもの発言を整理し、わかりやすく板書する。 (しかられるから) ・先生にしかられるから ・チャイムの合図をまもるように言われているから (まわりのようすから) ・ほうそうでお知らせがあったから ・まわりのみんながやめたから (きまりの大切さを考えて) ・みんなあそびたいのをがまんしているから ・自分たちだけあそぶのはわるいから ・そうじにおくれてめいわくをかけるから ● 単に「きまりだから」と発言する子については、その根拠を語らせるようにする。	◆ 「やめよう」と言ったあき子の気持ちに寄り添って考えているか。
		○ <みんなに迷惑をかける>という他者に対する視点から、なぜ「きまり」を守らなければならないのかについての考えを深めさせる。 ● あき子が「考えてからきっぱりと言った」時の様子から、他者を意識した視点で「きまり」を守ることの大切さに気付かせる。	◆ きまりを守ることの大切さの視点でも考えているか。
		○ 導入段階であげられたいくつかのきまりについて、ふりかえらせながら、守れた子にその時の気持ちを聞く。 どんな気持ちできまりをまもったのかな。 ● 学校生活の中で、きまりが守れた経験を想起させ、「どんな気持ちで守れたのか」を聞き、みんなのことを考えた行動であることを感じ取らせるようにする。 ● 友だちの発言を聞き、自分たちの生活の中のきまりを進んで守ろうとする意欲をもたせる。	◆ 自分や友だちの経験から、きまりを守って生活したいと考えているか。
展開 25分	2 あき子が、「もう、やめよう。」と言ったわけを考える。  3 きまりを守ることの大切さについて考える。	○ 学校のきまりにふれた後、資料を読み聞かせながら、あらすじを理解させる。 やっとなんかボールがまわってきた時、あき子は、どんな気持ちだったのかな。 ● 朝からドッジボールを楽しみにしていたあき子の気持ちを感	◆ ドッジボールを楽しみにしているあき子の気持ちに共感しているか。
		○ ボールを投げたいというあき子の気持ちの高まりをおさえた後、課題を位置付ける。 あき子が、「もう、やめよう。」と言ったのは、なぜか。 ● 子どもの発言を整理し、わかりやすく板書する。 (しかられるから) ・先生にしかられるから ・チャイムの合図をまもるように言われているから (まわりのようすから) ・ほうそうでお知らせがあったから ・まわりのみんながやめたから (きまりの大切さを考えて) ・みんなあそびたいのをがまんしているから ・自分たちだけあそぶのはわるいから ・そうじにおくれてめいわくをかけるから ● 単に「きまりだから」と発言する子については、その根拠を語らせるようにする。	◆ 「やめよう」と言ったあき子の気持ちに寄り添って考えているか。
		○ <みんなに迷惑をかける>という他者に対する視点から、なぜ「きまり」を守らなければならないのかについての考えを深めさせる。 ● あき子が「考えてからきっぱりと言った」時の様子から、他者を意識した視点で「きまり」を守ることの大切さに気付かせる。	◆ きまりを守ることの大切さの視点でも考えているか。
		○ 導入段階であげられたいくつかのきまりについて、ふりかえらせながら、守れた子にその時の気持ちを聞く。 どんな気持ちできまりをまもったのかな。 ● 学校生活の中で、きまりが守れた経験を想起させ、「どんな気持ちで守れたのか」を聞き、みんなのことを考えた行動であることを感じ取らせるようにする。 ● 友だちの発言を聞き、自分たちの生活の中のきまりを進んで守ろうとする意欲をもたせる。	◆ 自分や友だちの経験から、きまりを守って生活したいと考えているか。
終末 10分	4 友だちの経験を聞き、自分の生活を振り返る。	○ 学校のきまりにふれた後、資料を読み聞かせながら、あらすじを理解させる。 やっとなんかボールがまわってきた時、あき子は、どんな気持ちだったのかな。 ● 朝からドッジボールを楽しみにしていたあき子の気持ちを感	◆ ドッジボールを楽しみにしているあき子の気持ちに共感しているか。
		○ ボールを投げたいというあき子の気持ちの高まりをおさえた後、課題を位置付ける。 あき子が、「もう、やめよう。」と言ったのは、なぜか。 ● 子どもの発言を整理し、わかりやすく板書する。 (しかられるから) ・先生にしかられるから ・チャイムの合図をまもるように言われているから (まわりのようすから) ・ほうそうでお知らせがあったから ・まわりのみんながやめたから (きまりの大切さを考えて) ・みんなあそびたいのをがまんしているから ・自分たちだけあそぶのはわるいから ・そうじにおくれてめいわくをかけるから ● 単に「きまりだから」と発言する子については、その根拠を語らせるようにする。	◆ 「やめよう」と言ったあき子の気持ちに寄り添って考えているか。
		○ <みんなに迷惑をかける>という他者に対する視点から、なぜ「きまり」を守らなければならないのかについての考えを深めさせる。 ● あき子が「考えてからきっぱりと言った」時の様子から、他者を意識した視点で「きまり」を守ることの大切さに気付かせる。	◆ きまりを守ることの大切さの視点でも考えているか。
		○ 導入段階であげられたいくつかのきまりについて、ふりかえらせながら、守れた子にその時の気持ちを聞く。 どんな気持ちできまりをまもったのかな。 ● 学校生活の中で、きまりが守れた経験を想起させ、「どんな気持ちで守れたのか」を聞き、みんなのことを考えた行動であることを感じ取らせるようにする。 ● 友だちの発言を聞き、自分たちの生活の中のきまりを進んで守ろうとする意欲をもたせる。	◆ 自分や友だちの経験から、きまりを守って生活したいと考えているか。

道徳的価値を意識し、授業展開を考えていきましょう。また、価値の理解と同時に自分とのかかわりで道徳的価値をとらえ、「自己理解」を深めていくことも大切です。

人間理解 他者理解 自己理解

チャイムの合図を守ることは大事だと分かっているけど、すぐに遊びをやめることはむずかしいなあ…。

他者理解 人間理解 自己理解

正しいと思ったことをする時にも、いろいろな考え方があるんだなあ…。

価値理解 他者理解 自己理解

きまりを守ることは大切なんだなあ…。

自己理解 他者理解

今までに、きまりや約束を守らないといけないときに、みんなのことを考えていたかなあ…。

1の視点「主として自分自身に関すること」の  
内容の趣旨と指導及び学習指導案・資料

## 「主として自分自身に関すること」の内容の趣旨と指導

### (1) 1の視点について

#### ① 1の視点の意味

道徳の内容に示されている4つの視点は、すべての人間がもっている生活上のかかわりの対象を示している。したがって、子どもたちが望ましい道徳性を自らの内に培い、人間としての生き方についての自覚を深めていくためには、これら4つのかかわりのすべてを主体的にもてるような指導を充実させる必要がある。

- 1の視点「主として自分自身に関すること」  
自己の在り方を自分自身とのかかわりにおいてとらえ、望ましい自己の形成を図る。
- 2の視点「主として他の人とのかかわりに関すること」  
自己を他の人とのかかわりの中でとらえ、望ましい人間関係の育成を図る。
- 3の視点「主として自然や崇高なものとのかかわりに関すること」  
自己を自然や美しいもの、崇高なものとのかかわりにおいてとらえ、人間としての自覚を深める。
- 4の視点「主として集団や社会とのかかわりに関すること」  
自己を様々な社会集団や郷土、国家、国際社会とのかかわりの中でとらえ、国際社会に生きる日本人としての自覚に立ち、平和的で文化的な社会及び国家の成員として必要な道徳性の育成を図る。



< 1の視点は自律的な道徳性の育成にとって基本 >

- 道徳教育は、人間としてよりよく生きていく上で必要なさまざまなかかわりを主体的にもち、自ら考え、判断し、自律的に道徳的実践のできる人間の育成を目指している。そのためには、自分が自分自身について問いかけることができなければならない。それは、外に表れている自己と内なる自己との対話を意味する。
- この時期の子どもには、人間とは何かについて探究させるとともに、自己を見つめ、自己の生き方を問い直し、人間としての望ましい生き方の実現を目指して努力させることが大切である。

#### ② 他の視点との関連

- 2, 3, 4の各視点は、いずれも1の視点と相互に深い関連をもっている。自律的な人間であるためには、1の視点の内容が基盤となって、他の三つの視点の内容にかかわり、再び1の視点に戻ることが必要である。
- 他の人のかかわりや集団や社会とのかかわりにおいて育成される道徳性は、自分自身との主体的な対話を通して発展していくものである。
- 自然や崇高なものとのかかわりを十分もつことによって、自分自身についての理解を深め、人間としての自覚を一層深めていく。

### (2) 1の視点の指導の観点

#### ① 道徳の時間での指導

道徳の時間は、各教育活動で行われる道徳教育を、全体にわたって調和的に補充、深化、統合し、道徳的実践力を育成する時間である。したがって、1の視点の指導においても、各教育活動でどのような指導がなされているのかを把握し、道徳の時間において発展的に指導していくことが大切である。

- 1の視点の指導
  - ・ 自己の在り方を自分自身とのかかわりにおいてとらえ望ましい自己の形成を図るようになることを念頭において指導する。
  - ・ 他の視点の内容項目の指導においても、1の視点が基盤になっていることに留意する。
- 年間指導計画の作成
  - ・ 道徳の内容が4視点から分類整理して示されている趣旨を理解し、内容相互の関連を考慮した指導や3年間を見通した発展的な指導が行えるようにする。

- ・ 特に1の視点は、あらゆる指導の基盤となることから、年間にわたって適切に位置付けられるように配慮する。
- 1つの内容項目に幾つかの道徳的価値が含まれている場合
  - ・ 分割して主題を構成することもできるが、その内容項目が強調している基本的な価値を十分に踏まえるとともに、一つのまとまりとして表されている意味を理解し、1年間を通して内容項目の全体が計画的、発展的に指導できるように工夫する。
- 各時間の主題の構成
  - ・ 特に自分自身のことについて深く考え、自分のよさや持ち味を生かしてより積極的に生きていこうとする意欲や態度を育てることに留意し、ねらいを設定し、資料を選定する。
- 指導過程
  - ・ 資料を媒介として自分自身のことを深く考えることができるように工夫し、そのことを通してより積極的に生きていこうとする意欲や態度が育てられるようにしていく。
  - ・ 他の教育活動や日常生活において、自分自身のことについてどのように考えているか、自分自身とのかかわりをどの程度深めているかなどを把握しておく。

## ② 道徳の時間以外での指導

### (i) 各教科での指導

- 今回の改訂において、自ら考え、主体的に判断し行動できる力を育成することが一層重視。
- 学校生活や社会生活を主体的に営む心構えや行動の能力を身に付ける学習活動を通して、人間としての生き方について自分の考えをもつ。
- 国民として必要とされる基礎的・基本的な内容を確実に身に付けることを通して、自分のよさや持ち味を発揮しながら、調和のとれた自己を形成していく力を育成する。
- 社会の急激な変化に適切に対応して生きていくためには、学ぶことの楽しさや成就感を体得し、自ら学ぶ意欲や主体的な学習の仕方を身に付けるなどの、自己教育力を育成する。

### (ii) 特別活動及びその他の教育活動での指導

- 特別活動の目標に示されている「心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図る」ことや「人間としての生き方について自覚を深め、自己を生かす能力を養う」ことは、1の視点の内容と深くかかわっている。  
 (例) 学級活動・・・個人及び社会の一員としての在り方、心身ともに健康で安全な生活、学業生活の充実及び進路の選択などに関する指導など、生徒が自己の在り方や生き方について自覚を深める活動が行われる。
- 特別活動の目標に示されている「自主的、実践的な態度の育成」は、一人一人の子どもが協力しながら、自分で考え、判断し責任をもって行動できるように自律的な生き方を図ることが求められている。

### (iii) 日常生活での指導

- 日常生活においては、子ども自らが課題を見つけ、よりよい生き方や、より積極的な生き方を求めつつ、人間としての生き方についての自覚を深めていくような指導を工夫する。  
 (例) 基本的な生活習慣の指導  
 行動を押しつけるのではなく、環境の整備などを通して自ずと気付かせるように工夫する。それらを自己の課題として自覚できるように指導していく。

# 學習指導案·資料

## 第1学年 道徳学習指導案

主題名 望ましい生活習慣 1-(1) 望ましい生活習慣

資料名 健太の朝 出典 大分市教師用道徳指導資料集編集委員会 作

ねらい 主人公があいさつ運動を頑張ってみようと思ったわけを<心身の健康><人間関係><時間を大切に>等に着眼して捉えることで、規則正しい生活をおくろうとする態度を育てる。

### 主題設定の理由

#### (1) 生徒の実態

この時期の生徒は、中学校の生活に慣れ不安も減る反面、日々の生活に流されて入学時の新鮮な気持ちも薄れ、節度を守ろうとする気持ちや自制心がうすらぎがちになる。また、思春期に入るこの段階の生徒にとっては、大きな声を出すことを恥ずかしく感じるようになり、あいさつができなくなる姿が見られる。そこで、あいさつはコミュニケーションの第一歩であり、そのことを通して心を通い合わせることで人間関係を円滑にし、さらには自分自身の生活を豊かにするものであることを改めて自覚させたい。また、基本的な生活習慣全般について自分の生活を振り返らせ、一日をより主体的に生きていこうとする意欲や活力を育てたい。

#### (2) 資料について

本資料には、中学校入学後に生活のリズムが乱れがちになった主人公が、あいさつ運動の約束の時間に遅れ非難されたり、声が出せなくて落ち込んだりするものの尊敬する坂本先輩から激励され、頑張ってみようとする様子が描かれている。この資料を通して、あいさつ運動に頑張る坂本先輩の姿から学ぼうとする主人公の心の変化を捉えさせることにより、規則正しい生活を送ろうとする意欲を高めさせたい。

### 指導について

導入段階において、規則正しい生活を送っているかどうか振り返らせる。資料を読んで、主人公の生活と生徒自身の生活を重ね合わせながら、生活のリズムの乱れから何事に対しても消極的になってしまう主人公の心境を想像させたい。生活委員として「あいさつ運動」に参加するものの、自分の思うようなあいさつができず、かといって怠けることもできずにいる憂うつな気持ちに生徒は共感できるだろう。さらに、主人公が先輩の話聞く中で、入学時の意欲的だった自分の姿を再認識していくように、生徒にも望ましい生活習慣を身に付けることが意欲を高める源であることに気付かせたい。終末においては、望ましい生活習慣を身に付けることがなぜ必要なのかを考えさせることで、自分自身の生活を見直し、規則正しい生活を送ろうとする気持ちを高めたい。

「あいさつ」については、自発的に行うものと捉えたり、礼儀として身に付けさせるものと捉えたり等意見の分かれるところである。理想としては、自然と心から湧き出るあいさつが望ましいが、個人によっていろいろな考え方や感じ方、表現のしかたがあることを認め合うことも大切である。

学習指導過程

過程	学習活動	指導及び留意点	評価の視点
導入 10分	1 自分の一日の生活を振り返り、反省点を考える。	○ 規則正しい生活を送っているかどうか振り返らせる。 ● 自分の一日の生活を振り返らせるために、「私たちの道徳」P.13の生活チェック表に記入し、反省点を考えさせる。	
展 開 30分	2 資料を読んで、健太が「あいさつ運動」に行きたくないわけを考える。  3 「頑張ってみます」と言った健太の気持ちを考える。	<p>なぜ、健太は『あいさつ運動』に行きたくないのだろう。</p> <p>○ 家を出るときの健太の気持ちに着目させる。 ● 健太の生活のリズムが崩れていることをもとに考えさせる。 ・自分だけ早く学校に行かなければならないから ・あいさつ運動や他のことにも、やる気が出ないから ・朝食も食べないで登校するくらい朝の時間に余裕がないから ・あいさつをするのが苦手だから</p> <p>健太は坂本先輩の話聞いて何を感じ学びとったのだろう。</p> <p>○ 健太が感じたことについて〈人間関係〉〈時間を大切にする〉〈心身の健康〉等、考えの違いが明確になるよう板書に位置づけ焦点化し話し合わせる。 ● 坂本先輩が規則正しい生活をしており充実した学校生活を送っていることに気付かせる。</p> <p>〈人間関係〉 ・あいさつをすることを通して人間関係が広がること ・心通い合うあいさつを通してみんなに会うのが楽しみになること ・あいさつにもいろいろな表現の仕方があることを認めること</p> <p>〈時間を大切にする〉 ・目標を持ち時間の使い方を工夫すること ・時間を大切にする態度</p> <p>〈心身の健康〉 ・規則正しい生活をし充実した生き方をしていること</p> <p>健太が積極的に取り組む気持ちになったのは入学式の自分を思い出したからか。</p> <p>● はじめはあいさつ運動に参加することをきついと感じていた坂本先輩が、生活習慣を改め取り組む気持ちのもち方を高めたのだと気づき、自分の生活を見直し規則正しく生き生きと生活しようと決心する健太の気持ちをとらえさせる。</p>	<p>◆ あいさつ運動に行きたくないわけを感じ取れているか。</p> <p>◆ 望ましい生活習慣を身に付けることが意欲を高める源になっていることに気付いているか。</p>
終末 10分	4 望ましい生活習慣を身に付けることが、なぜ必要なのか考えを書いて発表し合う。	○ 望ましい生活習慣を身に付けることが、なぜ必要なのか考えさせることによって、規則正しい生活を心がけようとする意欲付けとする。 ● 「私たちの道徳」P.12に、いま自分が大切にしている生活習慣について具体的に書かせる。	◆ 望ましい生活習慣を身に付けることがなぜ必要なのか考えているか。



## 健太の朝

(あーあ、何で自分だけ早く学校に行かなきゃならないんだろう。)

健太は学校に向かいながら一人つぶやいていた。クラスの生活委員である健太は、今月から始まった『あいさつ運動』のために七時四〇分までに登校しなければならないのだ。

中学生になったら、いろんなことに積極的に取り組もうと決めていた健太である。入学当初は、生活委員にも立候補し、勉強も部活もやる気満々で頑張っていた。しかし、こここのところなんだかやる気が出ない。宿題は教科ごとに出されるから山のように、部活は球拾いばかりでつまらない。帰りも遅くなるから、夕飯と入浴を済ませたらそのまま眠ってしまって、宿題も授業の始まる前にあわてて取り組むしつだ。部活のない日は、ついついテレビやパソコンで夜更かしをしてしまう。こんな調子で、朝は一人で起きたためしがない。朝食もほとんど食べないまま家を出る。それに加えて『あいさつ運動』である。(あーあ、みんな、まだ家でゆっくりしているんだろうな)

「おはようございます。」

校門にまで、あいさつの声が響いている。今日も約束の時間に遅れた。健太は生活委員が待つ昇降口まで駆け足で急いだ。人一倍大きな声を張り上げているのは、男子生活委員長の坂本先輩だ。健太にとっては野球部の先輩でもあり、憧れの存在だ。登校してくる一人ひとりに丁寧に頭を下げながら笑顔で声をかけている。(自分もあんなふうにあいさつができればな。)しかし、いざ声を出そうと思うと胸がどきどきして顔が熱くなって声が出ない。やつの思いであいさつしても、知らん顔をして行ってしまう人や、中には笑って通り過ぎる人もいる。健太の気持ちはますます落ち込むし、自然と視線はよそを向いてしまう。(はやくチャイムが鳴らないかな。)

キーンコーンキーンコーン。(あーやつと終わった。)

「ちよつと、その一年生、いつも遅れてくるじゃない。しかも、声はちつとも出てないし。いったいどういうつもりなの。しっかりしてよね。」

女子の生活委員長の南先輩だ。一気に健太に告げると、くると後ろを向いて行ってしまった。健太には返す言葉もない。(そんなこと言つたつて……これが精一杯なんだ……)

「健太、おつかれさん。少しは慣れたかい？」うなだれる健太に坂本くんが声をかけた。

「は、はい……全然……あおう……坂本先輩は、一度も休まず、七時半には登校してるつて……本当ですか？」

「うん、本当だよ。」

「毎日きつくないですか？」

「僕の家遠いだろ。始めは早く家を出るのは結構きつかったよ。あの長い坂道を一人で登って来るのはね。でも、勉強も部活も中途半端にするのはいやだったんだ。時間を有効に使うためにはどうすればいいのか真剣に考えて、早起きすることに決めたんだ。毎朝頑張っているうちにだんだん早く起きられるようになったんだ。そのかわり、部活が終わったらぐずぐずせずに家に帰ってる。帰ったら、夕食をすぐに食べて、一気に勉強に取り組んで、決まった時間には寝るようにしているよ。」

「僕とは大違いだ……。」

「それに、『あいさつ運動』をやり始めたら、みんなに早く会いたいつて言うか、いろいろと楽しいことも増えたしな。」

「でも、あいさつしてもちつとも返事をしてくれない人や、無視していく人もいるじゃないですか。」

「まあ、あいさつが苦手な人もいるから。でも、そういう人が何日目かに軽く会釈なんかしてくれると、あーあきらめずに声をかけててよかつたつて思うよ。」

「僕、坂本先輩みたいに大きな声出せないし。」

「大丈夫、大丈夫。僕も初めは全く声が出せなかつたんだ。部活の声出だつてそうだろう？お前、部活じゃ張り切つて大きい声を出してたじゃないか。」

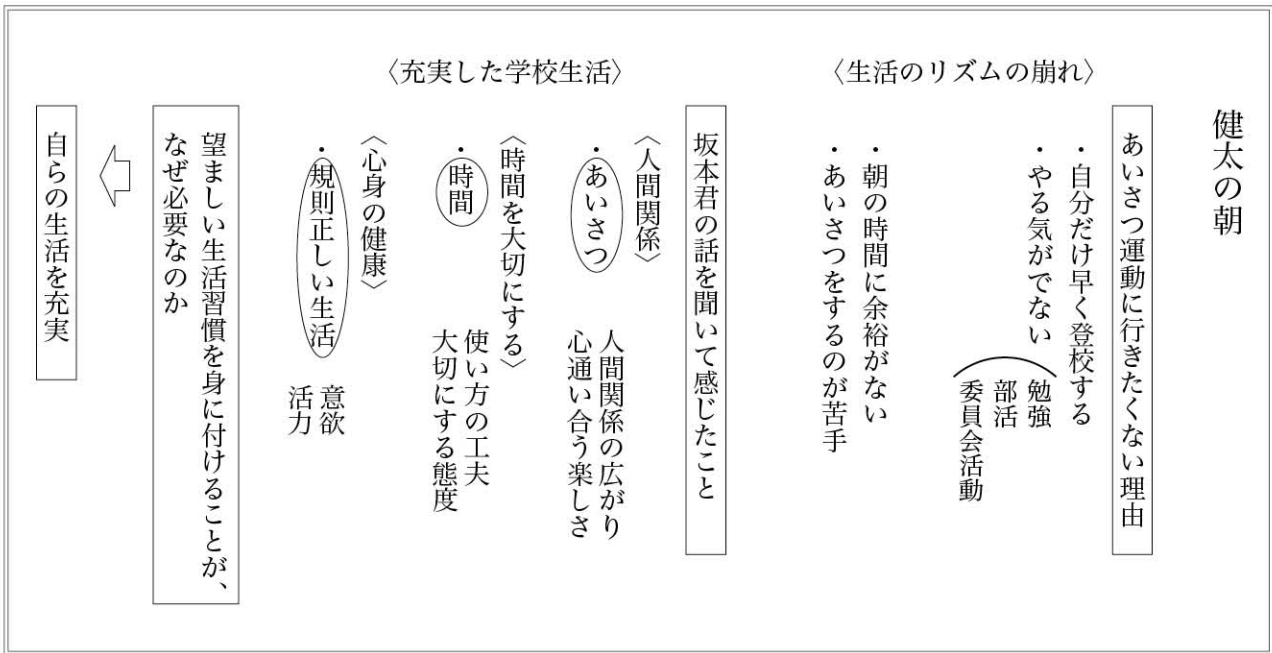
健太は、学生服を着て初めて校門をくぐつた日のことを思い出していた。何もかもが新鮮に感じられ、いろんなことに挑戦していこうと心に誓つた入学式の日の自分。

「坂本先輩、ありがとうございます。僕、頑張つてみます。」

「おう、明日も待つてるぞ。」

「はい！」健太は弾むように教室への階段を駆け上がつていった。

板書計画



道徳の時間の指導内容		1 - (1) 「望ましい生活習慣」との関連		
月	主題名	資料名	内容項目	出典
4	望ましい生活習慣	父の日覚まし時計	1 - (1) 「望ましい生活習慣」	日文
6	望ましい生活習慣	健太の朝	1 - (1) 「望ましい生活習慣」	市道徳
1	望ましい生活習慣	私の反抗期	1 - (1) 「望ましい生活習慣」	日文
「中学校道徳読み物資料集」(文部科学省発行)との関連		各教科等との関連		
・掲載例なし		<ul style="list-style-type: none"> <li>○健康と食生活</li> <li>○体づくり運動</li> <li>○中学生になって</li> <li>○長期休業中の過ごし方</li> </ul>		技家 保体 特活等 特活等

「私たちの道徳」との関連	
P. 10～15	調和のある生活を送る

道徳の内容の学年段階・学校段階の系統		1 - (1) 「望ましい生活習慣」
小学校第1学年及び第2学年	1 - (1) 健康や安全に気をつけ、物や金銭を大切にし、身の回りを整え、わがままをしないで、規則正しい生活をする。	
小学校第3学年及び第4学年	1 - (1) 自分のできることは自分でやり、よく考えて行動し、節度のある生活をする。	
小学校第5学年及び第6学年	1 - (1) 生活習慣の大切さを知り、自分の生活を見直し、節度を守り節制に心掛ける。	
中学校	1 - (1) 望ましい生活習慣を身に付け、心身の健康の増進を図り、節度を守り節制に心掛け調和のある生活をする。	

## 第1学年 道徳学習指導案

主題名 自律の精神 1－(3) 自主・自律

資料名 言えなかったひとこと 出典 大分市教師用道徳指導資料集編集委員会 作

ねらい 集会の時の主人公の心の動きを〈自律をめざす自分〉〈集団の中の自分〉等に着目してとらえることで、主体的に考え判断し自己の行為の結果に責任をもとうとする意欲を養う。

### 主題設定の理由

#### (1) 生徒の実態

中学生の時期は、自我に目覚め、自主的に考え行動することができるようになるであろう。しかし、一方では周囲の思惑を気にして、他人の言動に左右されてしまったりすることも少なくない。また、自分自身にかかわる行為が自分や他人にどのような結果をもたらすかということ进行深入考えることができない面も見られる。この時期の生徒に、これまでの自分を振り返らせる中で、自分の心の弱さ、甘えに気付かせ、それらを克服するうえで大切なことは何かについて考えを深めさせたい。

#### (2) 資料について

本資料では、友だちに誘われてお菓子を食べてしまった主人公が、自分の心に葛藤しながら食べてしまったことを認め、正直に手を挙げてあやまろうとしたが「食べる時に悪いとは思わなかったのですか」と指摘されたことにより深く反省し、どうするべきだったのかを考えている様子が描かれている。この資料を通し、自らの規範意識を高め、自分を律することができなければ同じような失敗を繰り返してしまうことを捉えさせることにより、主体的に考え責任ある行動をとろうとする意欲を高めさせたい。

### 指導について

導入段階では、なぜ学校生活にはきまりがあるのかについて、考えを出し合わせる。その後、資料を読んで、主人公が友だちに誘われるままにお菓子を食べたことを学年集会の中で反省し、あやまろうと手を挙げた時の心情を、自分のこれまでの経験と重ね合わせて共感的につかませたい。

執行部の一人の言葉が心に刺さるような気がした主人公の気持ちをとらえさせた後、「お菓子を食べたことはルールを破ったことだけが悪いのか」を考えさせることで、〈自律をめざす自分〉〈集団の中の自分〉等の観点から考えを出し合わせ「悪いことは悪い」という正しい判断ができなかったという事実の重さ、つまり「お菓子を食べてしまったという自分の心の弱さ」に気付かせると共に、そのことを自分の責任としてしっかりとらえさせたい。さらに、「同じ過ちを繰り返さないためには、どうすればいいのか」を考えさせることによって、誘惑に流されずに正しい判断から誠実に行動するためには、自分で考え、自分の意志で決めること、つまり自分を律することが大切であることにも気付かせたい。

終末では、「私たちの道徳」に今までの自分を振り返って気づいたことを書くことで、主体的に考え判断し自己の行為の結果に責任をもって生活しようとする意欲付けをしたい。



## 言えなかつたひとこと

二学期が始まってまもなく、教室でお菓子の紙くずが見つかりました。その後ベランダや特別教室でも見つけられ、このことについて学年集会が開かれることになりました。一学期のはじめに、この学年はみんなが『日本一の学年を作ろう』を目標に決め、クラスや学年で何か問題が起きると、いつもみんなで話し合いをして解決していました。しかし、お菓子などの不要物についての話し合いは一学期の終わりにもあり、みんなを持ってこないことを約束したばかりでした……。

集会が始まると生徒指導の先生から、お菓子の紙くずがまた見られるようになったことの報告がありました。そしてそれを受けて生徒会の執行部の呼びかけで話し合いが始まりました。

しばらく沈黙が続いたあと、一人が手を挙げました。みんなと視線をあわせないようにし、表情は堅く、少し青ざめています。そして、消え入るような声で「お菓子を食べてすみませんでした。」と謝ったのです。その後、二人、三人と手を挙げ、謝罪の言葉を口にする人が続きました。

実は私も部活の前に、何度か友だちとお菓子を食べたことがありました。いけないことだと思っただけ、仲良しの友だちから誘われたし、誰も見ていなかったので一緒に食べてしまいました。でも、その時の友だちはまだ手を挙げていません。私は離れたところにいる友だちの方を見ました。じつとうつむいて考え事をしているようです。一人とも黙っていればほかの人たちは知らないのです。わざわざ手を挙げて言う必要は無いのではないか……。そんな思いが私の心をおおい始めました。

その時、執行部の人が、

「本当にもう食べたことがある人はいませんか。正直に立つて下さい。」と重ねて言いました。「正直に」。何だか私に向かって言っているように聞こえてきました。「手を挙げるべきだ」という思いと、「そんな恥ずかしい思いをしなくても、この時間が過ぎるのをじつと待てばいいじゃないか」という思いがせめぎあい、胸が苦しくなつて下を向いていました。でも、「あやまらなきや、あやまらなきや」という思いでいつぱいになり、思い切つて手を挙げました。挙げた時は、それまであつたモヤモヤした気分が、すうつとなくなりました。周りを見ると、何人もの生徒が手を挙げていました。

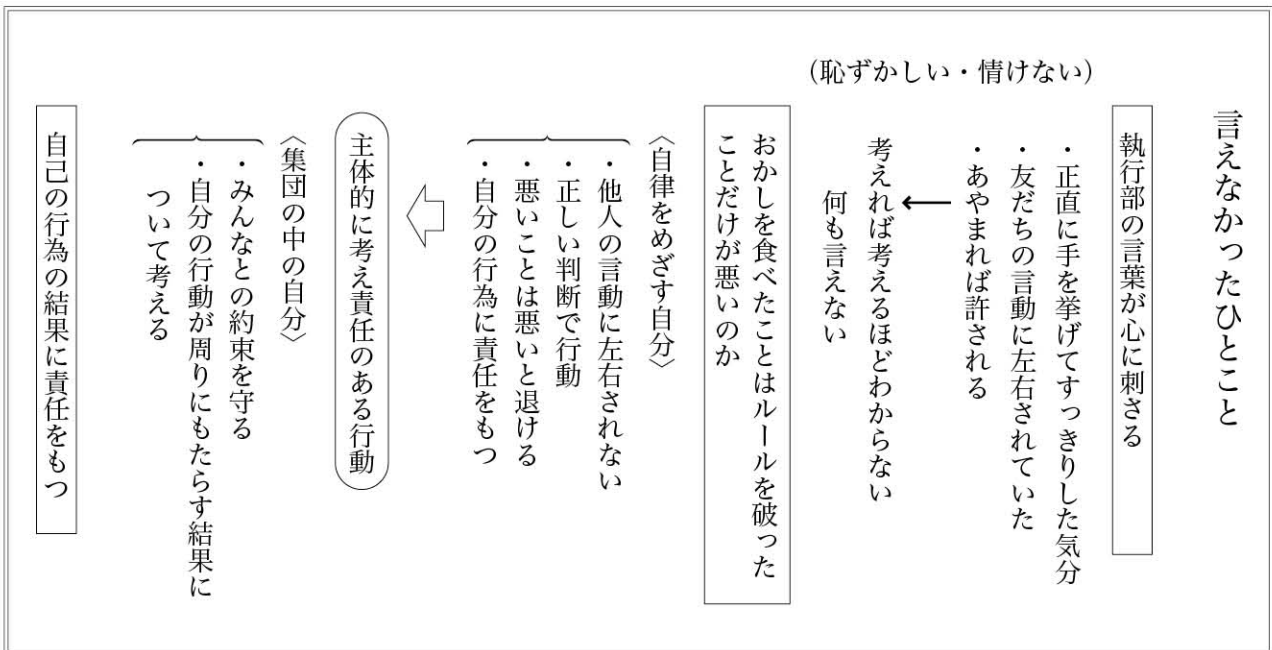
私もあやまろうと思った時、不意に座っていた執行部の一人が手を挙げて立ち上がり「あやまればそれでいいのですか、食べた人たちは、食べる時に悪いとは思わなかったのですか。」と泣きながら言いました。

それを聞いて、私はその言葉が心に刺さるような気がしました。と同時に、あやまればそれでいいと思つていた自分が情けなく思えました。今まで考えていた言葉じや足りない、みんなに何と言つたらいいのだろうかと、考えれば考えるほど分からなくなり、また黙つてしまいました。手を挙げた人たちもみんな黙つていました。

すると、生徒指導の先生が一人ひとりを見つめるようにしながら、「どうして同じ過ちを繰り返すのか、自分自身をもう一度ふりかえつて考えてみてごらん。それを考えることが今日の宿題だ。」とおつしやり、集会は終わりました。

帰り道、友だちと肩を並べて歩きながら、私はその宿題のことをずつと考え続けました。

板書計画



道徳の時間の指導内容

1-(3) 「自主と自律」との関連

月	主題名	資料名	内容項目	出典
6	責任をもって	二人の約束	1-(3) 誠実・責任	日文
10	自律の精神	言えなかったひとこと	1-(3) 自主・自律	市道徳
12	誠実な生き方	裏庭のでできごと	1-(3) 誠実・責任	日文
2	きまりの理解と遵守	オーストリアのマス川	1-(3) 法の遵守・権利義務	日文
「中学校道徳読み物資料集」(文部科学省発行)との関連			各教科等との関連	
P. 2~7	○町内会デビュー		○中学生になって ○校則について考える ○集団活動について ○大人への第一歩	特活等 特活等 特活等 特活等
P. 8~11	○スイッチ			
P. 12~15	○ネット将棋			

「私たちの道徳」との関連

P. 22~31	自分で考え実行し責任をもつ
----------	---------------

道徳の内容の学年段階・学校段階の系統

1-(3) 「自主と自律」

小学校第1学年及び第2学年	1-(3) よいことと悪いことの区別をし、よいと思うことを進んで行う。 1-(4) うそをついたりごまかしたりしないで、素直に伸び伸びと生活する。
小学校第3学年及び第4学年	1-(3) 正しいと判断したことは、勇気をもって行う。 1-(4) 過ちは素直に認め、正直に明るい心で元気よく生活する。
小学校第5学年及び第6学年	1-(3) 自由を大切に、自律的で責任のある行動をする。 1-(4) 誠実に、明るい心で楽しく生活する。
中学校	1-(3) 自律の精神を重んじ、自主的に考え、誠実に実行してその結果に責任をもつ。

## 第2学年 道徳学習指導案

主題名 誠実な態度 1－(3) 誠実・責任

資料名 田中君が教えてくれたこと 出典 大分市教師用道徳指導資料集編集委員会 作

ねらい 田中君の言葉に強い衝撃を受けた訳を<補欠としての役割><チームの一員としての満足感>等に着目して捉えることで、誠実に責任を果たそうとする態度を養う。

### 主題設定の理由

#### (1) 生徒の実態

この時期の生徒は、自我に目覚め、自主的に考え行動することができるようになってくる。しかし一方で、自分が周りからどう見られているのか気にするあまり意識過剰となり、体裁を繕ったり、非社会的言動が見られたりもする。また、生徒にとって自分に任されている役割を理解し、より良いものを求めて自ら判断し、自ら選択した行為を誠実に実行し、その結果に責任をもつことが求められている。そうした生き方が周りの人々との信頼関係を築いていくとともに、社会の中で人として誇りをもって生きていくことになることを自覚させたい。

#### (2) 資料について

本資料は、自分に任された役割を果たすために最大の努力を惜しまず行動した田中君の姿に心を打たれた主人公の様子が描かれている。駅伝大会の選手になった主人公は部活動を優先し、駅伝の練習をさぼることがあったが、大会当日選手として活躍する。一方、補欠の田中君は人知れず黙々と練習を重ね、大会当日走ることはなかった。大会後、主人公をはじめ、クラスのみんなは初めて田中君の隠れた努力を知る。田中君の「僕が走らなくてよかったです。」との言葉を通して、誠実に実行し、責任を果たすことの意味を考えさせたい。

### 指導について

資料を通し、自分自身の課題として深く考えることができるようにするため、導入段階では、今までの体験などから自らの行動と経験を振り返らせる活動を取り入れた。

展開段階では、補欠は楽でいいと思っていた主人公が、先生の話聞いて初めて補欠の選手の気持ちや、田中君が毎日地道に練習をしていたことなどを知る。それでも「僕が走らなくてよかったです」という田中君の言葉に出会うことで、自分が走らなくてもチームの成果や友人の活躍を賞賛し、自分自身が納得のいく役割の果たし方をした田中君の姿を通し、誠実に実行し、責任を果たすことのすばらしさを理解させたい。

終末段階では、田中君の言動を通して、自分が責任を持って誠実に取り組もうとすることを書かせることによって、自分自身の考えを整理し、自分の生活に生かせるようにさせたい。また、田中君の言動の純粹さにとどまらず、その言動が及ぼす結果についても深く考えられるようにしたい。

この指導は、行事にかかわる学級の取組と関連する指導として位置付けてもよいし、部活動の指導の一助としても活用できると思われる。





## 田中君が教えてくれたこと

教室の正面に一枚の賞状が掲げられている。冬季校内駅伝大会の賞状である。残念ながら一位ではないが、その賞状を見ていると僕はいろいろなことを思い出してしまう。

冬季校内駅伝大会は我が校の伝統行事となっており、クラスの友だちが選手と補欠、それに行事運営委員になってクラス対抗で競うのである。町内一周をコースとするため、地域の人たちも応援してくれるピックイベントの一つである。

しかし、今年の駅伝大会出場について僕は少し迷っていた。それは野球部の春季大会に向けて僕は少しでも部活の練習に時間を取りたかったからだ。補欠にでもなれば適当に練習をし、部活にも集中できると思った。

クラスの選手決めの時間になると、長距離走の得意な友だちが選手として決定していった。そしてあと一人となった時、僕と田中君が候補として残っていた。どちらからも言い出せず時間が過ぎていった。その時、山本君の「体育の先生に1500メートル走の記録を借りてきて決定しようよ」という一言で僕が選手として選ばれた。少し僕の方がタイムが良かったからだ。それから毎日、自分のコースを試走することをクラスで約束したが、僕は部活の練習を理由に時々さぼっていた。

ある日、試走を終えようとしていた時、暗くなったコースで試走する田中君に出会った。僕はすでに何度も走っていたが、それまで田中君に出会ったことは一度もなかった。次の日、僕は田中君に会うと「一日だけで楽でいいなあ」と声をかけた。けれどもそのとき田中君は何も言わなかった。

駅伝大会当日の朝は冷え込みが厳しかったが、レースが始まると寒さのことは忘れ気分が盛り上がっていった。いよいよ二位でたすきを受け取った僕は一人抜き、次のランナーにたすきを引き継ぐことができた。その後のランナーも順位を保ち、我がクラスは二位でゴール。クラスのみんなどは大いに沸いた。自分が二位に順位を上げたことをみんなにほめられ、僕は得意になっていた。田中君も笑顔で僕たち選手に大きな拍手を送っていた。

帰りの学活で先生はみんなの活躍をたたえ、クラス中が沸き返った。

しかし、先生が「みんなは走らなかつた選手のことを考えたことがあるか。」と話し始めた瞬間、クラスは静まりかえった。

「私は田中君が部活動の後、お父さんの運転する軽トラックのライトを頼りに試走しているところに出会いました。そのときは、やっているなと思いました。ところが次の日、また別のところを走る田中君に出会いました。また次の日も別の場所を走っている田中君に会いました。」

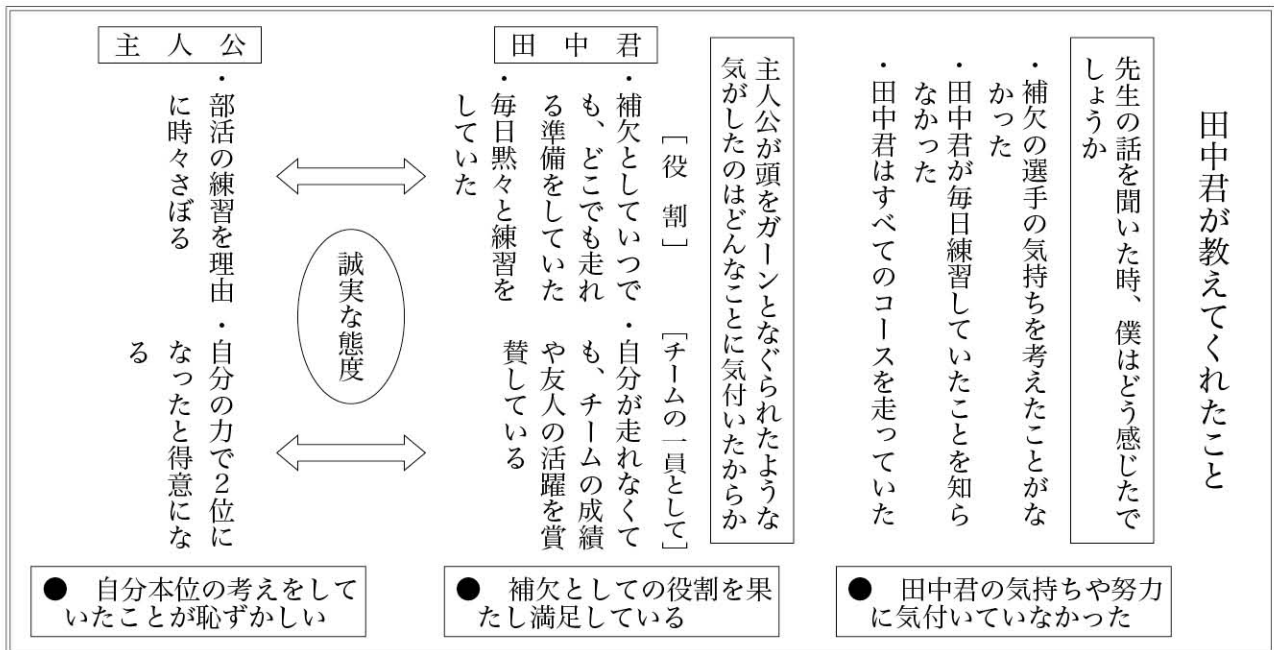
一瞬時間がとまったように感じた。それまで、僕は田中君がすべてのコースを走っていたとは思いませんでした。

最後に、先生が田中君を指名し、今日の感想を発表するように言われた。田中君は静かに立ち上がった。

「僕はいつ補欠で走るようになるか分からないので、どこでも走れるように練習しただけなんです。でも、僕が走らなくてよかったです。」

僕は、頭をガーンとなぐられた気がした。

板書計画



道徳の時間の指導内容		1 - (3) 「誠実・責任」との関連		
月	主題名	資料名	内容項目	出典
7	自主自律	スイッチ	1 - (3) 自主・自律	日文
9	誠実な態度	田中君が教えてくれたこと	1 - (3) 誠実・責任	市道徳
10	自立する力	自立をたすけた手紙	1 - (3) 自主・自律	日文
「中学校道徳読み物資料集」(文部科学省発行)との関連		各教科等との関連		
P. 2~7	○町内会デビュー	○説明のしかたを工夫しよう		国語 数学 理科 社会
P. 8~11	○スイッチ	○連立方程式		
P. 12~15	○ネット将棋	○物質の成り立ち		
		○身近な地域の調査		

「私たちの道徳」との関連	
P. 22~31	自分で考え実行し責任をもつ

道徳の内容の学年段階・学校段階の系統		1 - (3) 「誠実・責任」
小学校第1学年及び第2学年	1 - (3)	よいことと悪いことの区別をし、よいと思うことを進んで行う。
小学校第3学年及び第4学年	1 - (3)	正しいと判断したことは、勇気をもって行う。
小学校第5学年及び第6学年	1 - (3)	自由を大切にし、自律的で責任のある行動をする。
中学校	1 - (3)	自律の精神を重んじ、自主的に考え、誠実に実行してその結果に責任をもつ。

## 第2学年 道徳学習指導案

主題名 志をもって生きる

1 - (4) 理想の実現

資料名 祖父の話

出典 大分市教師用道徳指導資料集編集委員会 作

ねらい 「明治大分水路」を完成させた先人たちの米作りにかかる思いを<切実な願い><強い意志><協力>等に着眼して捉えることで、自らも理想をもって前向きに生きようとする心情を育てる。

### 主題設定の理由

#### (1) 生徒の実態

この時期の生徒は、自分の進路について、具体的に将来の職業や進学先を考え始める時期である。しかし、実際には将来の理想をもつことや、身近な目標の実現に向けて努力を持続し、達成させていくことに困難を感じている生徒も少なくない。精神的には自立を求める年齢にさしかかっているものの、困難を克服し、粘り強く取り組む忍耐力は十分に身に付いていない生徒もいる。そのため、理想と現実の狭間で楽な道を選んだり、曖昧な気持ちのまま張りのない生活を過ごしてしまったりすることもありがちなこの時期に、理想や目標を持って日々の生活を充実させていくことの大切さに、改めて気付かせていくことは大切なことである。

#### (2) 資料について

本資料は、明治32年に完成した「明治大分水路」に関する史実を基にしたもので、農業用水の確保に苦しんだ当時の人々の厳しい暮らしぶりや、水路建設に関わる多くの困難が祖父の話という設定で語られている。主人公の私同様、読み手としての生徒たちにとっても、心を揺さぶられるエピソードがいくつも紹介されており、身近な郷土の歴史であるということからも、興味・関心を持って読んでいくことが期待できる。特に水路完成に向けて幾多の苦難を乗り越え、最後まで諦めず理想を実現させていった当時の人々の姿から、多くのことを学ばせ、志をもって生きることの大切さに気付かせたい。

また、郷土の発展に尽力した当時の人々の姿や、今もなお自分たちの生活を支え続けてくれる用水路の存在を知ることは、同じ地域に暮らす生徒たちにとっても誇らしく、勇気付けられることであろう。

### 指導について

導入段階では、「はねつるべ」の絵を見せることで、当時の人々が田んぼに引く水を確保するのに苦労していた様子を大まかにつかませ、資料への興味・関心をもたせるようにさせたい。

展開段階では、「主人公が見慣れた風景を新たな感動をもって眺めるようになったのはなぜか」、「水路を完成させた人々は、どんな思いを持っていたのか」という2つの発問で生徒の考えを深めていくことによって、昔の人の苦労を知るだけでなく、水路の完成には先人たちの多くの思いがあったことを理解させたい。特に、当時の厳しい生活環境等も適宜補助的な説明を加えながら、困難な状況に立ち向かい、理想を実現していった人々の喜びや成就感の大きさも共感的に感じ取らせたい。

終末段階では、理想をもつことやそれを実現させるための取組について、生活経験を振り返りながら感想を書かせることで、理想をもって前向きに生きるということ、自分の課題と受けとめさせたい。生徒たちは、自らの生活経験の中で、理想の実現には、別の道への誘いや、いくつかの困難が立ちはだかっていることも知っている。しかし、そこには、支えてくれる人々がたくさんいることに気付かせるとともに、心揺さぶる感動が喜びとなり、生きるエネルギーにつながることも感じ取らせたい。



## 祖父の話

私の通う中学校は、大分市の中心部からやや離れた郊外の、周囲に田園風景が広がる比較的のどかな環境の中にあります。初夏の一時期、田んぼは満々と水をたたえ、鏡のように空や雲を映し出し、田植えが終わるとまるでじゅうたんを敷き詰めたようになります。秋には黄金色の稲穂が風に波打ち、まるで四季折々の風景画のように私の心を満たしてくれるのです。

毎日、当たり前のように眺めてきたこの風景を、私が新たな感動をもって眺めるようになったのは、祖父の思いを知ってからです。祖父はおいしい米作りをするために、特に水の管理に気を遣うと言っています。田植えの直後は苗が根付くようしばらくの間は田んぼの水をやや深めにしたり、根をはらせるために中干しといって田んぼの水を抜いて土を乾かす時期を設けたりと、水の微妙な調整が必要だそうです。また、水路の草取りや清掃はもちろんのこと、日照りが続き水不足の時は、水を時間差で田んぼに引く工夫をしているそうです。祖父は「米作りは水が命なんだよ」と、ゆつくりこんな話を聞かせてくれたのです。

その昔、多くの人々が農業に従事し、汗水垂らして働いていた頃、毎年のお米の収穫は、生活を支え命をつなぐ大切なものでした。ですから天候に左右されない安定した収穫を得るために、当時の人々はずいぶん苦労したそうです。なかでも、田んぼに引く水の確保は、当時の人々にとって切実な願いだったといえます。特に、横瀬・植田・瀧尾さらには日岡・別保といった広大な農地を抱える右岸地域は、府内（大分）・熊本・宮崎の大名の領地や幕府（将軍）の領地が入り交じった小藩分立の状態であつたため、なかなか意見が合わず、水路を作ることができなかつたといえます。明治時代に入つてからも、何度も計画を見送られ、右岸地域の人々は何度となく落胆させられ、それでもなんとか水路をと願いながら、つらい農作業を続けていたそうです。

私の祖父は子どもの時分から、その当時のつらい農作業の様子をずいぶん聞かされて育つたのだそうです。水路のなかつた右岸地域では、少し日照りが続けば水不足の不安におびえなければならなかつたし、少なくとも三年か四年に一度は大旱魃（かんぼつ）で、収穫をあきらめなければならなかつたということです。また、当時田んぼに水を入れる唯一の手段は、ため池を掘り、「はねつるべ」と言われる道具でくみ上げた水桶の水を田んぼに流し込むというものでした。そのため、農家の人たちは、朝四時に起きて田百畝あたり四百杯の水を田んぼにくみ入れたといえます。その上、一度くみ入れても、どんどん地中に染み込んでいくし、蒸発も激しいので、午後にもう一度四百杯くまなければならなかつたそうです。これを長い夏中、親と子どもで毎日くり返すのですから、気の遠くなるような作業だったといえます。子どもたちは、眠い目をこすりながら時には泣きながら、つるべの綱を引いたそうです。こうした水の心配があつたため、稲作できる面積にも限度があり、右岸地域の農業の人たちの暮らしは、いつまでたつても貧しく、水路がほしいという願いが地主・小作を問わず先祖代々叫び続けられていたのだそうです。

「日照りが続いても、安心して暮らせるようになりたい。」「ため池掘りやはねつべなどのつらい労働から解放されたい。」そのために、「何としてでも大分川右岸の広大な田んぼの隅々にまで水を引き入れることのできる水路を築きたい。」という思いは次第に膨らみ、その実現を信じる人が一人また一人と、この水路建設に加わっていったそうです。実際には大変な苦労があつたらしく、初めに立てた計画では、一年だつた工期が二年四か月もかかり、当然工事費も予定していたお金を大きく上回り、四倍以上のお金がかかったそうです。皆が少しずつ出し合つても到底足りず、方々の知り合いに頼み込み個人的に借金をする人や銀行と何度も交渉してようやく調達できた資金も送金する手段がなく、現金のまま大阪から船で寝ずの番をしながら必死に持ち帰った人もいたそうです。中には必要なお金が払えず逃げ出す人もあつたといひます。工事もトンネルを掘っている最中、突然落ちてきた岩石に押しつぶされたり、川での作業中に溺死したりする人が相次ぎ、一時も油断できない中で、危険な作業を続けなければならないことが度々あつたそうです。けれども、決して挫折することなく、こうした困難をいくつもぐり抜け、明治三十二年（一八九九年）五月に「明治大分水路」としてようやく完成したのだそうです。

祖父は、今度は水道橋を指しながら、「あの水道橋はその時作られた長い長い用水路の一部なんだよ。挟間の川からくみ出した水を三十キロ以上運んで別保や三佐の方まで流れているんだよ。」と教えてくれました。その時私は、これまで当たり前のように毎日見慣れた水道橋や田んぼの風景が、これまでとは全く違うものに見えた気がしました。私には祖父の心には水路に託した当時の人々の思いが脈々と流れているのだなあと思いました。

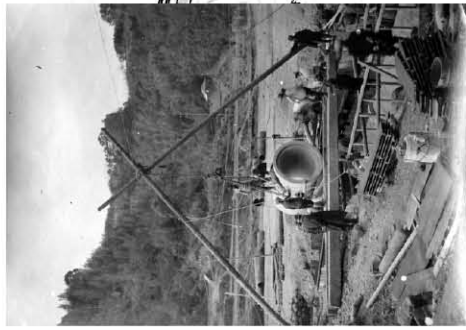


〔はねつるべ〕

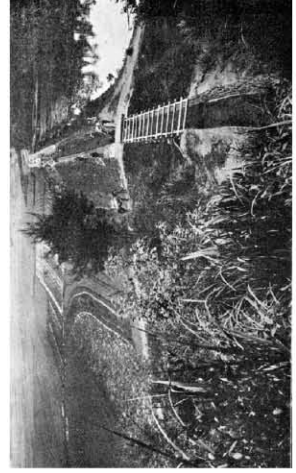
# 大分縣治今水路火圖



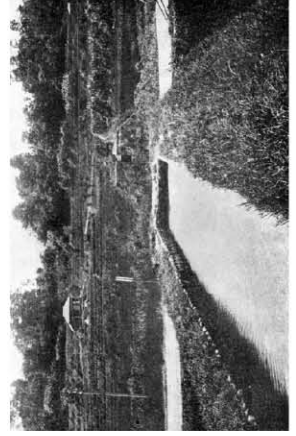
第12区明渠 大分郡東植田村字笹越



3区架樋 大分郡植田村横瀬字芝尾谷

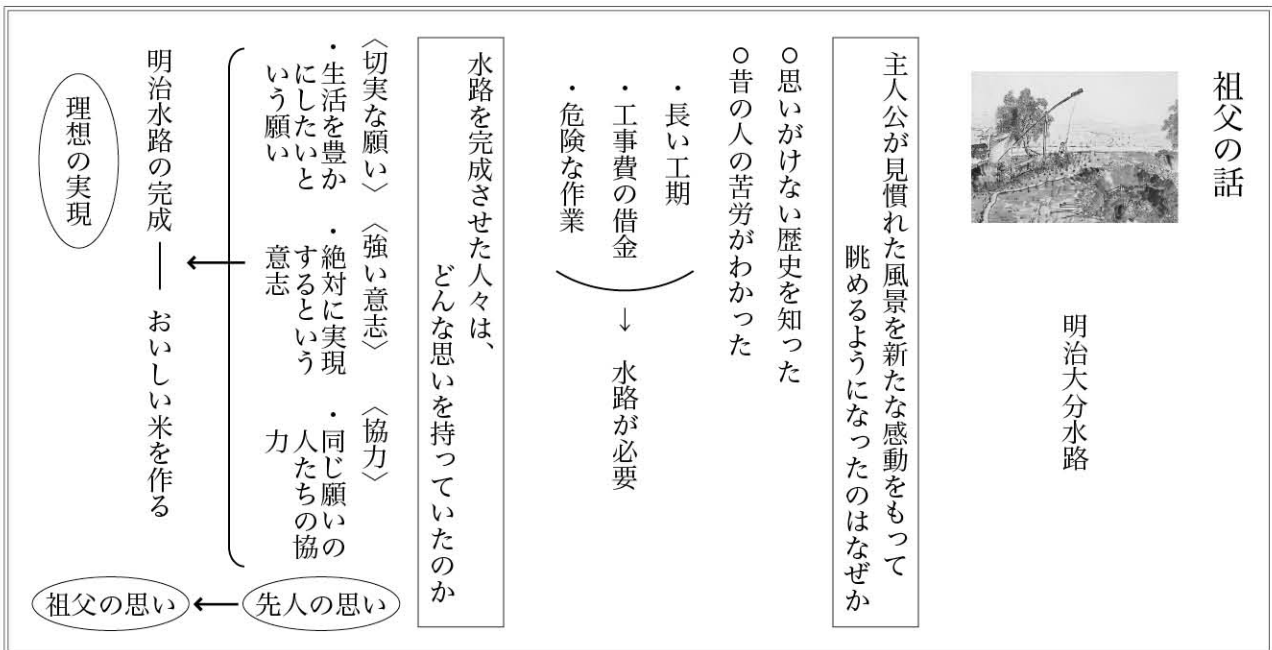


掘割架樋 別保村大字皆春字美操



国道付越 別保村大字皆春今堤

板書計画



道徳の時間の指導内容		1 - (4) 「理想の実現」との関連		
月	主題名	資料名	内容項目	出典
5	くじけない心	小さな勇気こそ	1 - (2) 希望・勇気	日文
6	理想の実現を目指して	戦争取材するジャーナリスト 山本美香	1 - (4) 理想の実現	日文
12	志をもって生きる	祖父の話	1 - (4) 理想の実現	市道徳
「中学校道徳読み物資料集」(文部科学省発行)との関連			各教科等との関連	
・掲載例なし			<input type="checkbox"/> アイスプラネット <input type="checkbox"/> 文字式の利用 <input type="checkbox"/> 日本美術の展開と世界交流 <input type="checkbox"/> コンピュータと情報処理	国語 数学 美術 技術

「私たちの道徳」との関連	
P. 32~37	真理・真実・理想を求めて人生を切り拓く

道徳の内容の学年段階・学校段階の系統		1 - (4) 「理想の実現」
小学校第1学年及び第2学年		
小学校第3学年及び第4学年		
小学校第5学年及び第6学年	1 - (5) 真理を大切にし、進んで新しいものを求め、工夫して生活をよりよくする。	
中学校	1 - (4) 真理を愛し、真実を求め、理想の実現を目指して自己の人生を切り拓いていく。	



## 第3学年 道徳学習指導案

主題名 自分ならではの生き方 1－(5)個性の伸長

資料名 磨けば光る原石 出典 大分市教師用道徳指導資料集編集委員会 作

ねらい 自分を磨くことで原石が光ることにつながるのかを<よさへの気付き><個性を伸ばし生かす生き方><認め高め合う人間関係>などに着目してとらえ、自分のよさを伸ばし、それを生かしていこうとする意欲をはぐくむ。

### 主題設定の理由

#### (1) 生徒の実態

中学生の時期は、自己理解が深まり、自分なりの生き方についての関心が高まり「いかに生きるべきか」といった命題に真剣に取り組むようになる時期である。しかし、その一方で、自分の姿を他人との比較においてとらえ、その至らなさに思い悩むことも少なくなく、他人と異なることへの不安から個性を伸ばそうとすることに消極的になりがちな時期でもある。

この時期の生徒に、これまでの自分や現在の自分、そして将来こう在りたいという自分について考えさせる中で、自分の個性に気付き、それを伸ばして充実した生き方を追求するうえで大切なことは何かについて考えを深めさせたい。

#### (2) 資料について

本資料は中学3年の2学期を迎え、クラスの数名で進路についての希望や悩みを出し合っている場面がシナリオ形式で構成されている。主人公の翔平が、自分の個性を伸ばしていこうとして努力している友だちから励ましやアドバイスを受けながら、資料のタイトルでもある「磨けば光る原石」の意味を考えることを通し、自分ならではの生き方を探っていこうとすることの大切さに気付き、進路に向かって新たな一歩を刻んだ様子が描かれている。

この資料を通して、主人公の心のつぶやきを追い、自分自身がどんな原石であり、どのようにして輝かしていこうとするかについて考えを深めさせ、そのような生き方に対する意欲を育てたい。

なお、シナリオをもとに役割演技（ロールプレイング）を取り入れた指導を工夫することも考えられる。

### 指導について

この時期の生徒は、自分では自分のよさに気付きにくいことや他人と比較して不安を感じたり焦ったりすることも多いと考えられる。そこで、欠点と感じていたことを別の見方をすることによって「よさ」ととらえることも可能になることを示唆し、友だちと互いのよさを指摘し合うことで、自分のよさに気付けるとともに自己受容感を高めさせたい。

また、「磨けば光る原石」という題に着目しその意味を考えさせ、原石とはダイヤモンドのような宝石だけを指しているのではなく、かけがえのない自分の個性を指していることに気付かせるとともに、輝かせる主体者は他でもない自分自身であることを理解させたい。

その際、原石を輝かせるためには努力することが必要と考える生徒は多いと予想される。しかし、一方どのように努力するか、努力するだけでいいのかなどの問いが生まれると考えられる。そこで「どう生きることが自分をみがくことにつながるのか」との問いをもち、個性を伸ばして生きるとはどんな生き方なのかということについて、考えを交流させる活動を組む。

終末段階において、自分の個性を伸ばし充実した生き方を送るためには、自分のよさに気付くだけでなく、他人の個性を尊重し、ともに高めあっていくことが大切であることを感じ取らせたい。

学習指導過程

過程	学習活動	指導及び留意点	評価の視点
導入 10分	1 心のノート32～33ページに自分の長所を記入する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自分の長所を見つけにくい生徒には、友だちから長所を指摘してもらおうよう、助言する。</li> <li>● 資料の題から内容を予想させる活動も考えられる。</li> </ul>	◆ 自分のよさの発見に努めているか。
展開 25分	<p>2 資料を読み「原石」が何を意味しているかについて考える。</p> <p>3 個性を生かし、伸ばしていこうとするうえで、どんなことが大切なのかについて考える。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>「ダイヤモンドの原石じゃなさそうだし」とつぶやいた時、主人公はどんな気持ちだったのだろう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 以降の文章事実や自分の経験等からも、自己受容できないでいる主人公の気持ちを共感的にとらえさせたい。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・自信が持てない・長所や適性に気付かない</li> <li>・得意や興味を生かしている友だちと比べている</li> <li>・勉強が苦手・心配している・悲観している</li> </ul> </li> <li>● 原石が個性を指していることを確認する。</li> </ul> <p>○ 原石を光らせるとは「努力すること」を意味すると考える生徒が多いと思われる。そこで努力が原石を光らせるのかとの問いをもたせ、個性を伸ばした生き方とはどんな生き方なのかについて考えを深めさせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>どう生きることが自分をみがくことにつながるのか</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 個性を伸ばすうえで大切なことについて考えたことを自分、他者、社会を視点として整理する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>&lt;自分を視点として&gt; <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分のよさ（可能性、個性）に気付くこと</li> <li>・夢や希望、目標をもち、自分を信じ努力を続けること</li> <li>・個性を輝かせる主体者は自分自身だと気付くこと</li> </ul> </li> <li>&lt;他者を視点として&gt; <ul style="list-style-type: none"> <li>・他者から自分のよさを指摘され自信をもつこと</li> <li>・互いのよさを認め高め合いともによりよく生きていこうとすること</li> <li>・責任転嫁や不必要な他者との比較をしないこと</li> </ul> </li> <li>&lt;社会を視点として&gt; <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会のためになることに自分のよさを生かしていこうとすること</li> <li>・個性を生かすことと自己中心的に生きることは全く違うと認識すること</li> <li>・個性の伸長が生きがいや人生の支えとなること</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>	◆ よさを認め合い、互いがよりよく生きていこうとする気持ちになっているか。
終末 10分	4 個性を伸ばすということについて自分の考えを書いて発表し合う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生徒一人一人が自分自身はどんな原石で、それをどうやって輝かせていこうとするのかについて、感想を書いて発表させることによって考えを深めさせる。</li> <li>● 本時では、人それぞれの個性を伸ばしていくうえで大切なことは何かを追求することがねらいであり、追求課題が進路選択の在り方に偏らないよう留意したい。</li> </ul>	◆ 自分ならではの原石の輝かせ方を考えているか。

## 磨けば光る原石

介護福祉士を目指している翔平のもとに、志望校からの合格通知が届いた。翔平はクラスメートの和樹、正人、由佳、美紀との半年前の会話を思い出していた。

翔平 あさつてはテスト。みんな、勉強進んでる。

和樹 それが、全然なんだ。部活動が終わって二か月になるのに、まだ、切り替えができなくて、勉強の方はなかなか本気モードになれないよ。正人くんは？

正人 うん、まあまあ。ぼくは高校に進学して、大学にも行きたいから。

和樹 そうか、正人くんは成績がいいからなあ。

正人 そうでもないよ。和樹くんには野球があるやん。チームでも一番練習熱心で、部活を引退しても、毎朝欠かさず自主的にランニングや素振りをしている姿は、同じ野球部員として頭が下がる思いだよ。名門高校に進んで、野球を続けたいんでしょ。

和樹 うん、そのつもり。でも、通用するかどうか、ケガをして野球ができなくなったらどうしようとか、不安ばかりで…。勉強も今からで、受験に間に合うかなあ。

由佳 私たちは受験のために勉強させられているつてわけなの。「勉強したい気持ちをもっていることが大事」つて先生よくおっしゃっているじゃない。

翔平 (心のつぶやき) そうは言っても、あと半年しかないと思うと、焦る気持ちもよくわかるよなあ。

由佳 美紀さんのおうちのおばあちゃんには二年前に病気で半年も入院して、その間に英語の勉強を始めたんだつて。今年、検定試験で三級をとったんだよ。ねえ、美紀さん。

美紀 うん。もうすぐ六十五歳で、病気は完全に回復はしていないけど、今度はエアロビクスを始めるつてはりきつているよ。「先のことを考えて悲観的になると前に進めない。やりたいことがまだまだたくさんある。」だつてさ。

翔平 (心のつぶやき) 十五歳のぼくたちが焦る必要はないつてことかなあ。

和樹 そうか。やりたいことがはつきりしていて、健康なのに、自信のなさやケガをしたときの不安とかを勉強に打ち込めない言い訳にしていた自分が恥ずかしくなるよ。

美紀 私は絵を描くことが好きだから、将来は自分が好きなことを生かせる仕事に就きたい。でも、親は反対しているの。「絵で食べていけるほどの才能でもないだろ」だつてさ。頭にきちやう。

由佳 私だつたら、そんなこと言われるとやる気なくなつちやうわ。美紀、目指している芸術系の高校に進めるといね。ところで、翔平くんはどうするつもり。

翔平 えつ、ぼく……。ぼくは何も取柄がないから、自分が何に向いているか、まだ全然わからない。高校には行かなぎや、とは思うけど、勉強も苦手だし…。「ダイヤモンドの原石も磨けば価値が上がるけど、磨かなければ、ただの石ころだ」つて、父さんがよく言うんだ。だけど……。 (心のつぶやき) みんなすごいなあ。

由佳 だけど、何？

翔平 なんでもない……。 (心のつぶやき) ぼくなんかそもそもダイヤモンドの原石じゃなさそうだし…。

美紀 翔平くんにもいいところたくさんあるよ。いつも明るい声であいさつして教室に入ってくるし、帰りには机の整頓や戸締まりをしてくれているよね。

和樹 ゴミが落ちていたら進んで拾うし、ノートやプリントを配るときに「はい、〇〇さん。」つて、誰にでも分けだてなく接しているところとか、すごいと思うよ。

翔平 そう言ってくれるのはうれしいけど……。 (心のつぶやき) 磨いてもただの石ころじゃ光らないよ。

正人 ダイヤモンドつて摂氏八〇〇度で燃えて二酸化炭素になってしまうつてさ。だからダイヤモンドで石焼きイモは作れない。

美紀 道端や河原の石にもいろいろな大きさや形がある。漬け物石だつて、建物や線路の土台になる砂利石だつて、それぞれに重要な役割があるんじゃないかなあ。

翔平 ぼく、何になろうかなあ。 (心のつぶやき) どうやつて輝く石になろうとするか、そのことが大切だつてことなのかなあ。

板書計画

磨けば光る原石

ぼくなんか、ダイヤモンドの原石でもなさそう…

○自信がもてないでいる…無力感

・長所や適性に気付いていない

・他人と比べている

・勉強が苦手

○心配している…焦燥感

・受験に間に合うかなあ

○悲観的になっている…自己否定

・ただの石ころなら磨いても光らない

どう生きることが自分をみがくことにつながるのか

〈自分を視点として〉

○自分のよさに気付く

○夢や目標↓自信↓努力↓継続

○個性↓輝かせる主体は自分自身

〈他者を視点として〉

○よさを認め合う↓高めあう

○責任転嫁や不必要な比較↓非生産的

〈社会を視点として〉

○社会のために自分のよさを生かす

○個性を伸ばす↓生きがい、人生の支え

○個性と自己中心的の違いを認識

あなたは個性をどのように光らせる？

個性

←

磨けば光る

→

原石

道徳の時間の指導内容

1 - (5) 「個性の伸長」との関連

月	主題名	資料名	内容項目	出典
7	充実した生き方を求めて	新しい夏のはじまり	1 - (5) 個性の伸長	日文
11	個性を伸ばす	磨けば光る原石	1 - (5) 個性の伸長	市道徳
12	謙虚に生きる	「関係ない」ということば	2 - (5) 寛容の心・謙虚	日文
「中学校道徳読み物資料集」(文部科学省発行)との関連			各教科等との関連	
・掲載例なし			○読書生活をデザインしよう ○Let's Create! ○LET'S READ 1 A Pot of Poison!	国語 音楽 英語

「私たちの道徳」との関連

P. 38～45 自分を見つめ個性を伸ばす

道徳の内容の学年段階・学校段階の系統

1 - (5) 「個性の伸長」

小学校第1学年及び第2学年	
小学校第3学年及び第4学年	1 - (5) 自分の特徴に気づき、よい所を伸ばす。
小学校第5学年及び第6学年	1 - (6) 自分の特徴を知って、悪い所を改めよい所を積極的に伸ばす。
中学校	1 - (5) 自己を見つめ、自己の向上を図るとともに、個性を伸ばして充実した生き方を追求する。

## 第3学年 道徳学習指導案

主題名 自分の弱さに屈しない 1 - (2) 強い意志

資料名 7.5メートルからのジャンプ 出典 大分市教師用道徳指導資料集編集委員会 作

ねらい 再び飛び込み台に立とうとした主人公の気持ちを＜達成した際の成就感＞＜まわりの人たちからの励まし＞＜希望と勇気をもって生きる崇高な生き方への憧れ＞などに着目してとらえることで、強い意志をもって前向きに努力を続け、夢や目標を実現しようとする意欲をはぐくむ。

### 主題設定の理由

#### (1) 生徒の実態

中学生の時期は好きなことや価値を認めたことに対しては意欲的に取り組む態度が育つとともに、理想の実現を目指し、希望や勇気をもって困難に立ち向かう崇高な生き方に憧れを抱く時期である。一方、障害や困難に直面し、挫折したり理想と現実の間で悩み苦しんだりすることが多くなる時期でもある。また、変化の激しい時代にあって価値観も多様化し、目標を立てにくい状況もみられる。

この時期の生徒にとっては、身近で日常的な努力によって達成できる目標をもたせるとともに、生活の中で具体的な目標を達成した経験を振り返らせ、目標達成の過程において困難が生じて、あきらめずに最後までやり遂げようとする気持ちを強くもち、達成することにより得られる充実感を味わう経験を積み重ねることが大切になると考えられる。

#### (2) 資料について

この資料には、コーチからの助言で競泳から高飛び込みに種目転向し国体出場を目指していた主人公が、恐怖心や練習の辛さから限界を感じ挫折しそうになったときに、一人の陸上競技選手のエピソードを知り「自分に負けたくない」との強い思いを抱くことにより、その後、練習を再開する姿が描かれている。

困難や挫折を乗り越える経験から、自信と勇気をもって次のより高い目標に向かって努力しようとする意欲、人生の理想や目的を達成しようとする強い意志が養われ、生きることへの希望がはぐくまれるということを感じ取らせたい。

人には立ち向かおうとする強い自分と逃げ出したいという弱い自分の両面があると考えられる。練習を休んでいたときの資料の中の主人公の気持ちに寄り添いながら、弱い自分とどのように向き合い、どのように強い自分となっていくかについてじっくりと考えさせたい。

なお、本資料中に取り上げている陸上選手を題材にした平成11年度大分市立中学校卒業式告辞をP.37に掲載している。

### 指導について

生徒一人一人が夢や希望に向かってがんばっていることやあきらめそうになったときのことを想起させることにより、夢や希望を実現させるために支えとなることや必要なことは何かという課題をもたせたい。

主人公が練習を再開したときの気持ちを考えることにより、生徒は目標を達成するためには、夢や希望を抱くだけでなく、身近に支えてくれている人がいること、達成できたときの喜びや感動をイメージすること、希望や勇気をもって試練や逆境に立ち向かいひたすら自己の向上を図っていかようとする崇高な生き方に憧れをもち自らを奮い立たせること、なんとしてでも成し遂げようとする強い意志をもち続けることなどが大切であることに気付くであろう。

また、終末段階において、座右の銘を考え発表させる活動や資料中に紹介されている陸上競技選手の関係資料を読み聞かせ、感想を書かせるなどの活動等も考えられる。

学習指導過程

過程	学習活動	指導及び留意点	評価の視点
導入 10分	1 目標をもって努力していることや実現が困難であきらめた経験を発表する。	○ 目標の達成に向けて努力していることについて大いに賞賛する。一方、挫折や自信喪失などの経験を発表した生徒の気持ちを共感的に受け止める。 ● がんばっていても、くじけそうになる時がある。どうすればいいかの問いを共有できるようにする。	◆ 夢や目標を持ち、実現に向けて努力しているか。
展 開 30分	2 資料を読み、主人公が練習を休んだ理由を考える。  3 主人公の気持ちなぜ変わったのか、どう変わったのかを考える。	○ 自分の経験と照らし合わせ、主人公の思いに寄り添って主人公が練習を休んだわけを考えさせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">練習を休んだ時、主人公はどんな思いだったか。</div> <自分を視点として> ・いやだ ・やめたい ・逃げたい ・自信がもてない ・自分が浅はかに思える <相手を視点として> ・周りの励ましを素直に受け入れられない <自分と相手との関係性を視点として> ・強化選手なのにこのままやめていいのか ・自分で進んで始めたわけではない  ○ 「何かが違う静かな気持ち」に着目して、主人公の気持ちの変化を感じ取らせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">再び挑戦する意志をもったのは、どんな思いからか</div> ● <成就感><励まし><崇高な生き方への憧れ>などの視点から、感動をきっかけに主人公が「自分に負けたくない」との強い気持ちを抱いたことへと考えを深めさせたい。 ・競泳でも飛び込みでも敗北する自分が情けない ・やる気に充ち国体出場を目指そう ・きっと国体選手になるぞ ・コーチや家族の支えに応えよう ・可能性を自らあきらめたくない ・もっと過酷な困難を乗り越えている人がいる ・自分に負けたくない	◆ 主人公が「自分に負けたくない」との強い意志で困難に立ち向かおうとする気持ちになっていたことを感じ取っているか。
終末 10分	4 必ずやり遂げようとする目標を立て、あきらめそうになった時にどうするかについて自分の考えを書く。	○ 目標は必ずしも遠大なものでなければならないというわけではなく、身近で日常的な努力によって達成できるものでもよいことを伝える。 ● 「座右の銘」を考え、発表しあう活動や平成11年度大分市立中学校卒業式における大分市教育委員会の告辞文を読み、感想を書くなどの活動も考えられる。	◆ 強い意志をもってやり遂げようとする自分の目標を立てているか。

## 七・五メートルからのジャンプ

ぼくは、小学校二年生の時に競泳選手になることを夢見て、水泳を始めました。いろいろな泳法を身に付け、まわりの人たちからよくほめられました。しかし、小学校五年生になった頃、ぱたりと記録が伸びなくなり、夢だった競泳選手になることをあきらめかけていました。その時、コーチから思いがけない言葉を聞いたのです。「君は飛び込みに向いている。やってみないか。」これから、どうしようかと迷っていたぼくは、すぐに「やってみます。」と返事をしていました。翌日、初めて飛び込みの練習場に行きました。七・五メートルの高さの飛び込み台を真下から見上げると、それだけで思わず足がすくんでしまいました。しかし、後悔の気持ちが芽生える間もなく、コーチははここにこしながら練習メニューを話してくれました。最初は一メートルの高さからの練習です。ぼくは、ほっとしました。毎日練習を重ね、そのたびに自分でも信じられないくらい基本技術がどんどん上達し、練習が楽しくてたまりませんでした。飛び込みの練習を始めて半年ほどたった時、ぼくは国体の強化選手に選ばれました。それからというもの、練習は日に日に厳しく、高度になっていきました。それでもぼくの技術は向上し、飛び込み競技に自信とやりがいを益々感じていきました。家族にも友達にも、そのことを得意になって話しました。ぼくは内心、「自分には飛び込みの素質がある。天才かもしれない。」などと思っていました。

ついに、競技大会に出場するための難度の高い技に挑戦する時がきました。「後踏み切り前宙返り二回半」という技です。ぼくはなぜか、できないことはないという自信を抱いていました。しかし、実際に練習を始めてみると、何度やっても同じミスの繰り返しです。着水がうまくいきません。コーチからは厳しい言葉が浴びせられます。着水に失敗するたび、七・五メートルの高さから水面にたたきつけられ、全身がバラバラになったような激痛を感じます。これまでの自信は何だったのでしょうか。そのうち、飛び込み台に上がるのも怖くなり、ぼくは日ごとに暗く無口になっていきました。そして、とうとう練習を休んでしまったのです。チームメイトも家族もみんな心配して声をかけてくれるのですが、むしろそのことがうつとうしく思えて、「構わないでくれ」という気持ちにさえなっていました。

練習を休んで三日目のことでした。家に帰ったぼくの机に一本のビデオテープが置いてありました。それはある若き陸上競技選手の生き方を取り上げたテレビのドキュメンタリー番組の録画テープでした。彼女は高校二年生の時に競歩という競技でオリンピックに出場し、将来を囁望されたアスリートでした。そんなある日、路上練習中に彼女はなんと十トンのダンプカーにひかれてしまったのです。その瞬間、誰も言いたくない絶望を感じていました。集中治療室での昏睡状態から覚めたのは、忌まわしい事故から四日も経つてのことでした。その直後、驚くべきことに彼女は「走りたい」との意思を示すのです。「可能性のすべてをかけて挑み続けたい。」その一念で全身を襲う激痛や移植した人工じん帯が引き起こす拒絶反応に立ち向かい、奇跡的なカムバックを果たした彼女をたたえるかのように、番組のナレーターが語りかけます。「私はあきらめない。」

何かがぼくの胸に熱くほとばしりました。「ぼくは今まで何のために飛び込みの練習を重ねてきたのか。挫折を感じて、逃げ出すためなのか……。」ぼくは考えました。「何位でも構わない。しかし、自分には負けたくない。」翌日、ぼくは家族やチームメイト、コーチからのあたたかな眼差しを感じながら、練習を休む前とは何かが違う静かな気持ちで飛び込み台に再び立っていました。

板書計画

立ち向かおうとする自分

- ・ やる気
- ・ コーチや家族の支え
- ・ 私はあきらめない
- ・ もっと過酷な困難を乗り越えている人

自分に負けたくない

逃げたしたくなる自分

- ・ 強化選手なのにやめていいの
- ・ 自分から進んで始めた訳ではない

再び挑戦する意志をもったのはどんな思いからか

七・五メートルからのジャンプ

練習を休んだ時、主人公はどんな思いだったか

〈自分〉

- ・ いやだ。やめたい。逃げたい
- ・ 自信がもてない
- ・ 自分が浅はかに思える

〈相手〉

- ・ 素直に励ましを受け入れられない

〈関係〉

〈成就感〉〈励まし〉〈憧れ〉

- やる気
- 努力
- 才能
- 情熱
- 好き
- 励まし
- 憧れ

など

強い意志

道徳の時間の指導内容

1 - (2) 「強い意志」との関連

月	主題名	資料名	内容項目	出典
4	強い意志	“ちょっとだけ頑張る”ことを、毎日続けてみよう	1 - (2) 強い意志	日文
5	自分の弱さに屈しない	7.5メートルからのジャンプ	1 - (2) 強い意志	市道徳
11	くじけぬ心	どんなときでも自分を信じて	1 - (2) 強い意志	日文
「中学校道徳読み物資料集」(文部科学省発行)との関連			各教科等との関連	
・掲載例なし			<ul style="list-style-type: none"> <li>○説得力のある考えを述べよう</li> <li>○式の展開と因数分解</li> <li>○水泳／ダンス</li> <li>○私との対話</li> </ul>	国語 数学 保体 美術

「私たちの道徳」との関連

P. 16～21 目標を目指しやり抜く強い意志を

道徳の内容の学年段階・学校段階の系統

1 - (2) 「強い意志」

小学校第1学年及び第2学年	1 - (2) 自分がやらなければならない勉強や仕事は、しっかりと行う。
小学校第3学年及び第4学年	1 - (2) 自分でやろうと決めたことは、粘り強くやり遂げる。
小学校第5学年及び第6学年	1 - (2) より高い目標を立て、希望と勇気をもってくじけないで努力する。
中学校	1 - (2) より高い目標を目指し、希望と勇気をもって着実にやり抜く強い意志をもつ。



〈参考資料〉

## 告 辞

本日、栄えある卒業式を迎えた皆さんに、教育委員会からお祝いの言葉を贈ります。

卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。今、皆さんの胸中には、中学校生活のさまざまな思い出がよみがえり、深い感慨にひたっていることと思います。

さて、西暦2000年の大きな節目に当たる今年、20世紀最後のオリンピック出場を目指す多くのスポーツ選手の中に、板倉美紀という競歩の選手がいることを知っていますか。

7年前、高校2年生の冬、彼女は練習中に交通事故に遭い、瀕死の重傷を負いました。全身を十箇所以上も骨折したうえ、肺が押しつぶされ呼吸困難に陥り、4日もの間、生死の淵をさまよいつけるのでした。奇跡的に一命をとりとめた彼女は、今なお、全身に残る傷の痛みと闘いながら、ひたすら練習に励んでいるのです。

誰からも再起不能だと思われていた彼女が、競歩にこだわり、死力を尽して歩き続けるのは、どうしてでしょうか。

幼いころから、走ることが大好きだった彼女は、中学校に進んで競歩と出会います。出場した大会ごとに記録が伸び、競歩への思いは次第に高まっていくのでした。その後、本格的なトレーニングを積み重ね、17歳にしてオリンピックの代表の座を勝ち取るのです。初めての国際舞台で世界のレベルの高さを知り、「このままではいけない。もっと強くならなければ。」と自分に言い聞かせ、練習に明け暮れていた矢先のことです。あのいまわしい事故が、陸上界の若きエースの運命を大きく変えたのでした。

家族が見守る中、4時間を超える大手術から目を覚ました彼女は、わずかに動く左手の指で、「はしりたい」の5文字を指し示すのです。競技復帰への恐るべき執念が驚異的な回復を生み、立っているのもやっとの体でトレーニングを再開します。半年後にはレースにもどり、誰もが「傷だらけのエースの復活」を喜び合うのでした。

しかし、それもつかの間、移植した人工じん帯は拒絶反応を起こし、全身を激痛が襲い、砕けた骨の代わりに埋め込んだボルトの重みでフォームが乱れ、出場したレースでは、途中棄権、失格を繰り返すばかりでした。そのうえ、無理なトレーニングが負担になったのか、貧血、そして腎臓の病気を併発するのです。次々にふりかかる過酷な試練に耐え、がんばってきた板倉選手も、ついに「もう、やめよう。」と、弱音をはくようになったのでした。

追い求めてきた夢をあきらめようとしていたその時、幼いころから板倉選手の心の支えになってきたおばあちゃんの「どんなときでも、粘り強く、前向きに生きていくのが美紀ではなかったのか。」の一言が、彼女に勇気を与えるのでした。「悩んでいるひまなどない。私にはやるべきことがたくさんある。」と、決意も新たに競歩への挑戦を始めるのでした。

それからの彼女は、見事な再起を果たし、再び、日本一の座をつかみとるのです。

「歩きたい。歩きつづけたい。可能性のすべてをかけ、歩くことに挑みつづけたい。それが、私の生きる証なのだから。」という板倉選手の言葉から、自分の目標をしっかりと見据え、夢に向って挑戦し続けることの大切さを学びとることができます。

卒業生の皆さん。人生は平坦な道ばかりではありません。どんな困難にも負けず、自分の可能性を追及し続け、納得のいく人生を歩んでいくよう期待してやみません。

終わりにになりましたが、教職員並びに保護者の皆さま、今、立派に成長した姿を目の当たりにして、万感胸に迫るものがあると思います。皆様方のこれまでのご薫陶とご苦労に対し、心から敬意を表しますとともに、お子様の限りない前途を祝福し、告辞といたします。

平成12年3月3日

大分市教育委員会

2の視点「主として他の人とのかかわりに関すること」の  
内容の趣旨と指導及び学習指導案・資料

## 「主として他の人とのかかわりに関すること」の内容の趣旨と指導

### (1) 2の視点について

#### ① 2の視点の意味

道徳の内容に示されている4つの視点は、すべての人間がもっている生活上のかかわりの対象を示している。したがって、子どもたちが望ましい道徳性を自らの内に培い、人間としての生き方についての自覚を深めていくためには、これら4つのかかわりのすべてを主体的にもてるような指導を充実させる必要がある。

- 1の視点「主として自分自身に関すること」  
自己の在り方を自分自身とのかかわりにおいてとらえ、望ましい自己の形成を図る。
- 2の視点「主として他の人とのかかわりに関すること」  
自己を他の人とのかかわりの中でとらえ、望ましい人間関係の育成を図る。
- 3の視点「主として自然や崇高なものとのかかわりに関すること」  
自己を自然や美しいもの、崇高なものとのかかわりにおいてとらえ、人間としての自覚を深める。
- 4の視点「主として集団や社会とのかかわりに関すること」  
自己を様々な社会集団や郷土、国家、国際社会とのかかわりの中でとらえ、国際社会に生きる日本人としての自覚に立ち、平和的で文化的な社会及び国家の成員として必要な道徳性の育成を図る。



＜2の視点は社会的存在としての人間の在り方や生き方を考える上で基本となる＞

- 道徳教育は、人間としてよりよく生きていく上で必要なさまざまなかかわりを主体的にもち、自ら考え、判断し、自律的に道徳的実践のできる人間の育成を目指している。したがって、道徳の基本は、よりよく生きる自己の確立にあり、それは、よりよく生きる他者の存在を必要とする。生きること自体、他の人の援助が不可欠であり、よりよく生きることは、他の人と豊かにかかわることによって実現していく。
- 人間は、一人一人がかけがえのない人格もっている。自分の人格と同様に、他の人の人格を尊重し、相互に豊かにかかわりをもつことによって望ましい集団や社会が形成される。

#### ② 他の視点との関連

- 1, 3, 4の各視点は、いずれも2の視点と相互に深い関連をもっている。子どもたちが自己理解を深め人間としての望ましい自己の確立を図るためには、他の人とのかかわりにおける他者理解や望ましい人間関係が必要になる。子どもの自己理解は、他者理解と密接に関係しており、人間関係そのものを通して自己が確立されてくる。
- 自然や崇高なものとのかかわりを通して人間としての在り方の自覚を深めるためには、他の人とのかかわりにおいて、人間と自然や崇高なものとの関連を理解し、人間の尊厳さを自覚することが根底になければならない。
- 集団や社会は様々な人々とのかかわりを通して成り立つものである。集団や社会とのかかわりを豊かにもつことは、同時に人間関係を深めていくことになる。集団や社会における人間としての生き方は、望ましい人間関係の育成とかかわってとらえることが大切である。

### (2) 2の視点の指導の観点

#### ① 道徳の時間での指導

道徳の時間は、各教育活動で行われる道徳教育を、全体にわたって調和的に補充、深化、統合し、道徳的実践力を育成する時間である。したがって、2の視点の指導においても、各教育活動でどのような指導がなされているのかを把握し、道徳の時間において発展的に指導していくことが大切である。

- 2の視点の指導
  - ・ 自己を他の人とのかかわりの中でとらえ、望ましい人間関係の育成を図るようになることを念頭において指導する。
  - ・ 特に4の視点「主として集団や社会とのかかわりに関すること」の指導との関連に留意する。

- 年間指導計画の作成
  - ・ 道徳の内容が4つの視点から分類整理して示されている趣旨を理解し、内容相互の関連を考慮した指導や3年間を見通した計画的、発展的な指導が行えるようにする。
  - ・ 特に2の視点は、集団での学習や活動を行う上で基盤となるものであり、学習や活動の成果そのものに影響を与える。学校や学級の実態に応じて内容項目を適切に位置付けられるように配慮する。
- 1つの内容項目にいくつかの道徳的価値が含まれている場合
  - ・ 分割して主題を構成することもできるが、その内容項目が強調している基本的な価値を十分に踏まえるとともに、一つのまとまりとして表されている意味を理解し、1年間を通して内容項目の全体が関連的、発展的に指導できるように工夫する。
- 各時間の主題の構成
  - ・ 自分が他の人とかかわりの中で存在し生かされていることの意味を深め、望ましい人間関係を創り出すとする意欲や態度を育てることに留意してねらいを設定し、資料を選定する。
- 指導過程
  - ・ 資料を媒介として人間関係を豊かにするためには何が必要なのかについて深く感じ考えることができるように工夫し、それによってよりよい人間関係を築いていこうとする意欲や態度を育てられるようにしていく。
  - ・ 人間関係において見られる一人一人のよさを把握し、それに気付かせたり、子どもたちの様々な人々との温かい交流に関する事例を紹介したりするなどの工夫を行う。

## ② 道徳の時間以外での指導

### (i) 各教科での指導

- ・ 学習指導要領の総則には、「教師と生徒及び生徒相互の人間関係を深めるとともに、生徒が道徳的価値に基づいた人間としての生き方についての自覚を深め、家庭や地域社会との連携を図りながら、職場体験活動やボランティア活動、自然体験活動などの豊かな体験を通して生徒の内面に根ざした道徳性の育成を図られるように配慮しなければならない」ことが記されている。
- ・ 学校の教育活動全体を通して、教師と生徒及び生徒相互の人間関係を深めるように努める。
- ・ 学習活動そのものが人間関係を前提としていることに留意し、それぞれの学習活動の特質に応じて望ましい人間関係が育まれるように取り組む。
- ・ 各教科がそれぞれもっている固有の内容を取扱い、目標達成を目指す中で、2の視点の内容についても指導することができる。
- ・ 各教科の教材や活動内容を通して、それぞれの目標をより効果的に達成しようとするとき、留意すべきことに2の視点とかかわるものがある。

### (ii) 特別活動及びその他の教育活動での指導

- ・ 特別活動の目標に示されている「望ましい集団活動を通して」とか「集団や社会の一員として」は、望ましい人間関係、協力、相互信頼等が前提となって可能になることを示しており、2の視点の内容と深くかかわっている。  
 (例) 学級活動・・・担任の教師と生徒及び生徒相互の人間的なふれあいを基盤にして、寛容の精神や、信頼、友情、男女の信頼と敬愛、協力等の道徳性を育てることができる。
- ・ 特別活動における豊かな体験活動や人間関係に関する指導と、道徳の時間における2の視点の指導との関連を図ることが大切である。

### (iii) 日常生活での指導

- ・ 日常の社会生活を円滑に送るためには、2の視点の内容を自分の生き方として身に付け実践するようになることが大切である。
- ・ 日常生活での指導は、各教科や特別活動等における指導にもまして個々の生徒を個別に対象とするものであり、かつ直接的、具体的に望ましい行動を促す指導である。
- ・ 家庭や地域社会との連携を図り、生徒一人一人が実践できるように指導する必要がある。

# 學習指導案・資料

## 第1学年 道徳学習指導案

主題名 思いやり 2-(2) 思いやり

資料名 ユキさんのノート 出典 大分市教師用道徳指導資料集編集委員会 作

ねらい 「ありがとう」と言った主人公の気持ちを<ユキの行為に対して><ユキの思いに対して><クラスみんなの思いに対して>などに着目して捉えることで、多くの人の思いやりや支えにより自分があることに気付かせ、思いやりの心をもって人に接することができる態度を育てる。

### 主題設定の理由

#### (1) 生徒の実態

この時期の生徒は、人間は他の人とかかわりながら、互いに助け合い協力し合って生きていくことの大切さを理解できるようになってくる。しかし、人間的な交わりが希薄になりつつある社会環境の中、十分に人とかかわりをもてないことへの欲求不満から、利己的、自己中心的になりやすく、他を省みない行動をとることも多い。

そこで、他の人の思いやりや支えに触れ、それを素直に受け止めることによって、自分が多くの人によって支えられていることに気付かせるとともに、他の人の立場を尊重しながら、親切にし、いたわり励まし合いながら、ともに生きようとする気持ちを育てたい。その中で、自分も他の人も、ともにかけがえのない人間であることを自覚できるようにすることを大切にしたい。

#### (2) 資料について

本資料では、文化祭の合唱委員で伴奏者でもある主人公が、発熱のため学校を休んでいるときに見舞いにきた友だちの話にかえて疎外感を感じ、また、ユキが代わりに伴奏していることを聞き、一時は落胆する。しかし、そのユキから届けられたノートと彼女のメッセージに励まされ、再び伴奏者としてクラスのために頑張ろうとする姿が描かれている。

主人公の不安な気持ちが感謝の気持ちに変わっていったのは、ユキやクラスメイトの思いやりや支えを素直に受けとめた自分であることを追求することにより、日々の生活や現在の自分があるのは、多くの人の思いやりや支えがあることに気付かせたい。

### 指導について

導入では、「人から親切にされてうれしかったときはどんなときか」を出させ、自ら気持ちを振り返らせる活動を取り入れて資料に出合わせる。

資料を読み、久しぶりに朝練習に参加した「主人公がユキにありがとうと言ったのはなぜか。」を問い、<ユキの行為に対して><ユキの思いに対して><クラスみんなの思いに対して>の視点から主人公の気持ちを考えさせていく。ノートを取ってくれたなどユキの行為に対してだけでなく、練習に参加できないことで取り残された寂しさを感じている主人公の気持ちを理解し、共感したユキの気持ちに励まされたことに気付かせたい。

また、それによって、主人公もクラスの仲間の自分への思いを素直に受け入れ感謝し、それに応えようとしていることに気付かせたい。

終末では、自分が感謝の気持ちを伝えたい人にメッセージを書かせることで、日頃から多くの人々の思いやりや支えがあったことに気付かせ、思いやりの心をもって人に接しようとする態度を育てたい。

学習指導過程

過程	学習活動	指導及び留意点	評価の視点
導入 5分	1 自分が親切にされてうれしかったときの気持ちを振り返る。	○ 自分が人から親切にされたときの体験を思い出させ、発表させる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px 0;">人から親切にされてうれしかったときはどんなときか。</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・わからないことを教えてくれたとき</li> <li>・寂しいときに声をかけてくれたとき</li> </ul> ● 親切にしてもらったときにうれしかった気持ちに共感させながら資料に出合わせる。	◆ 親切にされてうれしかったときの気持ちを思い出しているか。
展  開	2 資料を読んで、「ありがとう」ときさやいたときの主人公の気持ちを考える。	○ 資料を読ませ、久しぶりに参加した朝練で、ユキに「ありがとう」と言ったときの気持ちを考えさせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px 0;">わたしがユキに「ありがとう」と言ったのは、なぜか。</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 休んでいたときの不安な気持ちが、朝練に再び参加して感謝する気持ちに変わった理由を&lt;ユキの行為に対して&gt;&lt;ユキの思いに対して&gt;&lt;クラスみんなの思いに対して&gt;等の視点から考えさせる。</li> </ul> <ユキの行為に対して> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ノートを写して持ってきてくれた</li> <li>・代わりにピアノを弾いてくれた</li> <li>・手紙を添えてくれた</li> </ul> <ユキの思いに対して> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「あなたの伴奏を思い浮かべながら」「やっぱりあなたの伴奏でないとだめだ」と言ってくれた</li> <li>・自分に感謝してくれている</li> <li>・クラスのために頑張っていることを認めてくれた</li> </ul> <クラスみんなの思いに対して> <ul style="list-style-type: none"> <li>・チカが朝練の連絡をしてくれた</li> <li>・以前と同じようにしてくれた</li> <li>・ピアノの椅子があげられていた</li> </ul> <li>● ユキの思いに対して着目すると思われるので、「手紙を何度も何度も読み返した」ととりあげ、主人公のうれしかった気持ちにより深く共感させる。</li> <li>● ユキの思いに対して意見が集中すると考えられるので、「ユキへの思いに対してだけか。」と問い、ユキを通じて感謝の気持ちがクラスメイトみんなに向かっていることに気付かせる。</li>	◆ ユキやクラスみんなの言葉や行為がわたしの心に響いていることに気付いているか。
35分	3 ピアノの前に座ったときの主人公の気持ちを考える。	○ 「みんなの輝く顔を見渡しゆっくりとピアノの前に座った」に着目し、わたしの気持ちの変化を考えさせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px 0;">みんなの顔が輝いて見えたのは、なぜか。</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・変わらないみんなの姿がうれしかったから</li> <li>・ピアノの前に自分の席があったことがうれしかったから</li> <li>・思いやりがうれしかったから</li> <li>・わたしもみんなと一緒にがんばろうと思ったから</li> </ul> <li>● 「みんなと一緒にがんばろう」という気持ちを捉えにくいときは、主人公が取り残された寂しさを味わっていたときの気持ちを振り返らせながら、クラスみんなの思いやりに素直に感謝できるようになったことに気付かせる。</li> <li>● みんなへの感謝の気持ちが一緒にがんばろうという気持ちにつながっていることにも目を向けさせる。</li>	◆ 主人公の心の中に思いやりや支えを素直に受けとめる感謝の気持ちが生まれたことに気付いているか。
終末 10分	4 感謝の気持ちを伝えたい人にメッセージを書く。	○ 感謝の気持ちを伝えたい人にメッセージを書かせ、紹介する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>● 「私たちの道徳」P.54～59の活用も考えられる。</li> <li>● 他者の思いやりに対して感謝の気持ちを言葉にして素直に伝えようとする心が、結果として自己と他者との心の絆をより強くするものであることに気付かせる。</li> </ul>	◆ 多くの人の思いやりや支えに対し、感謝の心をもって表そうとしているか。

## ユキさんのノート

わたしは、ベットの上でため息をついた。学校では、放課後の合唱練習が始まる時間だ。わたしは、初めての文化祭を楽しみにしていた。合唱委員として、またピアノの伴奏者として、合唱コンクールに向けて張っていた。伴奏者に決まってからは、夜遅くまで練習をした。合唱練習のない昼休みも、恵理たちに手伝ってもらって歌と合わせる練習もした。ところが、風邪をこじらせてしまい、熱が引かずに欠席が続いているのだ。

ピンポーン。玄関のベルの音がした。

「調子どう？」

「伴奏、ごめんね。みんな怒ってない？」

仲良しグループの恵理たちが見舞いに来てくれて、気になっている合唱の練習の様子を話してくれた。わたしが欠席してから、最初は録音した伴奏で練習をしていたそうだ。

(わたしがいなくても練習できているんだ……。でも、歌と伴奏がずれないのかしら。)

そんなことを思ったわたしは、恵理に尋ねてみた。

「そうなのよ。うまくいかなくて困っていたの。そしたらね、『わたしでよければ』ってユキさんが伴奏を引き受けてくれたの。」

(ユキさんが？そうかあ、わたしがいなくてももううまくいつているんだ……。)

恵理たちは学校での出来事やとりとめの話をして帰っていった。一人になったわたしは、頭から布団をかぶった。ユキの伴奏で楽しそうに歌うみんなの姿が目には浮かんだとたん、鼻の奥がツーンと痛くなり、涙が出てきた。放課後遅くまで合唱委員会でも話したことや、部活から帰って毎晩伴奏の練習をしたことなどが、次々とわたしの頭の中に浮かんで消えていった。

どれくらい時間がたったのだろうか。いつの間にか眠ってしまったわたしの枕もとに、一冊のノートが置かれていた。わたしは、そっと開いてみた。ノートには、わたしが休んだ日からの授業記録がとてわかりやすく、ていねいにまとめられていた。最後のページには、短いメッセージが記されていた。

いつもクラスのためにありがとう。わたしが転校してきたとき、最初に声をかけてくれてすごくうれしかったよ。あなたの伴奏を思い浮かべながら弾いているつもりだけど、なかなかうまくできません。やっぱりあなたの伴奏にはかなわないよ。早く元気になってね。みんな待っているからね。

ユキより

わたしは、ユキの手紙を何度も何度も読み返した。

それから三日後、恵理から朝練習の連絡を受けてわたしは久しぶりに登校した。ためらいながら音楽室の扉を開けると、そこには以前と変わらない友達の姿があった。

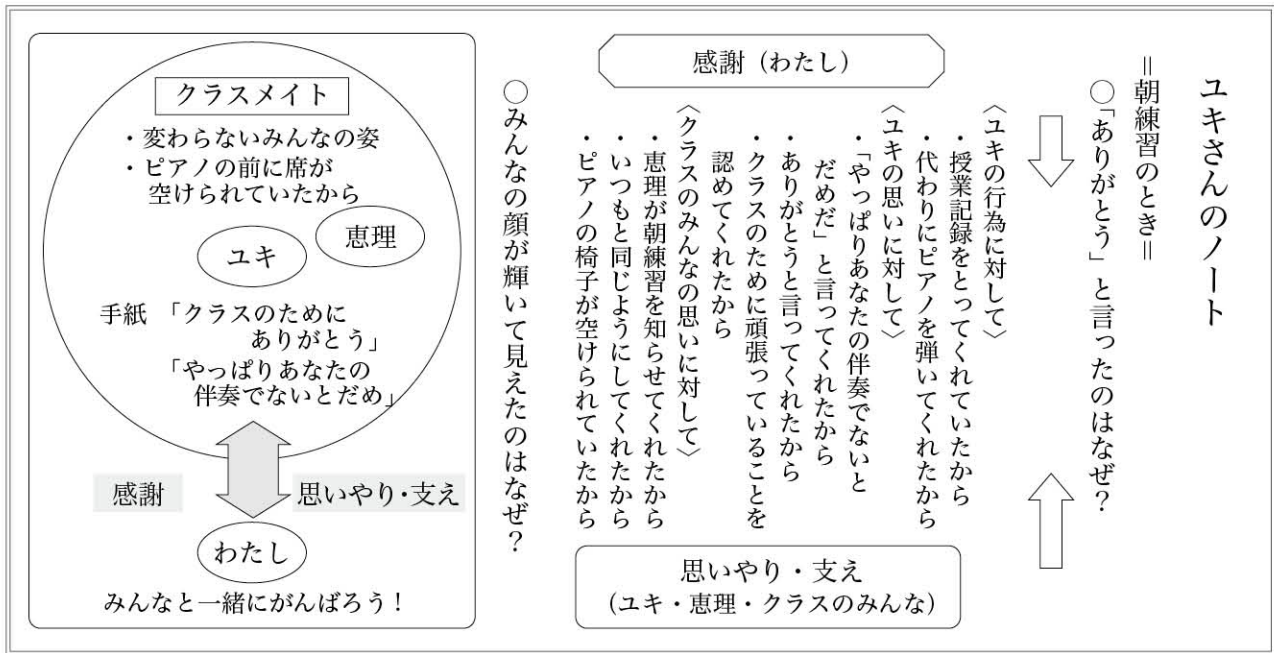
「よーし、これで全員そろったぞ。」

みんなそれぞれが、いつもの位置に並んだ。ピアノの椅子は、空けられている。前列には、うれしそうに笑っているユキの姿も見えた。わたしはユキに近づいて、「ありがとう。」

と、そっとささやいた。そして、みんなの輝く顔を見渡し、ゆつくりとピアノの前に座った。校舎に明るい歌声が響いた。



板書計画



道徳の時間の指導内容		2- (2) 「人間愛・思いやり」との関連		
月	主題名	資料名	内容項目	出典
4	本当の思いやり	橋の上のおおかみ	2- (2) 「人間愛・思いやり」	日文
11	温かい人間愛の心	ドイツにて	2- (2) 「人間愛・思いやり」	日文
1	思いやり	ユキさんのノート	2- (2) 「人間愛・思いやり」	市道徳
「中学校道徳読み物資料集」(文部科学省発行)との関連			各教科等との関連	
・掲載例なし			○いろいろなスケッチ ○楽しく伝える	美術 美術

「私たちの道徳」との関連	
P. 54~59	温かい人間愛の精神と思いやりの心を

道徳の内容の学年段階・学校段階の系統		2- (2) 「人間愛・思いやり」
小学校第1学年及び第2学年	2- (2) 幼い人や高齢者など身近にいる人に温かい心で接し、親切にする。	
小学校第3学年及び第4学年	2- (2) 相手のことを思いやり、進んで親切にする。	
小学校第5学年及び第6学年	2- (2) だれに対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にする。	
中学校	2- (2) 温かい人間愛の精神を深め、他の人々に対して思いやりの心をもつ。	

## 第1学年 道徳学習指導案

主題名 異性の尊重 2－(4) 異性の正しい理解と尊重

資料名 ファイト、オー 出典 大分市教師用道徳指導資料集編集委員会 作

ねらい 野球を続けていくことに悩みを抱いた主人公の気持ちを〈野球に対する思い〉〈女子だからという思い〉〈チームメイトに対する思い〉等に着目して捉えることで、異性の特性や違いをきちんと受け止め、相手の人格を尊ぶ姿勢をはぐくむ。

### 主題設定の理由

#### (1) 生徒の実態

この時期の生徒は一般に異性に対する感情や考え方に大きな差異が見られ、異性に対する関心やあこがれが様々な形で現れることがある。例えば意識的に異性を避けたり、逆に異性の関心を誘うような態度をとったりすることもある。素直に自分の気持ちを表現できず、やりきれない気持ちになることもある。あるいは興味本位のゆがんだ情報や間違った性知識を無批判に受け入れ、様々な問題行動に至ることがある。そこで真剣に異性のもつ見方や考え方を知り、それを基に自分の異性に対する姿勢を見直そうとする態度を養う指導が必要である。

#### (2) 資料について

本資料は、小学校時代に始めた野球を中学校でも続ける道を選んだ主人公が、技術力や体力の差という壁にぶつかり、女子だから無理なんだと思いこみ一時部活動を休んでしまうが、チームメイトからの偏見のない態度や励ましなどにより思い過ごしであったことに気付くとともに、何よりも野球が好きだという思いから改めて野球を続けていこうと決意していく姿が描かれている。

この資料を通して、異性の抱える悩みを正しく理解し、一人の人間としてお互いを認め合い尊重していく姿勢を育てるとともに、性差に関係なく自分の可能性に向かって挑戦していくことの大切さに気付かせたい。

### 指導について

導入では、異性の中で活躍する人物にスポットを当てた新聞記事などを紹介し、意欲付けを図る。

展開では、チームメイトに声をかけられた主人公がその日考え続けたことは何であったのかという問いを〈野球に対する思い〉〈女子だからという思い〉〈チームメイトに対する思い〉という視点で考えさせることにより、主人公の悩みの根底に「自分は女子だから..」という思いがあったことや、チームメイトの偏見のない態度に気付かせたい。

その後、野球を続けようと思った理由を考えさせることにより、チームメイトの偏見のない態度が、自身の思い過ごしや自分の野球に対する思いに気付かせてくれたことを押さえる。さらに、キャプテンの厳しい口調をうれしく感じた「今の私」の思いを考えさせ、チームメイトと主人公が、異性であるお互いの人格を尊重したことで、主人公が向上していったことに迫らせたい。

終末では、主人公にメッセージを書かせる活動を取り入れ、自分の異性に対する姿勢を見直すきっかけとしたい。

学習指導過程

過程	学習活動	指導及び留意点	評価の視点
導入 5分	1 資料に関連した内容の記事を読む。	○ 異性の中で活躍する人物にスポットを当てた新聞記事などを紹介する。 ● 記事の選択に当たっては、生徒に直接利害関係や影響がない人物であることに留意する。	
展  開	2 資料を読み、悩んでいる主人公の気持ちを考える。	○ 資料を読み、主人公がチームメイトに声をかけられた後、思いを巡らせる場面に着目させ、その時主人公が考え続けたことは何であったのか考えさせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">みんなの声が、頭の中を何度も行ったり来たりしたのはなぜか。</div> ● 「何度も」に着目させ、主人公が深く悩んでいたことに共感させる。 ● チームメイトに声をかけられた主人公が今までの自分を振り返りながら、野球・自分・チームメイトなどに対して抱いた様々な思いを考えさせる。 〈野球に対する思い〉 ・野球を続けるべきか ・努力してもこれ以上うまくならないのか 〈自分が女子だからという思い〉 ・小学校では、中心選手だったのに ・対等にやっていけるという自信はあったのに ・男子の中ではレギュラーは無理なのか 〈チームメイトに対する思い〉 ・みんな心配してくれていた ・好きな野球をする同じ仲間だと思ってきていた ● 主人公の悩みの根底に、「自分は女子だから…」という思いがあったことに気付かせるとともに、チームメイトの偏見のない態度に着目することにより、主人公のチームメイトに対する思いを、共感的に考えさせたい。	◆ 主人公の悩みを女子という立場で共感的に考えようとしているか。
30分	3 主人公の決意の理由を考える。	○ 悩んでいた主人公が再び野球を始めたいと思った主人公の気持ちの変化を感じ取らせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">「またみんなと一緒に練習させて下さい」と言ったのはどんな思いからか。</div> ● チームメイトの偏見のない姿勢が、「女子だから」という主人公の思い過ぎや好きな野球に対する思いに気付かせてくれたことを踏まえ、考えを深めさせたい。 ・チームメイトが対等に見てくれていた ・やっぱり自分は野球が好きだ ・悔いの残らないようにやりたい <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">キャプテンの厳しい口調が今の私にうれしく感じられたのは、どのような思いからか。</div> ・自分の気持ちを後押ししてくれた。 ・女子だからという自分の思い過ぎを吹き飛ばしてくれた ・男子と対等にやっていきたいという自分の気負いをなくしてくれた ・対等に扱ってくれている ● チームメイト（男子）と主人公（女子）が、異性であるお互いの人格を尊重したことで、主人公が向上していったことに迫らせたい。	◆ 好きなことをすることに性差は関係ないことを共感的に考えようとしているか。
終末 15分	4 野球を続ける決意をした主人公にエールを送る。	○ 主人公の決意を受け止め、今自分が悩んでいることなども踏まえて、主人公に向けてメッセージを書かせる。 ● 自分の持つ異性に対する姿勢を見直すきっかけとしたい。	◆ 異性の特性や違いを受け止め、よさを認め合おうとしているか。

## ファイト、オー

「ファイト、オー」

このかけ声をかけるようになって、もう六年になる。私は小学校二年生の時から兄の影響で少年野球チームに入っている。女子は私だけだったが、比較的体格も良く体力に自信があった私は、男子と一緒に練習メニューをこなしてきた。五年生の時には中心選手として活躍し、チームメイトからも信頼され充実した日々を送っていた。中学校に入学しても、ここまで続けた野球を辞める気にはなれず、当然のように野球を続ける道を選んだ。

しばらくは、友達から「野球部入っているって本当?」「女子一人で嫌じゃない?」などと言われたこともあったが、特に気にはしなかった。男子と対等にやってきたという自負もあり、これからもやっていけるという気持ちが強かったからだ。

入部して半年が経った。十一月初めの一年生大会を目標に頑張っていた。しかし、近頃は、速い球についていけず、何とか打ち返したボールもなかなか外野までは届かない。夏休みを過ぎたあたりからは、自信があったはずのベースランニングでも、どんなに頑張っても男子から抜かれそうになっていた。

一年生大会のメンバーが発着されたが、自分の名前が呼ばれることはなかった。男子の中でレギュラーになるのは難しいんだと思い始めた私は、その日以来、練習にも以前ほど身が入らず、ついにある日から無断で部活を休んでしまった。

数日後の朝の会が終わった後に、一年生の仲間の部員が私の周りに集まってきた。

「最近何で部活来んの。みんな心配してるぞ。」

(えっ、みんな?)

「真央まおのいない練習ってなんか変だよなあ、だつてずっと一緒に野球続けてきたからなあ。」

その時、少年野球時代からのチームメイトの司がつぶやいた。

「真央は野球好きなんだろう、負けず嫌いのお前がこれで野球やめてしまうん?」

その時、ちょうどチャイムが鳴った。私は返事をするこもなく教室に戻った。授業中なのに、さっきのみんなの声が頭の中を何度も行ったり来たりした。

放課後、荷物を片付けていた私の耳に、グラウンドから

「ファイト、オー」

という元気のいい声が聞こえてきた。

(みんな、もう練習してるんだ……)

そう思った途端、私は、キャプテンのところへ急いで走って行った。

「部活休んですみませんでした。でも私、やっぱり野球やりたいんです。またみんなと一緒に練習させてください。」

一気に言い終えた私にキャプテンは

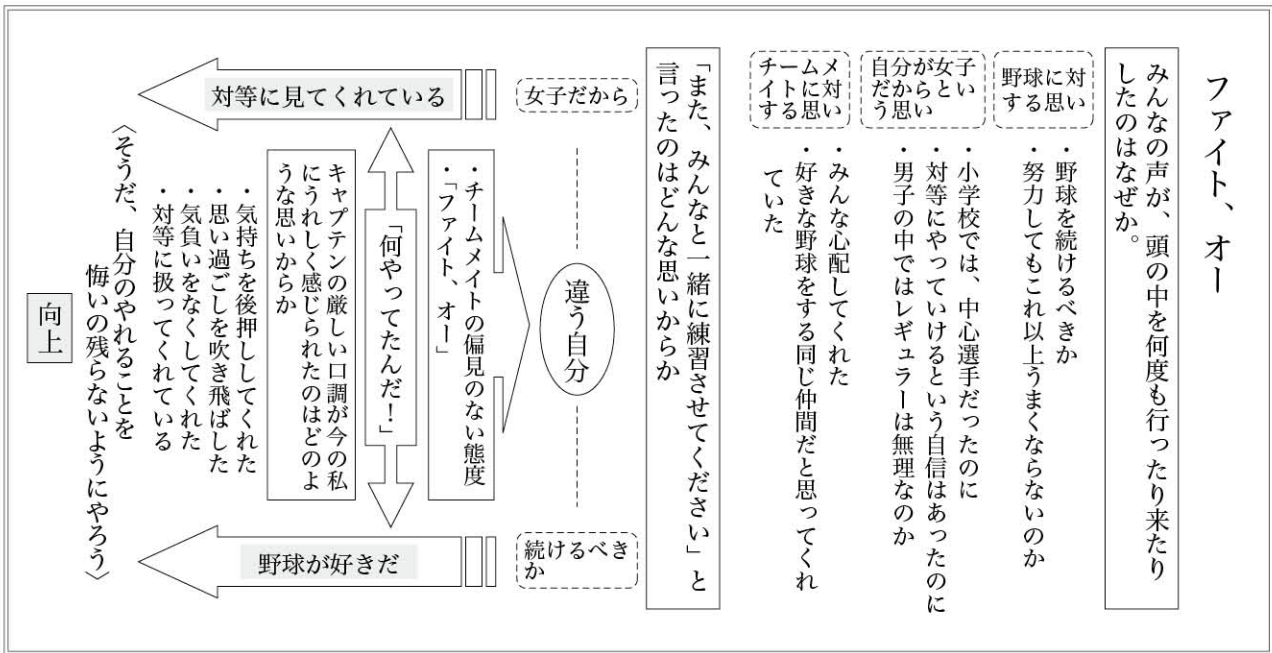
「何やってたんだ。すぐユニフォームに着替えてこい!」

私の思い過ごしを吹き飛ばすような一言だった。

〈そうだ、自分のやれることを悔いの残らないようにやろう〉

キャプテンの厳しい口調が、今の私にはとてもうれしかった。

板書計画



道徳の時間の指導内容		2-(4) 「異性の正しい理解と尊重」との関連		
月	主題名	資料名	内容項目	出典
7	異性に対する理解	部活のか帰り	2-(4) 異性理解・尊重	日文
1	異性の尊重	ファイト、オー	2-(4) 異性理解・尊重	市道徳
「中学校道徳読み物資料集」(文部科学省発行)との関連		各教科等との関連		
・掲載例なし		○心の通い合う学級 ○星の花が降ることに ○心身の発達と心の健康	特活等 国語 保体	

「私たちの道徳」との関連	
P. 66~71	異性を理解し尊重して

道徳の内容の学年段階・学校段階の系統		2-(4) 「異性の正しい理解と尊重」
小学校第1学年及び第2学年	2-(3) 友達と仲よくし、助け合う。	
小学校第3学年及び第4学年	2-(3) 友達と互いに理解し、信頼し、助け合う。	
小学校第5学年及び第6学年	2-(3) 互いに信頼し、学び合って友情を深め、男女仲よく協力し助け合う。	
中学校	2-(4) 男女は、互いに異性についての正しい理解を深め、相手の人格を尊重する。	

主題名 人間尊重の精神 2－(1) 礼儀の意義

資料名 少し成長した自分になって 出典 大分市教師用道徳指導資料集編集委員会 作

ねらい おじいさんの態度や写真から「少し成長した。また、会いに来よう」という主人公の気持ちの変化を<今までの自分をふりかえって><形式的な礼儀><敬意を示した礼儀>などに着目して捉えることで、相手を人間として尊重する精神の現れとしての礼儀の意義を理解し、時と場に応じた適切な言動をとろうとする態度を育てる。

#### 主題設定の理由

##### (1) 生徒の実態

この時期の生徒は、礼儀の大切さについてある程度理解しており、言葉遣いや行動の仕方もある程度身に付けている一方、従来からのしきたりや形式に反発したり、照れる気持ちやその場の状況に左右されて望ましい行動ができなくなったりすることが見られる。そこで、日常生活において、時と場に応じた適切な言動を身に付けるとともに、礼儀の根底に流れるその意義を深く理解できるようにすることが大切である。

##### (2) 資料について

本資料は、福祉体験活動で特別養護老人ホームを訪れた主人公が、あるおじいさんの丁寧で心のこもった態度に接し、人と人とのつながりをよりよく深めるうえで大切なものに気づき、おじいさんに対する敬愛の気持ちを具体的に示そうとする様子が描かれている。

施設に向かうバスの中で、見知らぬ人から挨拶され、顔も向けず軽く会釈しかできなかった主人公が、訪問先で自分に対して敬意をもって接してくれたおじいさんの姿や心のこもった挨拶に触れ、自分のこれまでの他の人への接し方について振り返る。その後、棟梁姿のおじいさんの写真を見て、心に何かを語りかけているような気がした主人公は、礼儀とは形だけでなく、相手を人間として尊重する気持ちを大切にしなければならないことに気付いていく。おじいさんに対する敬意を行動で表現しようとする心の動きに着目して礼儀の意義を深く考えさせたい。

#### 指導について

導入では、「礼儀正しくしなければいけないと思うときはどんなときか」を考え、発表させる。生徒は礼儀の大切さがある程度理解しているものの、形式的なものだと思っていることが多く、その意義についての理解は十分とはいえない。学習を通して礼儀の意義に気付かせるとともに、時と場に応じた適切な言動を積極的にとろうとする態度を身に付けさせたい。

展開では資料を読み、主人公が「なぜ、自分のことを恥ずかしく思ったのか」と問い、主人公の心の変化やその理由について考えさせる。また、そうじを真剣にしようと思った理由を考えさせることで、礼儀には相手に対する敬愛の心や人間尊重の精神が大切であることを理解させたい。

さらに、補助発問として、主人公が活動を終えたとき、「すがすがしい気持ちになったのはなぜか」を問うことで、心と体が一体となった礼儀は、自分自身の心の成長にもつながっていくことに気付かせたい。

終末では、「少し成長した自分になって会いに来ようと思ったのはなぜか」と問い、礼儀の意義を理解した作者の気持ちの変化に気付かせるとともに、生徒一人一人に「礼儀」について、今までの自分の姿を振り返り、実践していこうとする気持ちを高めていきたい。

学習指導過程

過程	学習活動	指導及び留意点	評価の視点
導入 5分	1 「礼儀正しくふるまうときはどんなときか」発表する。	○ 「礼儀正しくふるまうとき」について考え、発表させる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">礼儀正しくしなければいけないと思うときはどんなときか。</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入学式、卒業式</li> <li>・結婚式、葬式</li> <li>・年上の人と話すとき</li> <li style="text-align: center;">：</li> <li>● 礼儀とは形式的なものだと思っている生徒の考え（実態）をはっきりさせておくようにする。</li> </ul>	◆ 「礼儀正しくなければいけないときはどんなときか」について考え、発表しようとしているか。
展開 35分	2 主人公が自分のことを恥ずかしく思った理由について考える。  3 真剣にそうじをした主人公の気持ちについて考える。	○ 資料を読み、おじいさんの挨拶の後、主人公が自分のことを恥ずかしく思った理由について考えさせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">なぜ、自分のことを恥ずかしく思ったのか。</div> <p>&lt;今までの自分をふりかえって&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・あいさつを返せなかった態度（今朝のバス）</li> <li>・おじいさんのあいさつにきちんとしたあいさつが返せなかった</li> </ul> <p>&lt;形式的な礼儀&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・その人の方を見ずにした軽い会釈（今朝のバス）</li> <li>● 礼儀にとって大切な「相手に対する敬愛の気持ち」に気付かせるため、そうじを真剣にした理由について考えさせる。  <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">そうじを真剣にしようと思ったのはどんな思いからか。</div> </li> </ul> <p>&lt;敬意を示した礼儀&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相手を敬う気持ち、人間尊重</li> <li>・形だけでなく、心を込めたあいさつ</li> <li>● 「おじいさんの挨拶にはどんな気持ちが込められているのか」、「写真のおじいさんは何を語りかけているのか」を問い、礼儀の内面的な意義について気付かせる。</li> <li>・相手に対する敬意</li> <li>・主人公を一人の人間として認めてくれている姿</li> <li>● 礼儀には相手に対する敬意の心や人間尊重の精神が込められていることを理解させる。</li> <li>● 活動を終えた主人公の「すがすがしい気持ち」に着目させることによって、礼儀は自分自身の心の成長にもつながることを気付かせる。</li> </ul>	◆ 相手に対する敬愛の気持ちを大切にしなければいけないことに気付いているか。
終末 10分	4 主人公が「成長した自分」になって会いに来ようと思った理由について考える。	○ 主人公が、おじいさんに再び会いに来ようと思った理由について考え、発表させる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">「少し成長した自分」になって会いに来ようと思ったのはなぜか。</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・おじいさんに心から敬意を示して、もう一度挨拶したいと思ったから</li> <li>・礼儀にとって大切なことが分かったから</li> <li>・自分に自信ができたから</li> <li style="text-align: center;">：</li> <li>● 生徒自身に「少し成長した自分になってなぜ会いに来ようと思ったのか考えてみよう」と問いかけ、主人公を自分に置き換えて考えさせる。</li> <li>● 生徒に自分の姿を振り返らせ、相手を人間として尊重し、接していこうとする気持ちを高めるようにする。</li> </ul>	◆ 礼儀の意義を理解した作者の気持ちの変化を通して礼儀の意義を理解しているか。

## 少し成長した自分になって

先日、特別養護老人ホームで行われる福祉体験活動に参加するため、ぼくは同級生4人とつしよにバスに乗りました。バスの中では、施設での体験活動のことで会話が弾んでいました。途中のバス停から乗客が一人乗ってきて、ぼくたちに向かって「おはようございます。」と声をかけてくれました。しかし、ぼくは、話に夢中になっていたこともあり、その人の方を向きもせず、ただ軽く会釈をただけでした。

やがて、ぼくたちの乗ったバスは施設に着きました。ぼくは、あるおじいさんの部屋を掃除することになりました。施設の方の案内で、部屋に入ると、おじいさんはベッドに横になっていました。おじいさんは、ぼくに気付くと申し訳なさそうな表情を浮かべ、一生懸命に起き上がろうとしていました。ぼくは、その姿をただ見ているだけで、何も言えず手助けすることもできませんでした。なかなか起き上がれずにおじいさんでしたが、施設の方の手を借りて、やっと上半身を起こすことができました。

「山田さん、今日は、病院に診察に行く日でしたね。生徒さんが来ることを、楽しみにしていたのに残念ね。」おじいさんは、残念そうに、何度か小さくうなずくような仕草を見せると、ベッドに手をつきながら、足をゆつくりと床に下ろし、一人で立ち上がろうとしました。

一つ一つの動作がとてもつらそうでした。立っているだけでも大変そうなのに、やせた手を膝にあて、自分の体をやっと支えるようにして言ったのです。

「おはようございます。よく来てくれましたね。よろしく申し上げます。」

「あつ、はい。」

そう答えるのが精一杯でした。ぼくは、急に自分のことが恥ずかしく思えて動けなくなりました。

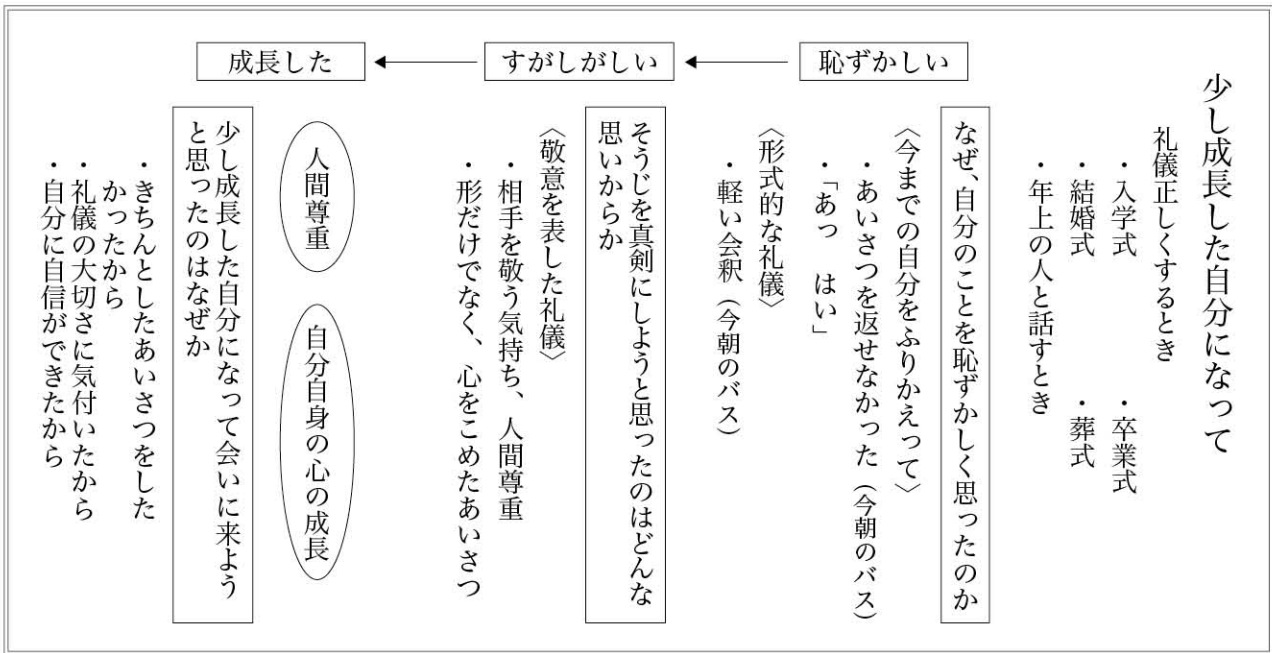
どのくらい時間がたったのでしょうか。ようやく、ぼくはほうきを手にそうじを始めました。その時でした。ベッドのそばの一枚の写真が目にとまったのです。完成した家をバックに、若い大工さんたちに囲まれた棟梁のおじいさんが写っていました。ぼくの心に何かを語りかけているような気がしました。

ぼくは、部屋の隅々を掃き終え、電球の傘や天窓などの高い所、ベッドの下やロッカーの裏側など、日頃、手の届きにくい場所は、特に入念に隅々まできれいに磨きあげました。やり終えたとき、とてもすがすがしい気持ちで額の汗をぬぐいながらつぶやきました。

「今度、またおじいさんに会いに来よう。今日の自分より、少し成長した自分になって。」



板書計画



道徳の時間の指導内容

2- (1) 「礼儀の意義」との関連

月	主題名	資料名	内容項目	出典
5	心を形に	あいさつは心のスキンシップ	2- (1) 礼儀の意義	日文
7	日本人の心	包む	4- (9) 愛国心	日文
9	他に学ぶ	マザー・テレサのパスポート	2- (5) 寛容の心, 謙虚	日文
11	人間尊重の精神	少し成長した自分になって	2- (5) 礼儀の意義	市道徳
1	礼儀の心	「いき」な江戸しぐさ	2- (5) 礼儀の意義	日文
「中学校道徳読み物資料集」(文部科学省発行)との関連			各教科等との関連	
・掲載例なし			<ul style="list-style-type: none"> <li>○職場体験活動</li> <li>○気持ちを込めて書こう</li> <li>○日本の美意識</li> <li>○武道</li> </ul>	特活等 国語 美術 保体

「私たちの道徳」との関連

P. 48~53 礼儀の意義を理解し適切な言動を

道徳の内容の学年段階・学校段階の系統

2- (1) 「礼儀の意義」

小学校第1学年及び第2学年	2- (1) 気持ちのよいあいさつ, 言葉遣い, 動作などに心掛けて, 明るく接する。
小学校第3学年及び第4学年	2- (1) 礼儀の大切さを知り, 誰に対しても真心をもって接する。
小学校第5学年及び第6学年	2- (1) 時と場をわきまえて, 礼儀正しく真心をもって接する。
中学校	2- (1) 礼儀の意義を理解し, 時と場に応じた適切な言動をとる。

## 第2学年 道徳学習指導案

主題名 寛容の心

2 - (5) 寛容・謙虚

資料名 僕にできること

出典 大分市教師用道徳指導資料集編集委員会 作

ねらい 川野君に対する僕の心の変化を<川野君の行動><川野君の心><人と接するうえで大切なこと>などに着目して捉えることで、相手の考えや立場を尊重し、謙虚に学ぼうとする態度を養う。

### 主題設定の理由

#### (1) 生徒の実態

この時期の生徒は、ものの見方や考え方に違いが現れてくるとともに、個性がはっきりしてくる。そのために、自分の考え方や立場に固執する傾向が強くなり、友人間に意見の対立や摩擦が生じることも少なくない。

その一方で他の考えに同調する傾向が生じやすく、いじめのような問題に発展することもある。また、この時期は反抗期にも当たり独自性が出てくるために、時としてわがままを言ったり、寛容さ謙虚さに欠けたりというような姿も見られる。

そこで、人それぞれの個性や立場の違いがあることを理解し、まわりとのかかわりの中で自分と相手との違いを認め、尊重し、謙虚に学ぶことが、大きな成長につながることを理解させたい。

#### (2) 資料について

本資料は、学級であいさつ運動への参加方法を話し合うときに、異を唱えた川野君に批判的な発言をした主人公が、相手の事情を知り、また自分の批判を受け入れ素直に省みている川野君の謙虚な態度にふれ、自分自身のいたらなさを振り返る姿が描かれている。

「参加できる日に参加した方がいいと思います」という川野君の発言は、おじいさんのゴミ出しを手伝っているという事情やクラスメイトのことを考えたうえでの発言だったことに主人公は気付く。みんなの前で川野君を批判していただけに、逆に自分が責められるのではないかと思っていたが、意外にも川野君は「僕の発言こそ良くなかったね。ごめんね。」と謙虚に自分を省みたのである。

この資料を通して、多様な考えや立場を尊重し、他に学ぶ謙虚な心が人間としての成長にどのように関わっていくのかを考えさせていきたい。

### 指導について

導入では、資料を読んで心に残った場面を探し出させる。展開でもその場面を取り上げることにより、導入時の考えと比較させることで、相手の考えや立場を尊重することの大切さに気付かせるようにする。

展開では、主人公が「川野君の背中が大きく見えたのはなぜか」と問い<川野君の行動><川野君の心><人と接するうえで大切なこと>の視点から主人公の気持ちを考えさせることにより、いろいろな見方や考え方があることに気づき、それぞれの考えや立場を尊重することの大切さを理解させたい。また、川野君のことばによって、だれよりも早く校門に立った主人公の姿に着目させることで、互いの考えや立場を尊重することが自分の心の成長にもつながることに気付かせていきたい。さらに、遅れてきたクラスメイトに対し、笑顔で顔を見合わせ明るい声であいさつしたときの2人の気持ちを考えさせることで、個性とは決して一人で伸びるものではなく、他に認められながら成長していくことにも気付かせたい。

終末では、まわりの人のことばをふりかえり、自分自身では気付かなかったことで、気付かされたことについて発表させる。相手の考えや立場を考える学習活動を通して、その人の考えや立場を尊重し謙虚に学ぼうとする意欲を高めていきたい。

学習指導過程

過程	学習活動	指導及び留意点	評価の視点
導入 15分	1 心に残った場面を探す。	<p>○ 資料を読み、心に残った場面を探し出させその理由も考えさせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">資料の中で、心に残った場面はどこか。その理由も考えてみよう。</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「僕の発言こそ… ごめんね。」</li> <li>・「背中が大きく見えた。」</li> <li>・誰よりも早く正門に立った</li> <li>・僕は笑顔で顔を見合わせ</li> <li>：</li> </ul> <p>● 生徒から出された場面の中で「大きく見えた川野君の背中」に着目し、展開に入るようにする。その他の印象に残る場面については、展開の中で取り上げ、導入時の考えと比較させる。</p>	◆ 心に残った場面を探そうとしているか。
展開 25分	2 川野君の背中が大きく見えた理由について考え発表する。  3 主人公の気持ちの変化について考える。	<p>○ 川野君の後姿が大きく見えた理由について考えさせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">川野君の背中が大きく見えたのはどうしてか。</div> <p>〈川野君の行動〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事情があるのに言い訳をしなかった（学級会）</li> <li>・ゴミ出しの手伝いをしている</li> <li>・みんなのこと（事情）を考えた発言をしている</li> <li>・事情を知った自分を責めなかった</li> <li>・学級会での自分の発言を省みた態度</li> </ul> <p>〈川野君の心〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・寛容さ</li> <li>・優しさ</li> <li>・心の広さ</li> <li>・謙虚さ</li> </ul> <p>〈人と接するうえで大切なこと〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人には、いろいろなものの見方や考え方がある</li> <li>・相手の考えや立場を尊重する</li> <li>・人の見方や考え方に謙虚に学ぶ姿勢が大切である</li> </ul> <p>● 人には、それぞれにいろいろな見方や考え方のあることに気づき、それぞれの考えや立場を尊重することの大切さを理解させる。</p> <p>○ 川野君の言葉による主人公の気持ちの変化について考えさせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">僕が早く校門に立ったのは、どんな思いからか。</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分も人のためにできることをしよう</li> <li>・川野君の分までがんばるぞ</li> <li>・生徒会の活動に積極的に参加しよう</li> <li>・クラスメイトの考えや立場を尊重しよう</li> <li>：</li> </ul> <p>● 印象に残る場面について聞き、導入時と比較させることで相手の考えや立場を尊重した場面に気付かせるようにする。</p> <p>● 人の考えや立場を尊重することは、自分の心の成長にもつながることを理解させる。</p> <p>● 遅れてきたクラスメイトにあいさつしたときの2人の気持ちを想起させ、個性とは、決して自分一人で伸びるものでなく、他に認められながら伸びるものであることに気付かせる。</p>	◆ 人の考えや立場を尊重することの大切さに気付いているか。  ◆ 相手の考えや立場を尊重した場面に気付いているか。
終末 10分	4 まわりの人からのことばを振り返り発表する。	<p>○ まわりの人からの言動を振り返り、その人の考えや立場を考えさせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">自分自身では今まで気付かなかったことで、気付かされたことを発表してみよう。</div> <p>● 寛容の心で他に対して謙虚に学んでいくことが、よりよい人間としての成長を促すために大切であることに気付かせる。</p>	◆ 相手の考えや立場を考えようとしているか。

## 僕にできること

「では、生徒会から提案された『1学級1活動』の取り組みについて、2年3組は朝のあいさつ運動に取り組むことでよいでしょうか。賛成の人は挙手をしてください。」

学級委員長の声にクラスの大半が手を挙げ、決定した。僕は、もう一方の空き缶回収に賛成だったが、あいさつ運動も悪くないと思った。

学級委員長が、次に具体的な方法を決めるように言った。いくつかの意見が出たあと、月の第2週に校門のところに7時30分から50分まで並んであいさつすることがすぐに決まった。続いて、参加の方法について話し合っていた。

「一人3回は参加しよう。」

「毎回全員参加すべきだ。」

「全員が一斉に校門に立つのは登校のじやまになるから、班ごとにしよう。」

「参加できる日を選んでやろう。」など、いろいろな意見が出て、誰がいつするのかについては、なかなか決まらなかった。

しばらくして、学級委員長が「クラス全員ですることに意義があるんじゃないかな。毎日全員参加でやって2年3組をアピールしよう。」と力強く提案すると、賛成の声も出て、それでいつきにクラスが全員参加の雰囲気になっていった。

そのとき、ゆつくりと川野君が手を挙げた。

「僕は参加できる日に参加した方がいいと思います。」

盛り上がっていたクラスがとたんに静かになった。僕は思わず手を挙げた。

「それは自分勝手だと思います。みんなで一緒にやるのが大事だと思います。」

僕の発言に大きな拍手が起こった。

その後の採決で、全員が参加して正門と南門、北門の3ヶ所に分かれて立つことになった。僕は少しヒーロー気分にはたっていた。ふと川野君を見ると、下を向いて何か考えているようだった。

翌朝、母親に頼まれたゴミ出しのため、僕は登校途中にゴミを出しに行つた。そこに2つのゴミ袋をもつた川野君が「君も手伝っているんだね」と明るく声をかけてきた。僕は「初めてなんだ。」と小さく答えた。彼は、家の裏に住む一人暮らしの老人のゴミ出しを手伝っているということだった。普段は家の前でゴミの袋をもち、自分を待っている老人がかぜで出て来ていなかったため、家まで声を掛けに立ち寄ったとのことだった。

「すごいね」僕は感心した。

「できることをやっているだけさ。裏のおじいさんは小さいときからよく知っているし、それに、最近ちよつと調子よくないことが多いんだ。」と答えた。

事情を知り、昨日、川野君を批判してしまったことを思い出し、恥ずかしくなった。

「この前はごめんね、みんなの前で自分勝手だなんて言ってしまうて。こんな事情があるとは分からなくてさ。」と謝つた。

すると、

「君は全然悪くないよ。みんなでまとまってあいさつ運動をやろうって気持ちになつてたときに、僕の発言こそ、良くなかつたね。ごめんね。みんなの中にも事情がある人がいるんじゃないかな」と言った。僕はその言葉に返すことばが見つからなかった。

学校に向かつて歩き始めた川野君についていくように、僕は少し遅れて歩いた。川野君の背中がなぜか大きく見えた。

あいさつ運動の朝、僕は誰よりも早く正門に立つた。そこにゴミ出しを終えた川野君が走つてやつて来た。そして、何人かのクラスメイトが時間に遅れ、ぼつが悪そうにやつて来た。川野君と僕は笑顔で顔を見合わせ明るい声で「おはよう」と呼びかけた。周りの友だちは僕たち二人を不思議そうに見ていた。

板書計画

まわりの人の言動で気付かされたことを発表しよう	互いの心の成長 自分の心の成長	僕が早く校門に立ったのはどんな思いからか ・人のために ・川野君の分まで ・生徒会活動への積極的な参加 ・クラスメイトの考えや立場を尊重	相手の考えや立場の尊重 〈人と接するうえで大切なこと〉 ・人には、いろいろなものの見方や考え方があ ・相手の考えや立場の尊重 ・人の見方や考え方に謙虚に学ぶ姿勢 〈川野君の心〉 ・寛容さ ・優しさ ・心の広さ ・謙虚さ	川野君の背中が大きく見えたのはどうしてだろうか 〈川野君の行動〉 ・言い訳をしない態度 ・ゴミ出しの手伝い ・みんなのこと（事情）を考えた発言 ・事情を知った自分の責めない態度 ・自分の発言を省みている謙虚さ	僕にできること 心に残った場面 ・老人のゴミ出しを手伝っている ・「僕の発言こそ良くなかったね ごめんね みんなの中にも事情がある人がいるんじゃないかな。」 ・川野君の背中がなぜか大きく見えた ・だれよりも早く正門に立った ・川野君と僕は笑顔で顔を見合わせ明るい声で 「おはよう」と呼びかけた
-------------------------	--------------------	--	--	--	--

道徳の時間の指導内容

2- (5) 「寛容・謙虚」との関連

月	主題名	資料名	内容項目	出典
9	他に学ぶ	マザー・テレサのパスポート	2- (5) 寛容・謙虚	日文
11	広い心	僕にできること	2- (5) 寛容・謙虚	市道徳
1	人類の福祉	あふれる愛	4- (10) 国際理解・人類愛	日文

「中学校道徳読み物資料集」(文部科学省発行)との関連

各教科等との関連

P. 26～29	言葉の向こうに	○話し合って考えを広げよう ○アイーダ ○木工の技法, 金属でつくる	国語 音楽 美術
----------	---------	--	----------------

「私たちの道徳」との関連

P. 72～81	○「認め合い学び合う心」
----------	--------------

道徳の内容の学年段階・学校段階の系統

2- (5) 「寛容・謙虚」

小学校第1学年及び第2学年	
小学校第3学年及び第4学年	
小学校第5学年及び第6学年	2- (4) 謙虚な気持ちを持ち, 広い心で自分と異なる意見や立場を大切に にする。
中学校	2- (5) それぞれの個性や立場を尊重し, いろいろなものの見方や考え 方があることを理解し, 寛容の心を持ち謙虚に他に学ぶ。

## 第3学年 道徳学習指導案

主題名 思いやり 2－(2) 人間愛, 思いやり

資料名 私の心に届いたもの 出典 大分市教師用道徳指導資料集編集委員会 作

ねらい 主人公の心に届いたものは何であったのかということ、田中さんとの関わりの中で〈自分の気持ち〉〈相手の気持ちや状況〉〈田中さんの思いやり〉などに着目して捉えることにより、温かい人間愛に基づいた思いやりについて考え、相手の立場で考えることを大切にしようとする態度をはぐくむ。

### 主題設定の理由

#### (1) 生徒の実態

この時期の生徒は、他の人とのかかわりを持つことの大切さを理解できるようになってくるが、他の人と触れ合う機会が減少しつつある社会環境の中で、ともすれば利己的、自己中心的な判断に陥りやすく、他を省みない言動に走ることもある。そのため、自分も他人も、ともにかけがいのない存在であることを自覚できるようにするとともに、その上で、温かい人間愛の精神に基づく体験の機会を生かし、人間として生きることに喜びを見いだし、思いやりの心をもって人に接する態度を育てていくことが大切である。

#### (2) 資料について

本資料は、台風の被害にあった人たちにボランティアで服や靴などを送り、自分はよいことをしていると思っていた主人公が、送られてきた礼状に書かれてあった自分には覚えのない内容を不思議に思い、ボランティアに長年関わってきた田中さん自身の体験談を聞くことによって自分の思いやりを考え直すとともに、田中さんから受けた思いやりに気付き感謝の心を抱いた過程が描かれている。

この資料を通して、思いやりの精神とは他の人の立場を尊重しながら、親切にし、いたわり、励ます生き方であり、人間尊重に対する深い理解と共感がなければならないものであって、単なるあわれみや同情と考えられるべきものではないことに気付かせたい。

### 指導について

導入では、資料を読ませ、善意の品を送った段階では相手の立場を考えた行動までには至っていない主人公の気持ちを押さえる。

展開では、田中さん自身のエピソードと主人公の行動を重ねあわせ、善意の気持ちから困っている人たちに品物を送った時の〈自分の気持ち〉や〈相手の気持ちや状況〉を視点に考えることにより、思いやりは、単なる自己満足ではなく相手の気持ちや状況などを考えることが大切であり、人間尊重の精神に基づいた深い理解と共感が根底にあることに気付かせたい。さらに品物を持ち込んだ時に何も言わずビニール袋にサイズ分けをしたり、自分自身のエピソードを語ってくれたりした田中さんの行動を振り返ることにより、主人公の気持ちを大事にしながら大切なことを伝えようとした田中さんの、深い思いやりに目を向けさせたい。

終末では、今後のボランティア活動への取組について、自分自身の体験と重ね合わせながら考えさせ、思いやりの心をもって人に接しようとする意欲を持たせたい。

学習指導過程

過程	学習活動	指導及び留意点	評価の視点
導入 10分	1 資料を読み善意の品を送った時の主人公の気持ちを考える。	○ 自分たちの経験と重ねながら、主人公が困っている人たちに、品物を送ったときの思いを考えさせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px 0;">困っている人たちにどんな思いで品物を送ったのか。</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・困っている人の役に立ちたいと思ったから</li> <li>・古くなりサイズも合わなくなったので処分しなかったから</li> <li>・リサイクルになるから</li> </ul>	◆ 善意から品物を送った主人公の気持ちに共感しているか。
展	2 思わずうつむいてしまった主人公の気持ちを考える。	○ 田中さんの話を聞いた後、主人公が思わずうつむいてしまった時の気持ちを考えさせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px 0;">私が思わずうつむいてしまったのはどんな気持ちからか</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 田中さんの話と主人公の行動との共通点を考えることにより、思いやりの心について考えさせる。</li> </ul> <p>〈自分の気持ち〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・単に良い事をしているという思い</li> <li>・あわれみや同情ではなかったか</li> </ul> <p>〈相手の気持ちや状況〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・受け取った側は、どう感じるだろうか</li> <li>・相手に、本当に感謝してもらえるのか</li> <li>・相手がどういう状況にあるのかを理解しているか</li> </ul>	◆ 田中さんの話を聞いた主人公の気持ちに共感しているか。
開 30分	3 主人公に対する田中さんの思いを考える。	○ 田中さんの話を聞いた帰り道の主人公の気持ちを考えさせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px 0;">私の心に届けられた大切なものとは何だろうか。</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 主人公が荷物を持ち込んだ時に何も言わなかったことや、自分の体験談を語ってくれたことなど、田中さんの主人公への接し方に着目させることにより、田中さんの深い思いやりに気付かせる。</li> </ul> <p>〈田中さんの思いやり〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の善意の気持ちを大切にしてくれた</li> <li>・相手からの感謝の手紙によって、私自身に気付かせてくれた</li> <li>・ボランティアの行動を温かく見守ってくれた</li> <li>・思いやりの大切さを教えてくれた</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 田中さんが、主人公の善意の心を大切にしながら、自らの行動によって思いやりとは何かということを教えてくれたことに気付かせる。</li> <li>● 田中さんの思いを素直に受けとめ、感謝の気持ちを抱いた主人公の心の変化にも目を向けさせたい。</li> </ul>	◆ 主人公の立場を尊重してくれた田中さんの思いやりの気持ちに共感しているか。
終末 10分	4 ボランティア活動などでの自分の行動を考える。	○ 今後のボランティア活動にどのように取り組みたいか、自分の体験と重ね合わせながら考え、発表させる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>● 「私たちの道徳」P.54～59の活用も考えられる。</li> </ul>	◆ 相手の立場で考えることを大切にしようとしているか。

## 私の心に届いたもの

帰りの会の時間、担任の先生から、ボランティアで善意の品の取りまとめをしている近所の田中さんの話を聞いた。私は、今年の夏の台風被害に遭い家が流されて困っている人たちのために何か品物を送ることにした。きつと喜んでもらえるし、リサイクルにもなると思った。サイズが合わなくなった服や靴を集めダンボールに詰め込んで、二箱にもなった。田中さんの家に持ち込んだとき、田中さんの表情が一瞬曇ったような気もしたが、私は、いいことをしているとの思いから、あまり気にはならなかった。

しばらくして、被災者センターから手紙が届いた。私が送った靴や服が届いて、重宝しているとお礼の手紙だった。私はうれしくて、自分たちの行動を誇らしく思いながら読んでいた。ところが、手紙の最後は、こう結ばれていた。

『一枚ずつビニール袋にサイズ分けまでして送ってくださった品々は、若いあなたの温かいお心遣いとともに確かに届きました。』

不思議に思った私はすぐに田中さんのところへ行った。

「田中さん、この前はお世話になりました。今センターから手紙が届いたんですが、最後のところが．．．」手紙を読み終えた田中さんは、

「あつ、このことね。」

と言ってしばらく間をおいた後、につこりうなずいて穏やかな口調で何かを思い出すように、こんな話を聞かせてくれた。

「実は、もう二十年近くも前のことになるかしら．．．。」

「若い頃、私は国際ボランティアの一員として、長年の内戦が終わって廃墟と化したある国の小さな村を訪れたことがあった。そこで暮らす人たちの生活はその日の食事も満足にできない状態だった。私は村長さんに会う約束があったのだけど、途中である親子に出会った。母親に抱かれた四、五歳くらいの子どもに、私がある時たまたま持っていたチョコレートを差し出したの。そのときだったわ。母親は何か一生懸命私に訴えてきたの。とても悲しい表情だったわ。」

私は、その母親は田中さんに当然感謝の言葉を言ったのだと思ったので、なぜ悲しかったのかわからなかった。ところが田中さんから、まったく予想もしなかった言葉を聞いた。

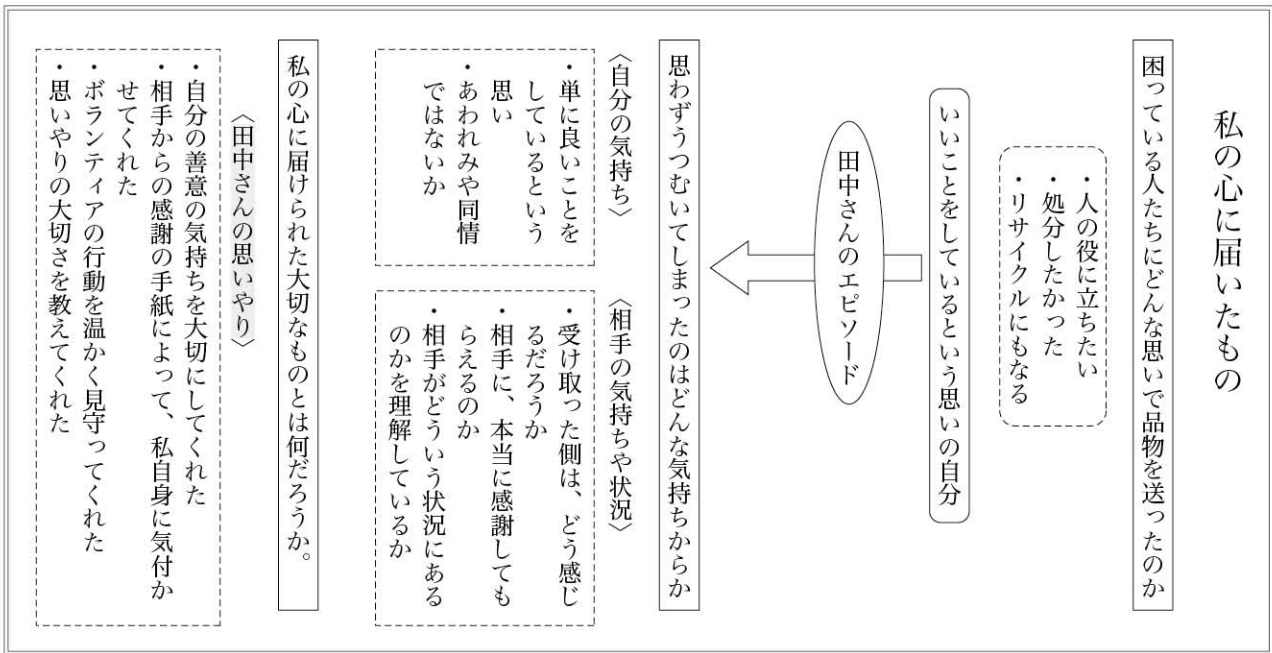
『お気持ちはありがたく思います。でも、今度この子がこれを欲しがったときに、私たちは、同じものはもっていません。』

その言葉を聞いた私は、思わずうつつむいてしまった。

私は帰り道、恥ずかしかった。気になつて振り返ってみると、田中さんは、につこり微笑んでくれた。田中さんから、私の心に大切なものが届けられた気がしてうれしかった。



板書計画



道徳の時間の指導内容		2- (2) 「人間愛・思いやり」との関連		
月	主題名	資料名	内容項目	出典
4	相手を思いやる心	あるレストランでの出来事	2- (2) 人間愛・思いやり	日文
10	あたたかい人間愛	ひさの星	2- (2) 人間愛・思いやり	日文
2	思いやりをもって	私の心に届いたもの	2- (2) 人間愛・思いやり	市道徳
「中学校道徳読み物資料集」(文部科学省発行)との関連			各教科等との関連	
・掲載例なし			○握手 ○言葉を使おう ○高瀬舟 ○わかりやすく伝えるデザイン	国語 国語 国語 美術

「私たちの道徳」との関連	
P. 54～53	温かい人間愛の精神と思いやりの心を

道徳の内容の学年段階・学校段階の系統		2- (2) 「人間愛・思いやり」
小学校第1学年及び第2学年	2- (2) 幼い人や高齢者など身近にいる人に温かい心で接し、親切にする。	
小学校第3学年及び第4学年	2- (2) 相手のことを思いやり、進んで親切にする。	
小学校第5学年及び第6学年	2- (2) だれに対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にする。	
中学校	2- (2) 温かい人間愛の精神を深め、他の人々に対し思いやりの心をもつ。	

## 第3学年 道徳学習指導案

主題名 深め合う友情

2－(3) 友情

資料名 健二の涙

出典 大分市教師用道徳指導資料集編集委員会 作

ねらい 健二に謝ったときの主人公の気持ちを＜自分本位な自分＞＜健二に思いをはせる自分＞＜二人の間の信頼＞などに着目して捉えることで、友情の尊さを理解し、互いに励まし合い、高め合おうとする態度を育てる。

### 主題設定の理由

#### (1) 生徒の実態

この時期の生徒は、感情の起伏が激しく、ともするとささいなことから感情の行き違いが生じ、せっかくの友達関係が台無しになることもある。また、互いに心を許し合える友達を真剣に求め、親や教師に多くのことをゆだねてきた児童期から脱し、独立しようとしたりする。こうした成長過程の中で、同世代によき理解者を求めたり、心の底から打ち明けて話せる友達を得たいと願ったりする気持ちが高まってくる。

そこで、その場だけの関心や自分に都合のいい相手だけの狭い範囲にとどまることなく、さらに視点を広げ、積極的に生涯にわたる尊敬と信頼に支えられた友情を育てようとする気持ちを育てたい。

#### (2) 資料について

本資料では、最後の大会前にペアの相手の健二がけがをしたため、違う相手とペアを組み試合に臨んだ主人公が、結局は県体前で負けてしまい、悔しさを健二にぶつけるが、その際どんなことがあっても、友だちとして主人公を理解しようとする健二の言葉や態度、流した涙を通し、二人の間の友情が深められ、次の目標に向かってともに歩んでいく過程が描かれている。

主人公が、どんなときも自分に寄り添い励ましてくれた健二の態度にふれ、健二に謝った主人公の心の動きを追求することにより、感情の行き違いや考え方の食い違いから生ずる人間関係のきしみを、互いの人格を尊敬する視点から克服することで、より一層深い友情が構築されることに気付かせたい。

### 指導について

導入では、「( ) ときの友こそ真の友」と書いた短冊の( )に自分が考えた言葉を入れさせ、友情について今の自分の考えを確認させる。

資料を読み、「ぼくが腹がたったのはなぜか。」と問い、主人公が試合に勝ち続けているのに健二が不機嫌そうにしている場面に着目して腹が立った理由を考えさせ、2人に気持ちのずれが生じてきていることに気付かせる。その後、ぼくが、「ごめんな。と心からそう思ったのはなぜか」と問い、＜自分本位な自分＞＜健二に思いをはせる自分＞＜2人の間の信頼＞の視点から主人公の気持ちを考えさせていく。健二の気持ちや行為によって主人公の心が動かされ、真の友だちとしての健二の存在に気付いたことで、より2人の友情が深まったことに気付かせたい。

終末では、「友だちに真心から伝えたいメッセージ」を書かせることで尊敬と信頼に支えられた友情を育てようとする態度を育てたい。

学習指導過程

過程	学習活動	指導及び留意点	評価の視点
導入 5分	1 「( ) ときの友こそ真の友」の( )に言葉を入れる。	○ 短冊を用意し、「( ) ときの友こそ真の友」の( )に自分の言葉を入れさせる。 「( ) ときの友こそ真の友」の( )に自分の言葉を入れよう。	◆ これまでの経験をもとに「真の友」について自分の考えを書いているか。
展  開	2 資料を読んで、主人公が勝ち進んでいるときに腹が立った気持ちを考える。	○ 健二が不機嫌そうに見える場面に着目して腹が立った理由を考えさせる。 「ぼくが腹がたったのはなぜか。」 ・健二が喜んでくれないから ・応援してくれないから ● 健二に対する不満の気持ちが出る一方で主人公が自分本位ではないかということに気付かせる。	◆ お互いの気持ちのずれに気付いているか。
	3 試合中の健二の気持ちを考える。	○ 主人公の試合中の健二の気持ちを考えさせる。 「ぼくの試合中、健二はどんな気持ちだったか。」 ・主人公のことを応援していた ・出られなくてもペアのつもりで試合を見ていた ・つらい気持ち ● 「心の中で一緒にプレーさせてもらっていたよ。」という健二の言葉に着目させながら、自分が出場できないつらさを越え主人公を応援する健二の気持ちに気付かせる。	◆ つらい中でも友だちのことを応援し励ます健二の気持ちに気付いたか。
30分	4 健二に心からすまないと思ったことによって二人の友情がどのようなになっていったか考えさせる。	○ 健二にあやまったときの主人公の気持ちを考えさせる。 「ごめんな。」心からそう思ったのはなぜか。 ● 主人公の心の動きを<自分本位な自分><健二に思いをはせる自分><二人の間の信頼>などの視点から考えさせる。 <自分本位な自分> ・言い過ぎて恥ずかしい ・悪いことを言ってしまった <健二に思いをはせる自分> ・試合に出られなくてかわいそう ・健二もつらかっただろう <二人の間の信頼> ・これまで何でも相談しあう仲だった ・同じ目標に向かって励ましあってきた ・負けて悔しいときに側に寄り添ってくれた ● 健二に悔しさをぶつけてしまう行為に関して、友情の深さを感じ取る意見も出ると考えられる。 ● 自分の涙と健二の涙の違いにふれ、その違いに気付いた主人公の心情にも寄り添わせたい。	◆ 健二の気持ちや行為によって主人公の心が動かされ、より2人の友情が深まったことに気付いたか。
終末 15分	5 友だちに真心から伝えたいメッセージを書く。	○ 「私たちの道徳」P.65を活用し、友情に関する名言を参考にし、友だちへ真心から伝えたいメッセージを書かせる。 ● 最後にジョージ・ワシントンの友情に関する言葉「友情は成長の遅い植物である。それが友情という名に値するようになる前に、幾度かの困難な打撃に耐えなければならない」という言葉を紹介する。	◆ 尊敬と信頼に支えられた友情を育てようとする気持ちが表われているか。

## 健二の涙

中一の春、ぼくは中学校入学と同時にテニス部に入った。入部した頃は不安だったが、同じクラスの健二と仲良くなり、二人で練習をするようになった。ぼく達はレギュラーをめざし、必死にがんばった甲斐があり、二年の秋の新人戦では準優勝した。「来年の市総体で絶対に優勝しよう！」と二人で約束し、それから半年間今まで以上に練習に励んだ。こうしてぼくたちはテニス以外のことでも何でも相談しあうようになっていった。

三年生の六月、いよいよ市総体が迫ってきた。ぼくたちは優勝候補にあがっており、ぼくも健二も、優勝することを信じて練習にも一層熱が入っていた。そんな時だった。市総体三日前、健二が足首を捻挫してしまったのだ。ぼくは健二のケガが治って一緒に試合に出られることを願っていた。しかし、大会を控え、新しいパートナーのさりとるとペアを組むことになった。どうなることかと思つたが、準々決勝までは何とか勝ち進むことができた。そして、勝ち進むごとにチームメイトが集まって、ぼくたち急造ペアを囲んで誉めてくれた。ふと健二に目を向けると離れたところできっとコートを見つめていた。ぼくには健二が不機嫌そうにしか見えず、少し腹が立った。

あと一勝で県体に出場できる。期待と歓声の中、次の試合のコートに立った。健二のことはすっかり忘れてた。結果は……。「急造ペアだから、ここまでが精一杯だったよな。」遠まきにはくを見ていたチームメイトから、そんな声が聞こえた。

ベンチに座ったままその場を動けず、一人ぼつんと取り残されてしまった。そんなぼくのところに健二がやってきて静かに隣に座った。

「なんでこんなときにけがなんかしたんだよ！そうじゃなかったら、勝ち進めたのに……。」

今まで我慢していた涙があふれ出し、ぼくは思わず負けた悔しさや思いを健二にぶつけた。

健二はそっとタオルを差し出し、しばらく黙っていたが、

「約束したのにケガしてしまつてごめんな。でも、心の中では一緒にプレーさせてもらつていたよ。」

ふと隣を見ると、健二の目にも涙が浮かんでいた。ぼくは、その涙が自分が流した涙とは違う気がした。

「ごめんな。」ぼくは心からそう思った。健二は何も言わずににっこり笑つてうなずいた。

あれから二年。健二とぼくはインターハイ出場目指して毎日汗を流している。

板書計画

**健二の涙**

( ) ときの友こそ真の友

- ・ 楽しい
- ・ 困った

【試合中】

ぼく (勝ち進む)

○ 腹が立ったのはなぜか

- ・ 健二が喜んでくれないから
- ・ 応援してくれていないから

○ どんな気持ちだったか

- ・ 試合に出られなくてつらい
- ・ ぼくにがんばってほしい
- ・ 一緒にプレーするんだ
- ・ 約束を守れなくてすまない

【試合に負けて】

「なんで」

けがしたんだ

自分本位

涙

ぼくのため

た「ごめん、一緒にプレーさせてもらったよ」

○ 「ごめんな。」心からそう思ったのはなぜか。

〈自分本位な自分〉

- ・ 言い過ぎて恥ずかしい
- ・ 悪いことをしてしまった

〈健二に思いをはせる自分〉

- ・ 試合に出られなくてかわいそう
- ・ 健二もつらかっただろう

〈二人の間の信頼〉

- ・ これまでの二人を思い出して
- ・ 負けて悔しいときに側にいてくれた

健二

(けがをして出られない)

道徳の時間の指導内容

2-(3) 「友情」との関連

月	主題名	資料名	内容項目	出典
4	相手を思いやる	あるレストランでの出来事	2-(2) 人間愛・思いやり	日文
10	あたたかい人間愛	ひさの星	2-(2) 人間愛・思いやり	日文
11	望ましい友人関係	贈りもの	2-(3) 友情	日文
11	友情	健二の涙	2-(3) 友情	市道徳
「中学校道徳読み物資料集」(文部科学省発行)との関連			各教科等との関連	
P. 16~19	違うんだよ, 健司		○いい友人関係をつくろう	特活等 音楽 英語
P. 20~25	嵐の後に		○自由への讃歌 ○LET'S RESD 2 A Moment of Peace	

「私たちの道徳」との関連

P. 60~65 励まし合い高め合える生涯の友を

道徳の内容の学年段階・学校段階の系統

2-(3) 「友情」

小学校第1学年及び第2学年	2-(3) 友達と仲良く, 助け合う。
小学校第3学年及び第4学年	2-(3) 友達と互いに理解し, 信頼し, 助け合う。
小学校第5学年及び第6学年	2-(3) 互いに信頼し, 学び合って友情を深め, 男女仲よく協力し助け合う。
中学校	2-(3) 友情の尊さを理解して心から信頼できる友達をもち, 互いに励まし合い, 高め合う。

3の視点「主として自然や崇高なもののかかわりに関すること」の  
内容の趣旨と指導及び学習指導案・資料

## 「主として自然や崇高なものとのかかわりに関すること」の内容の趣旨と指導

### (1) 3の視点について

#### ① 3の視点の意味

道徳の内容に示されている4つの視点は、望ましい道徳性を発現させ身に付けていくために必要なかかわりを示している。したがって、子どもたちが望ましい道徳性を自らの内に培い、人間としての生き方を自覚していくためには、これら4つのかかわりのすべてを主体的にもてるような指導を充実させる必要がある。

- 1の視点「主として自分自身に関すること」  
自己の在り方を自分自身とのかかわりにおいてとらえ、望ましい自己の形成を図る。
- 2の視点「主として他の人とのかかわりに関すること」  
自己を他の人とのかかわりの中でとらえ、望ましい人間関係の育成を図る。
- 3の視点「主として自然や崇高なものとのかかわりに関すること」  
自己を自然や美しいもの、崇高なものとのかかわりにおいてとらえ、人間としての自覚を深める。
- 4の視点「主として集団や社会とのかかわりに関すること」  
自己を様々な社会集団や郷土、国家、国際社会とのかかわりの中でとらえ、国際社会に生きる日本人としての自覚に立ち、平和的で文化的な社会及び国家の成員として必要な道徳性の育成を図る。



＜3の視点は人間としての在り方や生き方を深く自覚し豊かな心をはぐくむうえで基本となる＞

- 道徳教育は、人間としてよりよく生きていく上で必要なさまざまなかかわりを主体的にもち、自ら考え、判断し、自律的に道徳的实践のできる人間の育成を目指している。したがって、道徳の基本は、よりよく生きる自己の確立にあり、私たちの心に訴える美しいものや崇高なものとの主体的なかかわりは、人間の心の内奥を揺り動かし、人間としてのよりよい生き方を求める力に深さを与えるものである。
- 特に道徳の目標に掲げられている生命に対する畏敬の念を培うことによって、生命あるものすべてとの共生を図りながら、人間としてよりよく生きることの課題の自覚を深めることができる。

#### ② 他の視点との関連

- 1, 2, 4の各視点は、いずれも3の視点と相互に深い関連をもっている。人間は自分という存在を見つめれば見つめるほど、自分の生命の不思議さや有限性、自分の生命を支えている自然や崇高なものとのかかわりを自覚せざるをえない。その自覚を通して、人間理解や自己理解が一層掘り下げられ、自己とのかかわりを深めることになる。
- 人間は他の人とのかかわりの中ではじめて生きることができ存在（ともにある存在）である。一人一人がかげがえのない生命と人格をもち、互いに支え合って生きていると自覚することによって、感謝の気持ちや思いやりの心などが一層深められる。
- 集団や社会における人間としての自覚をもたらす、主体的なかかわりを促進する原動力となる。

### (2) 3の視点の指導の観点

#### ① 道徳の時間での指導

道徳の時間は、各教育活動で行われる道徳教育を、全体にわたって補充、深化、統合し、道徳的实践力を育成する時間である。したがって、3の視点の指導においても、各教育活動でどのような指導がなされているのかを把握し、道徳の時間において発展的に指導していくことが大切である。

- 3の視点の指導
  - ・ 人間を自然や崇高なものとのかかわりの中でとらえ、人は人間関係の中だけでなく、自然とのかかわりの中でも生きていること、さらに、人は自らの有限性を自覚するとき、人間の力を超えたものへの思いが深まるものであることを念頭において指導する必要がある。
  - ・ 特に他の視点とのかかわりに留意しながら人間性についての理解を深めることにより、自他の生命の大切さや尊さ、困難を克服する強さや気高さをもとうとする心などが育つことを考慮して指導することが大切である。

- 年間指導計画の作成
  - ・ 道徳の内容が4つの視点から分類整理して示されている趣旨を理解し、内容相互の関連を考慮した指導や3年間を見通した計画的、発展的な指導が行えるようにすることが大切である。
  - ・ 特に人間と自然や崇高なもののかかわりに関する指導は、全教育活動において考えられる。そこで、学校や学年・学級の実態に応じて内容項目を適切に位置付けるように配慮することが大切である。
- 1つの内容項目にいくつかの道徳的価値が含まれている場合
  - ・ 内容項目に含まれている価値を十分に踏まえるとともに、一つのまとまりとして表されている意味を理解し、1年間を通して内容項目の全体が発展的に指導できるように工夫することが大切である。
- 各時間の主題の構成
  - ・ 人間が自然や崇高なもののかかわりの中で、人間としての生き方についての自覚を深め、ともに人間として生きていくことに深い喜びを見いだそうとする意欲や態度を育てることに留意してねらいを設定し、資料を選定することが大切である。
- 指導過程
  - ・ 資料を媒介として人間の力を超えたものに対する畏敬の念が深まれば、人間や動植物などすべての生きものや物に対する態度が変わってくることに着目した指導を通して、崇高な人生を目指し、ともに人間としてよりよく生きていこうとする意欲や態度を育てることが大切である。
  - ・ 他の教育活動や日常生活の様々な面で、人間と自然や崇高なもののかかわりについてどのように感じ、考えているか、そして人間としてよりよく生きていくにはどうしようとしているかなどを把握しておくことが望ましい。

## ② 道徳の時間以外での指導

### (i) 各教科での指導

- 各教科の目標や内容及び教材や学習活動の中に、道徳にかかわる内容や活動が含まれていることを自覚し、教科固有の指導を充実させる過程で、道徳の指導もあわせて行うよう留意することが大切である。
  - ・ 理科では、学習を通して生徒に科学的な自然観を身に付けさせるとともに、あわせて自然を愛する豊かな心情を培うことが大切である。
  - ・ 美術では、美しい自然を絵に表す場合、自然の美しさに触れて感動を覚えたことが絵の主題として表されることになる。また、色や形を表す際には、自然の造形の素晴らしさに対して畏敬の念をも抱くことができる。このような美的体験が人間の心を培う際の大切な基盤となる。
  - ・ 保健体育では、主体的かつ豊かな体験を生かし、「生命の尊重」について生徒の内面に根ざした道徳性を培うことができる。
  - ・ 国語では、優れた文学作品を読むことを通して、自然や崇高なものにかかわる事柄について、今まで自分が考えていたことと違う見方や考え方、生き方に出会い、今までの自分を振り返り、新たな考え方を身に付けていくことができる。
- 各教科の指導においても、3の視点から適切に指導助言することが大切である。

### (ii) 特別活動及びその他の教育活動での指導

- 特別活動で得られた体験が、道徳の時間において更に道徳的に深まることもあれば、道徳の時間で学んだことが特別活動の場で実践されることもある。それぞれの特質を生かしながら、両者の関連を図った指導が必要である。
  - (例) 少年自然の家等における集団宿泊体験、修学旅行
    - 体験の前後に、道徳の時間で自然愛や畏敬の念をとりあげることは、道徳と特別活動の相互の深まりに効果的である。
- 特別活動及びその他の教育活動としての自然体験学習では、自然愛や環境の保全をはじめ、人間の力を超えたものとの出会いを大切に、豊かな情操を培うことができる。
- 自然の本来の美しさや偉大さなどについては、直接体験することによって大きな感動が得られる。

### (iii) 日常生活での指導

- 日常生活においても、3の視点の内容を自分の生き方として身に付け実践するようにすることが大切である。
- 日常生活での指導は、各教科や特別活動における指導にも増して個々の生徒を個別に対象とするものであり、かつ直接的・具体的に望ましい行動を促す指導であることに配慮する必要がある。
- 自然や畏敬の念にかかわる事柄については、家庭や地域の人々との連携を密にして、自分の生き方として身に付け実践するように指導を進める必要がある。



# 學習指導案·資料

## 第1学年 道徳学習指導案

主題名 生命の尊重 3－(1) 生命の尊重

資料名 いのち 出典 大分市教師用道徳指導資料集編集委員会 作

ねらい 「世話をちゃんとする」とつぶやいた主人公の気持ちを〈反省〉〈共感（チコのがんばりに対する思い）〉〈命に対する思い〉などに着目して捉えることにより、生命の尊さを理解しかけがえのない自他の生命を尊重しようとする態度を育てる。

### 主題設定の理由

#### (1) 生徒の実態

この時期の生徒は、自己の生命を意識することは少ない。また、身近な人の死に接したり、人間の生命の有限さやかけがえのなさに心を揺り動かされたりする経験をもつことも少なくなっている。そのため、生命を軽視した軽はずみな行動につながることもある。

そこで、生命の尊さについて考える機会をもち、自らの生命がかけがえのないものであることを深く自覚し、多くの生命によって支えられ生かされていることに感謝の気持ちを抱きながら共に生きようとする態度を育てたい。

#### (2) 資料について

本資料では、飼育しているインコの雌の様子の変異に気づき、病気ではないかと心配する主人公が、母親から雌が卵を抱くために自らの羽毛を抜いて温めていることや自分の出産に関わる様子を聞くなかで、生命の尊さに気づきインコの世話をしようとする決意する姿が描かれている。

主人公が、以前のように自らインコの世話をきちんとしようという気持ちに変わっていったわけを考えさせることを通し、新しい生命を待ちわび必死で守ろうとするインコの姿と母親の話とを重ね、生命への尊厳、尊さを深く考え、自他の生命を尊重しようとする態度をはぐくむことに適した資料である。

### 指導について

導入では、百科事典の写真を見せて「抱卵斑」を説明し、親鳥が卵を温める姿を想像させる活動を取り入れてから資料に出合わせる。

展開では、母親にインコの世話をおしつけていた主人公が「『明日から世話をちゃんとするからね。』と言ったのはどんな気持ちからか」と問い、〈反省〉〈共感（チコのがんばりに対する思い）〉〈命に対する思い〉の視点から主人公の気持ちを考えさせる。チコのがんばりに対する共感という考えが多く出されると予想されるので、「チコと卵を見つめているとき、主人公はどんなことを考えていたのか。」と問い、自分の身を削ってまで新しい命を守ろうとする母親の思いだけでなく、精一杯生きようとする雛や胎児の姿を想像した主人公の気持ちに気付かせたい。また、「人間も同じね」という母親の言葉を取り上げ、『啐啄』の言葉の意味を確認しながら、人間の命だけでなく、生きとし生けるものの生命の尊さについても思いを広げさせたい。

終末では、「私たちの道徳」P.102を朗読した後、今日の学習を通して学んだことを書かせることで、自らの生命の大切さを深く自覚するとともに、人間の生命のみならず身近な動植物を始め、全ての生きものの生命を尊重する態度を育てたい。

学習指導過程

過程	学習活動	指導及び留意点	評価の視点
導入 10分	1 百科事典の「抱卵斑」の写真を見て、説明を聞く。	○ 百科事典の「抱卵斑」の写真を見せて、その説明をする。 ● 「抱卵斑」という言葉を知らせ、親鳥が卵に熱を効率よく伝えるために羽毛が抜けていることに気付かせる。	◆ 羽毛を抜いて卵をあたためている親鳥の姿に共感しているか。
展開 30分	2 資料を読んで「明日から世話をちゃんとするからね。」とつぶやいた美奈子の気持ちについて考える。  3 美奈子がチョコと卵を見つめているときの気持ちを考える。	○ 資料を読ませ、母親にインコの世話をおしつけていた美奈子が「明日から世話をちゃんとするからね。」とつぶやいた気持ちを考えさせる。 「明日から世話をちゃんとするからね。」と言ったのは、どんな気持ちからか。 <反省> ・世話をしなかったことへの反省 ・チョコに悪かったという気持ち <共感（チョコのがんばりに対する思い）> ・自分の体を傷付けながらも一生懸命卵を温めているチョコを応援したい ・無事に雛が生まれるように手助けしたい <命に対する思い> ・生まれようとする命の力とそれを守ろうとする力が合わさって誕生することに気付いた ・命の重さに気付いた ● おなかをさすりながら「ありがとう」と言った母親の気持ちを想像させ、命に対する思いに気付かせる。 ● <チョコのがんばりに対する思い>という視点からの考えが多く出されると思われるので、生まれようとする生命を必死に守るチョコの姿に十分ふれさせたあとで、<命に対する>視点に目を向けさせるように、次の発問をする。 チョコと卵を見つめているとき、美奈子はどうなことを考えていたのか。 ・卵の中で生命が生まれだそうとがんばっている ・わたしもお母さんたちに守られて、自分もおなかの中でがんばって生まれてきたんだなあ ・生命ってすごいなあ ● 「人間も同じね」という母親の言葉を取り上げ、「啐啄」の言葉の意味を確認しながら、精一杯生まれようとする雛や胎児の姿に気付かせる。 ● 補助発問として「母親の言葉を聞いて主人公はどう思ったか。」と問いかけ、この発問につなげることも考えられる。 ● ペット（インコ）の雛が生まれるという期待だけでなく、生命の尊厳に気付いた主人公の行動であることを捉えさせる。	◆ 自分と生まれようとする雛鳥とを重ね合わせながら、命の大切さに気付いているか。
終末 10分	4 今日の授業を通して学んだことを書く。	○ 「私たちの道徳」P.102を朗読した後、今日の授業を通して学んだことを書かせる。 ● 今日の授業を自分なりに振り返る時間をしっかり取り、書く時間を保障する。	◆ 生命を尊重しようという気持ちが表われているか。

## いのち

美奈子<sup>みなこ</sup>の家では、インコを飼っている。雄のポポと雌のチコだ。鳥かごの掃除は、二羽を飼い始めるときに母と交わした約束だった。初めのうちは、毎日の水替えも欠かさずに行っていた美奈子だったが、だんだんとインコの世話を母に押し付けてしまっていた。

久しぶりに鳥かごをのぞくとポポは気持ちよさそうに毛づくろいをしている。あれ？チコの姿が見えない。そういえば、数日前からコツコツと木を削る音がしていた。思い切つて巣箱のふたを開けると、たくさんの木屑とやわらかな羽毛があふれていた。チコは、その上にうずくまっている。美奈子は少し不安になった。そういえば、警戒心が強くなったチコは、餌を食べる以外はほとんど巣箱から出てこない。ポポも巣にこもることが増えていた。

たまに巣箱から出てくるチコは、日に日にやせて弱っていく気がした。よく見ようとかごに近付くと、あわてて巣に戻るチコ。おなかあたりの羽が、すっかり抜け落ちている。もしかして病気？私が掃除をしなかつたせいで雑菌が入ったのかもしれない。美奈子は急いで母を呼んだ。

「大丈夫よ、美奈ちゃん。」

母は、チコが卵を温めるために自分の羽を抜いて直接肌が触れるようにしているのだと教えてくれた。そつと巣箱をのぞき込んでみると、チコの体の隙間から白いものが見えた。病気ではなく雛鳥<sup>ひな</sup>が生まれるのだ。美奈子はどきどきしながらあわててふたを閉めた。でも、やせ細つたチコは卵をかえすことができるのだろうか。

母は、美奈子にこんな話を聞かせてくれた。美奈子がおなかにいたときに、食べ物をほとんど口から摂ることができず、栄養剤の注射を打つために父や祖母に付き添ってもらつて何度も病院通いをしたという。また、検診の日には、仕事で無理をしたことがおなかの赤ちゃんに影響していないか、どきどきしながらモニターを見たそうだ。そして、モニターの中の赤ちゃんの心臓や手足が元気に動くのを確かめては、ほつとしたらしい。

「『ありがとう、ありがとう』つて何度もおなかをさすつたのよ。聞こえてた？」

「そんなのわかんないよ……。」

と言いつつも、美奈子はなぜか胸がいつぱいになった。

次の日、図鑑を見入っていた二人の目に、見慣れない文字が飛び込んできた。『啜<sup>ちやく</sup>啄<sup>たく</sup>』。雛から卵からかえるとき、殻を破ろうとして中から啜く雛鳥に合わせて、親鳥が外から殻を啄くさまをあらわす言葉だそうだ。

「人間も同じね。赤ちゃんがおなかの中で外に出る準備が出来たよつという合図が陣痛だもの。」

母の言葉に、美奈子は自然とうなずいていた。

「明日から世話をちゃんとするからね。」

美奈子は、そうつぶやきながら、母と二人で鳥かごの前で時がたつのも忘れてチコと卵をながめていた。

板書計画

生命の尊厳 || 生命の重さ

チコと卵を見つめているとき、美奈子はどんなことを考えていたのか。

- ・ 卵の中で生命が生まれようががんばっているんだ。
- ・ 生命ってすごいなあ。
- ・ 生命を大切にしているからね。

いのち

母親にインコの世話をやしつけていた美奈子

「明日から世話をちゃんとするからね。」と  
言ったのはどんな気持ちからか。

〈反省〉

- ・ 世話をしなかったことへの反省
- ・ チコに悪かったという気持ち

〈共感(チコのがんばりに対する思い)〉

- ・ 自分の体を傷付けながらも一生懸命卵を温めているチコを応援したい。
- ・ 無事に雛が生まれるように手助けしたい。

〈命に対する思い〉

- ・ 生まれようとする命の力とそれを守ろうとする力が合わさって誕生することに気付いた。
- ・ 命の重さに気付いた。

道徳の時間の指導内容		3-(1) 「生命の尊重」との関連		
月	主題名	資料名	内容項目	出典
7	生命の尊さ	あなたはすごい力で生まれてきた	3-(1) 生命の尊重	日文
11	生命 (いのち)	葉っぱのフレディ	3-(1) 生命の尊重	日文
12	生命の尊重	いのち	3-(1) 生命の尊重	市道徳
1	かけがえのないいのち	ゆうへー生きていてくれてありがとうー	3-(1) 生命の尊重	日文
「中学校道徳読み物資料集」(文部科学省発行)との関連		各教科等との関連		
P. 42~45 P. 46~51	絶やしてはならないー緒方洪庵ー キミばあちゃんの椿	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域の防災と安全</li> <li>○心身の発達と心の健康</li> <li>○大人になれなかった弟たちに…</li> <li>○LET'S READ 2 A Girl Saved Many Lives</li> </ul>		特活等 保体 国語 英語

「私たちの道徳」との関連	
P. 102~113	かけがえのない自他の生命を尊重して

道徳の内容の学年段階・学校段階の系統		3-(1) 「生命の尊重」
小学校第1学年及び第2学年	3-(1) 生きることを喜び、生命を大切にすることを学ぶ。	
小学校第3学年及び第4学年	3-(1) 生命の尊さを感じ取り、生命あるものを大切にすること。	
小学校第5学年及び第6学年	3-(1) 生命がかけがえのないものであることを知り、自他の生命を尊重すること。	
中学校	3-(1) 生命の尊さを理解し、かけがえのない自他の生命を尊重すること。	

## 第3学年 道徳学習指導案

主題名 人間の強さと気高さ 3－(3) 人間の強さと気高さ、生きる喜び

資料名 ステージの直樹 出典 大分市教師用道徳指導資料集編集委員会 作

ねらい 何かやらなければと思えるようになった主人公の気持ちを〈弱い自分〉〈感心する自分〉〈奮い立たせる自分〉等に着目して捉えることにより、人間には弱さを克服する強さや気高さがあることを信じて、人間として生きることに喜びを見いだす態度を養う。

### 主題設定の理由

#### (1) 生徒の実態

この時期の生徒は、人間が内に弱さや醜さを持つと同時に、強さや気高さを併せて持っていることを理解することができるようになってくる。しかし、なかなか自分に自信がもてないだけに、劣等感にさいなまれたり、人をうらやましく思ったりすることもある。また、一方では、崇高な人生を送りたいという人間のもつ気高さを追い求める心もある。したがって、自分を含め、人はだれでも人間らしいよさを持っていることを認め、決して人間に絶望することなく、だれに対してもその人間としてのよさを見いだすとともに、自分に恥じない誇りある生き方、夢や希望など喜びのある生き方を見いだそうとする態度をはぐくみたい。

#### (2) 資料について

本資料は、生徒会役員選挙の候補者に推薦された主人公が勉強や部活動の練習を理由に断るが、彼が推薦して立候補者になった友人が真剣に選挙活動に取り組む真意を知り、自分のとった利己的な行動を恥じてしまう。その後、ステージの上で演説をする友人の姿を見て、今の自分にできることは何か考え、前進していこうとする姿が描かれている。

人間が内に弱さや醜さを持つと同時に、強さや気高さを併せて持っていることを理解するとともに、自分を奮い立たせることで目指す生き方、誇りある生き方に近付くことができることに目を向けられるようにするのに適した資料である。

### 指導について

導入では、これまでの経験から、何らかの役に選ばれた時の心情を発表させ、主人公の気持ちに近付けさせたい。

展開では、主人公が推薦し候補者となった直樹の行動を通して、主人公の心情が変化していく様子を〈弱い自分〉〈感心する自分〉〈奮い立たせる自分〉という視点で捉えていくことにより、主人公が自分の弱さに気づき、それを克服していこうとしたことを理解させたい。

また、勉強や部活動を優先したいという主人公の気持ちは、中学生なら誰にでもある考え方である。しかし、同じような立場でありながら、自分なりにみんなのためにやり通そうとした直樹もいる。今はできなくとも、そうありたいと思うようになった主人公の心情の変化に目を向けさせたい。

終末では、今の自分の姿を振り返り自分への応援メッセージを書かせることで、自分の弱さを克服し自分を奮い立たせてがんばろうとする気持ちを高めたい。



## ステージの直樹

三年生になって、もう半年が過ぎようとしていた。来月からは後期に入るため、後期生徒会役員を決める選挙が行われる。今日は、生徒会役員立候補者を決める日だ。

司会者が「生徒会長に立候補する人はいませんか。」といったが誰も手を挙げない。これからみんな高校入試に向けての勉強で大変だろうし、生徒会長という大役を簡単に引き受けるようなことはないだろうなと思っていた。司会者は困ってしまい、仕方なく推薦へと移った。しばらく沈黙が続いていたが、

「二年生の時に経験もあるので、中村君がいいと思います。」

と、突然ぼくの名前が出た。

(勉強以外にも、駅伝大会の選手という役目があり、中途半端な気持ちや練習では上位に入ることなどできない。放課後の貴重な時間を生徒会活動にまわす余裕などないのに…)

と考えたぼくは、すぐに断った。そこでぼくは、同じ駅伝部だが補欠で、まじめでおとなしい直樹を推薦した。直樹はちよつと驚いたような顔をしたが、少し間をおいて

「いいよ、ぼくでよければ。」

と言ってくれた。ぼくは正直ほつとした。

次の日から選挙に向けての取り組みが始まった。クラスみんなは、ぼくが直樹を推薦したことに賛成はしたものの、彼が選ばれることはないだろうと思っていた。

しかし、直樹は、数人の友だちと放課後遅くまで残ってポスターを描いたり、たすきを作ったりしていた。また何回も演説原稿を書き替え、先生からアドバイスをもらっていた。驚いたことに、直樹は朝早く登校し、校門のところで今まで聞いたことのないような大きな声でみんなに挨拶をしていた。駅伝の練習には選挙の仕事が終わった後、「遅れてすいません。」といて毎日参加してきた。

最初はあまり関心のなかったぼくだが、そんな直樹の姿を見るうちに、「なぜ、そんなに一生懸命になれるんだろう。」と不思議に思った。それと同時に直樹に押しつけた自分が何となく後ろめたくなってきた。

ある日の放課後、練習に参加してきた直樹に思い切つて理由を尋ねた。

すると彼は、

「今まで、まじめなだけが取り柄で、何もみんなのためにしてこなかった。なのに君が推薦してくれて、クラスみんなも、拍手してくれたんだ。ぼくにも何かできるかも…そう思つて。多分無理だろうなあ。でも、自分なりにやり通したいんだ。」と。

そのことばに衝撃を受けたぼくは、直樹の顔をまともに見ることができず顔を伏せた。

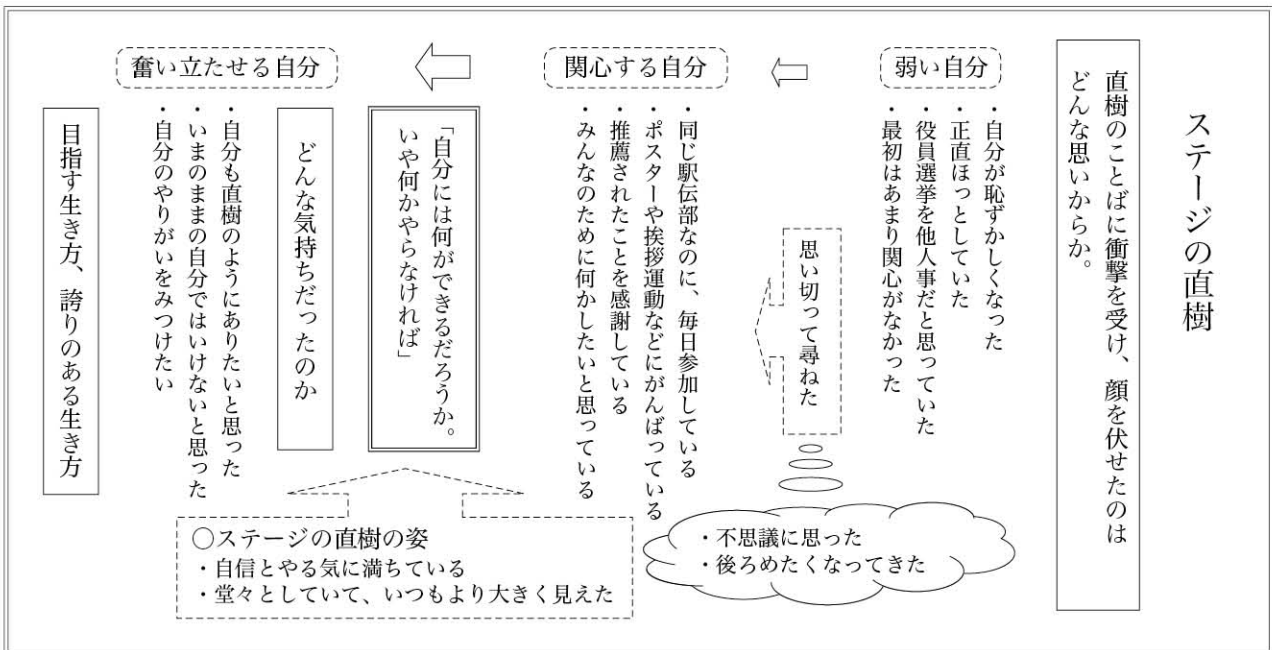
生徒会役員選挙当日、ステージに立った直樹は堂々としていて、いつもより大きく見えた。直樹の自信とやる気に満ちた演説に、みんなは圧倒された。彼の演説が終わった時、ぼくは拍手をしながら

(自分には何かできるだろうか、いや、今何かやらなければ…)

という思いがこみ上げてきた。



板書計画



道徳の時間の指導内容		3- (3) 「人間の強さと気高さ、生きる喜び」との関連		
月	主題名	資料名	内容項目	出典
9	弱さの克服	挫折から希望へ	3- (3) 人間の強さと気高さ、生きる喜び	日文
1	人間の強さと気高さ	ステージの直樹	3- (3) 人間の強さと気高さ、生きる喜び	市道徳
「中学校道徳読み物資料集」(文部科学省発行)との関連		各教科等との関連		
・掲載例なし		○朝焼けの中で ○あせりと不安の解消 ○LET'S READ 2 A Moment of Peace	国語 特活等 英語	

「私たちの道徳」との関連	
P. 120~131	人間の強さや気高さを信じ生きる

道徳の内容の学年段階・学校段階の系統		3- (3) 「人間の強さと気高さ、生きる喜び」
小学校第1学年及び第2学年	/	
小学校第3学年及び第4学年		
小学校第5学年及び第6学年		
中学校	3- (3) 人間には弱さや醜さを克服する強さや気高さがあることを信じて、人間として生きることの喜びを見いだすように努める。	

4の視点「主として集団や社会とのかかわりに関すること」の  
内容の趣旨と指導及び学習指導案・資料

## 「主として集団や社会とのかかわりに関すること」の内容の趣旨と指導

### (1) 4の視点について

#### ① 4の視点の意味

道徳の内容に示されている4つの視点は、すべての人間がもっている生活上のかかわりの対象を示している。したがって、子どもたちが望ましい道徳性を自らの内に培い、人間としての生き方についての自覚を深めていくためには、これら4つのかかわりのすべてを主体的にもてるような指導を充実させる必要がある。

- 1の視点「主として自分自身に関すること」  
自己の在り方を自分自身とのかかわりにおいてとらえ、望ましい自己の形成を図る。
- 2の視点「主として他の人とのかかわりに関すること」  
自己を他の人とのかかわりの中でとらえ、望ましい人間関係の育成を図る。
- 3の視点「主として自然や崇高なものとのかかわりに関すること」  
自己を自然や美しいもの、崇高なものとのかかわりにおいてとらえ、人間としての自覚を深める。
- 4の視点「主として集団や社会とのかかわりに関すること」  
自己を様々な社会集団や郷土、国家、国際社会とのかかわりの中でとらえ、国際社会に生きる日本人としての自覚に立ち、平和的で文化的な社会及び国家の成員として必要な道徳性の育成を図る。



＜4の視点は民主的、平和的な社会及び国家の形成者として必要とされる道徳性の育成にとって基本となる＞

- 自己を集団や社会生活の中でとらえ、平和的で文化的な社会及び国家の一員として必要とされる道徳性を育成する内容がまとめられている。すなわち、自己が属する集団や社会の中での役割と責任を自覚し、自律性と連帯性をもって行為することのできる子どもを育成しようとするものである。
- 人は、様々な社会集団の中で生きており、それぞれの社会集団の特徴や意義を理解するばかりでなく、社会集団の一員として生きるとはどういうことなのか、集団や社会をよくし、同時に自分を生かすにはどうすればよいかを考えさせることが大切である。

#### ② 他の視点との関連

- 1, 2, 3の各視点は、いずれも4の視点と相互に深い関連をもっている。人間は社会的な存在であり、一人一人が主体性をもった存在である。真の社会的な人間であるためには、自己の在り方を集団や社会とのかかわりの中で身に付けていくことが不可欠である。
- 社会集団における成員相互のかかわりを考えると、他の人とのかかわりに関することに挙げられている内容が基盤となり、集団や社会とのかかわりに関する内容に発展する。
- 人間存在と社会についての理解を深めるためには、自然や崇高なものとのかかわりに示されている内容が不可欠であり、集団や社会における人間としての自覚をもたらし、社会や集団との主体的なかかわりを促進する原動力になる。

### (2) 4の視点の指導の観点

#### ① 道徳の時間での指導

道徳の時間は、全教育活動で行われる道徳教育を、全体にわたって補充、深化、統合し、道徳的实践力を育成する時間である。したがって、4の視点の指導においても、各教育活動でどのような指導がなされているかを把握し、道徳の時間において発展的に指導することが大切である。

- 4の視点の指導
  - ・ 生徒が自分自身を集団や社会とのかかわりの中でとらえ、協力し合って集団生活の向上につとめ、さらには国際的視野にたつて、世界の中の日本人としての自覚を高めるように指導することが大切である。

- 年間指導計画の作成
  - ・ 道徳の内容が4つの視点から分類整理して示されている趣旨を理解し、内容相互の関連を考慮した指導や3年間を見通した計画的、発展的な指導が行えるようにすることが大切である。
  - ・ 特に集団や社会の成員としての自覚は、学校行事等の体験的な学習と大いに関係することから、季節や行事、各教科等での体験活動、日常生活での体験等の実態を踏まえて、内容項目を適切に位置付けるように配慮することが大切である。
- 各時間の主題の構成
  - ・ 集団や社会の成員としての自覚を深め、主体的にかかわろうとする意欲や態度を育てることに留意してねらいを設定し、感動を与え、集団や社会とのかかわりで自己の在り方を深く考えることができる資料を選定することが大切である。
- 指導過程
  - ・ 資料を媒介として、感動や思いなどが共有できるように工夫するとともに、自分を集団や社会とのかかわりの中でとらえ、人間としての自覚を深めることができるように構成することが大切である。
  - ・ 資料の提示を工夫したり、身近な補助資料を用意したり、発問を工夫したりして、一人一人の心の動きをとらえた展開を工夫する。また、他の教育活動との関連を図った指導過程を組むことも重要である。

## ② 道徳の時間以外での指導

### (i) 各教科での指導

- 各教科の目標や指導内容の中に関連するものが含まれているものが多く、各教科固有の指導をすすめる過程で、道徳にかかわる指導にも十分配慮することが必要である。
  - ・ 社会科では、4の視点にかかわる内容を含むものが多く、集団や社会についての理解を深めるうえで関連を図った指導をする必要がある。
  - ・ 技術・家庭科の家庭生活の内容は、4の視点(6)の内容と関連が深く、指導上の配慮が必要である。
- その他の教科においても、その指導内容や学習活動に4の視点にかかわるものが多く、適切に指導、助言することが必要である。

### (ii) 特別活動及びその他の教育活動での指導

- 一般に生徒の道徳性を育成するためには、道徳の時間の指導を特別活動やその他の様々な実践に関連付けて進めることが必要である。
  - (例) 職場体験活動、福祉や環境などにかかわるボランティア活動、奉仕活動など
- 4の視点の内容については、特別活動等の実践場面における指導を通して達成されるものが多く、これを自覚的なものに深め、様々な活動場面で生かしていくことが大切である。
- 具体的には、学級、生徒会等の集団場面において、学校行事等の活動を通して伸長していくことが必要である。

### (iii) 日常生活での指導

- 生徒は学校をはじめ家庭や地域社会の中で、多くの人々とともに生活しており、4の視点の内容は、日常的な集団場面の中で実践的に身に付けるものが多い。
- 校内における実践的な指導を進めるとともに、家庭や地域社会の人々との連携を強め、子どもが自覚的に実践できるよう援助していくことが必要である。

# 學習指導案・資料

## 第1学年 道徳学習指導案

主題名 郷土を愛する 4-（8）郷土愛

資料名 地域でつくった大記録 出典 大分市教師用道徳指導資料集編集委員会 作

ねらい 誇らしい気分になった主人公の気持ちを〈記録〉〈努力・協力〉〈地域〉などに着目して捉えることで、住んでいる地域に深く関わりその地域を愛し、地域の発展のために積極的にかかわろうとする態度をはぐくむ。

### 主題設定の理由

#### （1）生徒の実態

この時期の生徒は、自我の確立を強く意識するあまり、ともすれば、自分が自分だけで存在していると考えがちである。そのため、郷土で生きている自分の姿に気づき、自分だけで存在しているのではなく、家族や地域の人々によって自分が支えられて生きていることを自覚し、尊敬と感謝の気持ちを深めることは大切なことである。

そこで、地域での清掃活動や祭りなどの行事に進んで参加し、地域社会の一員としての自覚をもち、郷土を愛し、自らも郷土の発展のためにできることをしようとする態度を育てていきたい。

#### （2）資料について

本資料では、大分市の「全市いっせいがみ拾い大作戦」に参加した主人公が、地域の人々が生き生きと活動に参加する姿を目の当たりにし、その活動をとにもする中で充実感と地域の一員としての喜びや誇りが生まれてくる様子が描かれている。主人公や地域の人々がどのような気持ちで参加したのかを考えることを通し、地域の発展のために主体的に活動しようとする意欲を高めるのに適した資料である。

### 指導について

導入で「自分が住んでいる地域のよいところは何か。」と問い、地域について振り返らせる。

展開では、主人公が、ゴミ拾いに参加した後、通行人の「大分ってきれいだね。」という言葉聞いて「誇らしい気分になったのはなぜか。」を問い、その理由を〈記録〉〈努力・協力〉〈地域〉の視点から考えさせていく。地域での活動に参加することよりも自分自身の生活を充実させることを優先させていた主人公が地域のために主体的に活動に関わる人々の様子や目標をみんなで達成したことを通して、地域への愛着を感じるようになっていくことに気付かせたい。

さらに、「主人公が部活の帰り道にゴミ拾いをしているのは、どんな気持ちからか。」と問うことで、主人公が地域のために自分にできることを行動に移していることに気付かせたい。

終末では、自分の住んでいる地域を今後よりよくするために自分はどんなことができるかを考えさせ、自ら地域に深くかかわり、地域の発展のために実践しようとする態度をはぐくみたい。



## 地域でつくった大記録

「明日は休みだ！」

中学校に入って最初の夏休み。毎日あった部活動が明日は休みになる。ぼくは、朝寝坊できることや友だちと買い物に行けるといふことばかり考え、とてもうきうきしていた。

その日の夕食の時だった。

「いよいよ明日が『日本一きれいな街づくり運動』の日だな。参加者数でギネスに挑戦するらしいぞ。昨年までの記録は北九州市の7万人くらいだったんだって。さあて、お父さんもがんばるぞ。」

と父が力強く言い始めた。そう言えば8月7日は大分市の『全市いつせいごみ拾い大作戦』という活動があり、父はすいぶん前から参加すると言っていた。ぼくも休みになったことを知って、急に家族全員で活動すると言い出した。ぼくは返事もせずに二階の自分の部屋へ上がった。

「大人しか来ないさ。お父さんたちだけが行けばいいのに……。」

とベッドの上でつぶやいた。

次の日の朝早く、ぼくは母から起こされた。一階では父の元気な声が響いている。何度も起こされるので、しぶしぶ下へ降りていき、重い気持ちで準備を始めた。朝早いとはいえ夏の日差しはきつく、玄関を出たぼくは、さらにゆううつな気分になった。家族で目的地の公園へ向かっていると、思っていたよりも多く人が参加している。近所のお年寄りやおじさん、おばさん、小学生の姿もある。みんなと一緒にぼくも道ばたのごみを拾って歩いた。じりじりと太陽が照り付ける。汗が流れる。それにしてもごみが多い。

両手で持ちきれないほどのごみを持って公園に着くと、さらにたくさんの方が、いっぱいになったゴミ袋を持って集まってきた。不意に声をかけられ、驚いて振り向くと同級生たちもいた。辺りを見渡してみると部活の先輩たちもたくさん来ている。集まった人たちを案内しているのは、同じクラスの子のお父さん、ごみを分別している人は、隣のおじちゃんやおばあちゃんたちなど地域の人々がみんなで行き組んでいることに、ぼくは気が付いた。父についてぼくもゴミ袋を渡しに行くと、

「健ちゃん、こんなにたくさん拾って……、よくがんばったなあ。」

と、向かいに住んでいるおじさんから声をかけられ、何だかちよつと恥ずかしい気持ちになりながら名簿に名前を記入した。

昼食のあとテレビをつけると、ごみ拾いの様子がニュースで流れていた。じつと聞き入っているぼくの耳に、「十四万を超え、これまでの記録更新！」という言葉が飛び込んできた。

「やったね！」

両親と笑顔で拍手をした

その日の午後友だちと買い物に行く途中、すれ違った人たちから、

「大分つてきれいだね。ごみとかほとんどなくていいよね。」

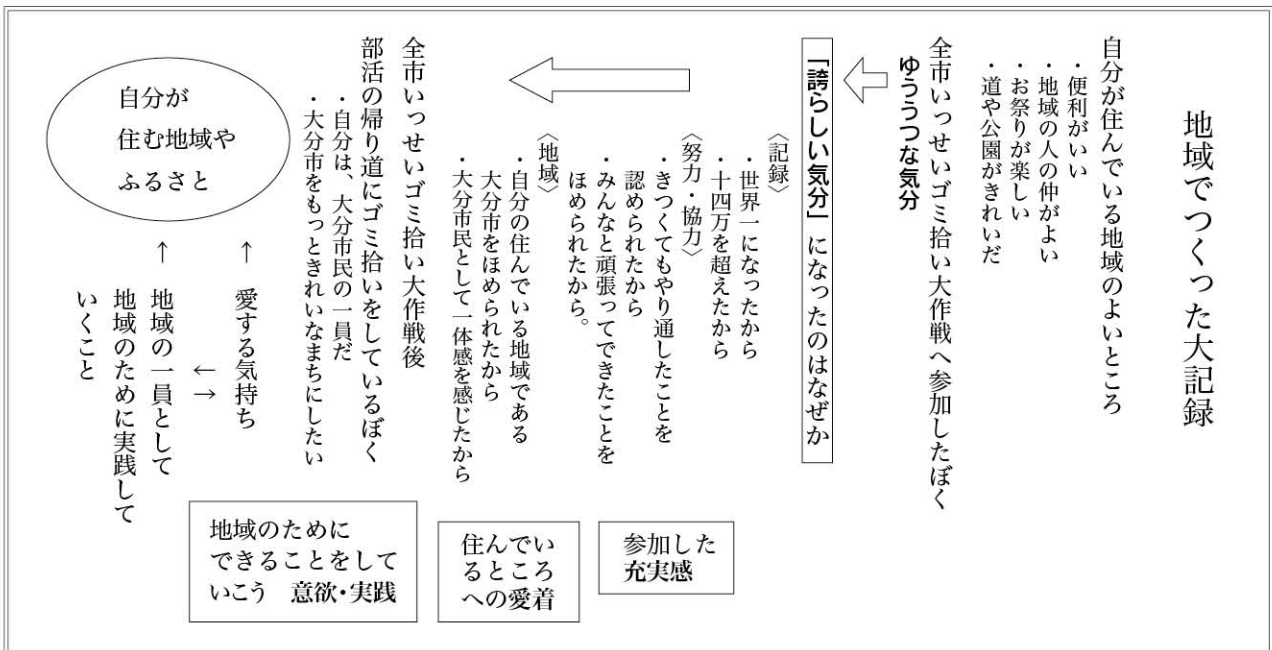
という声が聞こえた。それを聞いてぼくは、誇らしい気分になった。

「じゃあな、また、明日。」

いつもと同じように、部活が終わってみんな家へと帰っていく。しかし、一つだけぼくにはあの日から変わったことがある。部活の帰り道にごみ拾いをしているのだ。ぼくは、ぼくにできることをしていこうと思っている。



板書計画



道徳の時間の指導内容

4- (8) 「郷土愛」との関連

月	主題名	資料名	内容項目	出典
7	郷土を愛する	地域でつくった大記録	4- (8) 郷土愛	市道徳
9	日本人として	さよなら、ホストファミリー	4- (9) 愛国心	日文
9	国際理解	違いを乗り越えて	4- (10) 国際理解	日文
10	郷土のすばらしさ	篠崎街道	4- (8) 郷土愛	日文

「中学校道徳読み物資料集」(文部科学省発行)との関連

各教科等との関連

P. 66~69

○ロックンローラー

- おもしろ歴史発見!
- LESSON 2 My School
- 日本の民謡、ふるさと
- 地域清掃活動

社会  
英語  
音楽  
特活等

「私たちの道徳」との関連

P. 200~205

ふるさとの発展のために

道徳の内容の学年段階・学校段階の系統

4- (8) 「郷土愛」

小学校第1学年及び第2学年	4- (5) 郷土の文化や生活に親しみ、愛着をもつ。
小学校第3学年及び第4学年	4- (5) 郷土の文化と伝統を大切にし、郷土を愛する心をもつ。
小学校第5学年及び第6学年	4- (7) 郷土や我が国の文化と伝統を大切にし、先人の努力を知り、郷土や国を愛する心をもつ。
中学校	4- (8) 地域社会の一員としての自覚をもって国を愛し、国家の発展に努めるとともに、優れた伝統の継承と新しい文化の創造に貢献する。

主題名 公德心 4-（2）公德心・社会連帯の自覚

資料名 あったほうがいい？ 出典 大分市教師用道徳指導資料集編集委員会 作

ねらい 主人公の街をきれいにしたいという気持ちをもとに＜ゴミ箱を設置した場合＞＜ゴミ箱を設置しない場合＞＜ゴミ箱の設置の有無に限らない＞などの視点に着目して議論することにより、社会生活の中で守るべき正しい道としての公德を大切にする態度をはぐくむ。

#### 主題設定の理由

##### （1）生徒の実態

この時期の生徒は、他人の行動に敏感であり、社会生活の中で見かける大人のマナーの悪さを指摘し、批判する気持ちを強くもっている。その反面、公の場で意識するしないにかかわらず自己中心的な言動をとってしまうことも少なくない。また、既成のものに対する反発が出てくる年代ではあるが、自己中心的で自分勝手な言動をよくないと思う心が内面には十分あり、だれもが望むよりよい社会の実現については大人より純粋に考えることができる。

そこで、よりよい社会を実現するためには、社会生活を営むうえで必要とされる約束やきまりを重んじ、自他への配慮と深い思いやりが大切であることを理解させたい。

##### （2）資料について

本資料は、街中で捨てられたガムを踏んでしまった主人公が、その原因はゴミ箱が設置されていないことにあると考えていたが、母親からゴミ箱があるゆえに生じている事実もあることを聞かされ、悩んでしまうという姿が描かれている。

主人公の悩む姿を通して、設置の利点や問題点を考えさせ、だれもがよりよい生活を送るために、互いに迷惑をかけることのないような行動をとろうとする態度をはぐくむのに適切な資料である。

#### 指導について

導入では、ゴミについて、日頃、感じていることを発表させ、資料への興味・関心につながるようさせたい。

展開では、資料を読み、主人公の考え込んでしまった姿に着目させてゴミ箱を設置しても新たな問題が生じることに気付かせたい。さらに、設置について「賛成」「反対」の立場から、それぞれの利点や問題点について考えさせ、互いの意見を整理しておく。その後、町をきれいにするためには、ゴミ箱の設置の有無が問題ではなく、そこで生活する人々の意識のもち方によるものであることに気付かせ、「きれいな町をつくるためにはどのようにすればよいか」について考えさせたい。

終末では、「よりよい社会を築くために、自分ができること」を考えさせ、生徒一人一人が自分も社会の一員であるという自覚を深め、社会生活の中で守るべき正しい道としての公德を大切にする態度を育てたい。



## あつたほうがいい？

「うわあー、踏んじやったー。」

靴の底にくっついたガムはなかなか取れず、ベタベタして歩きづらい。足が地面に引っ張られるような感じだ。

「誰が捨てたの。」と声を出してみても、一緒に買い物をしてきた友だちと別れた今は、返事をしてくれる人もいない帰り道である。

「まったくマナーが悪いんだから。この靴、今日はじめてはいたのに。」と智子は腹が立ってきた。気持ちのよく広がった秋空もさつきまでの友達との楽しい会話も、いっぺんにふきとんでしまうほど嫌な気分になってしまった。通りかかった自動販売機のあたりには、ガムのほかにも空き缶や紙くずが散らかっていたが、近くにはゴミ箱は見当たらなかった。

「おかえりなさい。あら、智子どうしたの。」

家の中に黙って入ってきた智子に、夕食の支度を始めていた母親が声をかけた。智子はいすにドスンと座るなり、

「さつき、街でガムを踏んでしまって、とつても嫌な気分になったの。ガムをどこにでも捨てるなんてマナーが悪すぎると思わない。でもそこね、捨てるところもないのよ。だから、空き缶なんかもうくつものころがっていたし。まったくゴミ箱くらい置いとけばいいのに。そしたら、みんな入れてきれいになるのに。」と、いつきに自分の思いをしゃべった。

「でも、それはどうかしら。」

それまで智子の話に相槌をうちながら聞いていた母親がつぶやいた。そして、「ゴミ箱があることで別の問題も起こっているのよ。」と、最近見たニュースのことを話し出した。

「コンビニの前に置かれたゴミ箱の中に、まったく分別もしていないゴミが持ち込まれているんですつて。そのお店で売っている物でもないし、紙おむつもあつたそうよ。ほかにも、高速道路のパーキングエリアのゴミ入れなどにも明らかに家庭のゴミと判るようなものが大量に捨てられているんですつて。」

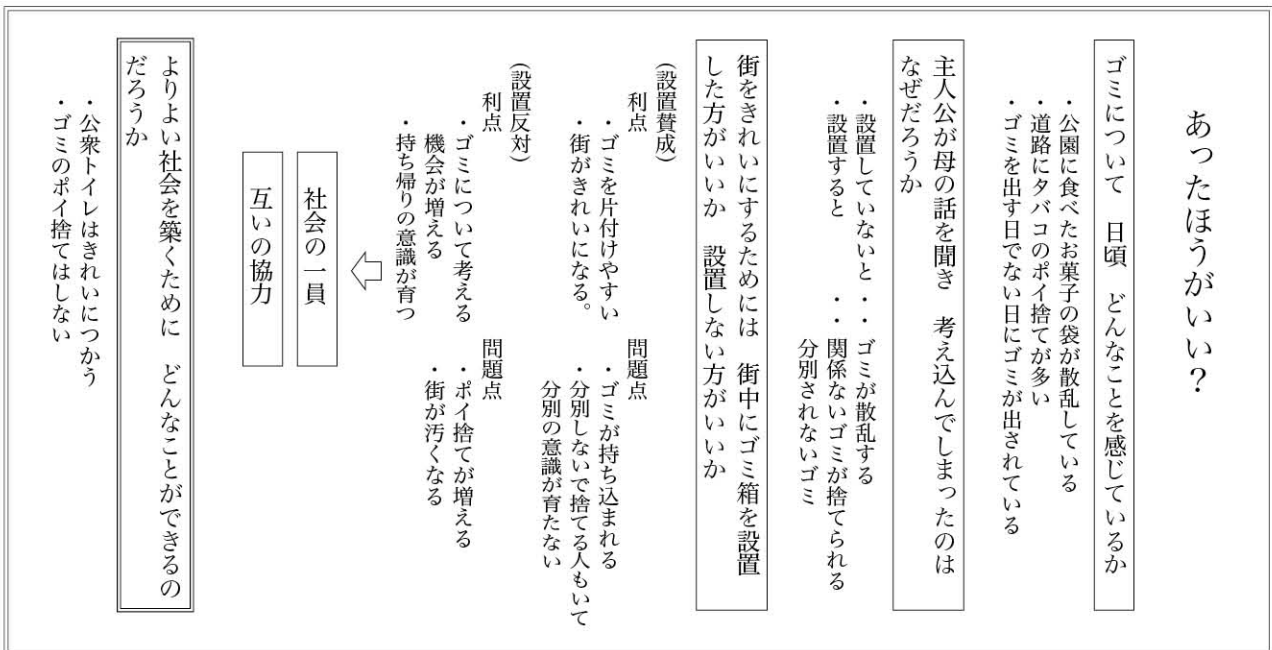
「えー、そうなの。」智子は驚いた。

「ほかにもどこかの市では花火大会のあと、近所の庭先にゴミが捨てられていくのをさけるために、会場の河原でゴミを置いて帰るようにと呼びかけ、集めたそうよ。そうしたらゴミの山がいくつもできて、翌日大掃除ですつて。」

母親から話を聞いたあと、智子は考え込んでしまった。ゴミ箱があつたら、ゴミが増える？でもどこにでも捨てるよりいいんじゃない。私はゴミ箱があれば、利用するけど、みんなは……。

「街中にゴミ箱は置かないほうがいいのだろうか。」と智子はわからなくなってしまった。

板書計画



道徳の時間の指導内容		4-(2) 「公德心・社会連帯の自覚」との関連		
月	主題名	資料名	内容項目	出典
5	思いやりの心	ある車中でのこと	2-(2) 思いやり	日文
6	公德心	あつたほうがいい?	4-(2) 公德心・社会連帯の自覚	市道徳
9	自他への配慮	自分, 相手, 周りの人	4-(2) 公德心, よりよい社会の実現	日文
「中学校道徳読み物資料集」(文部科学省発行)との関連			各教科等との関連	
P. 62~65	○鳩が飛び立つ日 -石井筆子-		○武士による支配の完成 ○日本の地域構成 ○社会へ広がる美術 ○修学旅行, 職場体験活動	社会 社会 美術 特活等

「私たちの道徳」との関連	
P. 148~159	つながりをもち住みよい社会に

道徳の内容の学年段階・学校段階の系統		4-(2) 「公德心・社会連帯の自覚」
小学校第1学年及び第2学年	4-(1) みんなが使う物を大切にし, 約束やきまりを守る。	
小学校第3学年及び第4学年	4-(1) 約束や社会のきまりを守り, 公德心をもつ。	
小学校第5学年及び第6学年	4-(1) 公德心をもって法やきまりを守り, 自他の権利を大切にしながら義務を果たす。	
中学校	4-(2) 公德心及び社会連帯の自覚を高め, よりよい社会の実現に努める。	

## 第2学年 道徳学習指導案

主題名 勤労の尊さ 4－（5）勤労の尊さ

資料名 私の職場体験 出典 大分市教師用道徳指導資料集編集委員会 作

ねらい 職場体験を通して働くことへの意欲を高めていった主人公の気持ちを、＜仕事ができるようになった自分＞＜他者が認めてくれた自分＞＜他の人と気持ちがつながった自分＞などに着目して捉えることで、一人一人が勤労の尊さや意義を理解し、社会生活の発展・向上に貢献しようとする態度をはぐくむ。

### 主題設定の理由

#### （1）生徒の実態

この時期の生徒は、自分の目的を実現するためや気のあった仲間と一緒にする仕事には意欲的に取り組むが、共同で行う仕事や集団での仕事については、これをいとう傾向も少なくない。

そこで、自分の進路や職業について関心が高くなってくるこの時期に、勤労の尊さや意義について考えられるようにするとともに、働くことについての理解を通して職業についての正しい考え方を育てることや公共の福祉に努めようとする態度を育てたい。

#### （2）資料について

本資料では、職場体験で仕事のつらさや単調さからはじめは他の仕事をしたいと思っていた主人公が、徐々にレジ係の仕事のおもしろさややりがいに気付き、前向きに頑張ろうとする姿が描かれている。

主人公の気持ちが変わっていったのは、母の話とお客さんからかけられた言葉によって「他の人とかわかることの喜び」を実感したからである。

「働くこと」が生きるための糧を得、自己の目的を実現するためのみならず、勤労を通して社会に奉仕し、貢献しようとする態度をはぐくむのに適した資料である。

### 指導について

導入では、自らの職場体験を振り返って、うれしかったことやつらかったことを考えさせることにより、「働くこと」について考える準備をさせたい。

展開では、資料を読み、主人公が「自分でもびっくりするような大きな声で頭を下げたのはなぜか。」を問い、その理由を＜仕事ができるようになった自分＞＜他者が認めてくれた自分＞＜他の人と気持ちがつながった自分＞の視点から考えさせていく。

さらに、「主人公が大きな声で頭を下げたのは、自らの充実感や他者から認められたことだけなのか」と問い、他とかかわかることの喜びが、自らの充実感となり、生きがいのある生き方につながることに気付かせたい。その際、補助発問として、自分本位な気持ちで働いていた2日目の自分の姿と母が通う店の店員の姿を比較させることも考えられる。

終末では、働くことに対する自分の考えをまとめ、勤労の尊さや意義について見直すきっかけとしたい。

本資料を、職場体験活動後に行なうことで、活動中に生徒が実際に感じた仕事のやりがいや大変さだけでなく、働くことの尊さや意義について考えを深めることができる。

学習指導過程

過程	学習活動	指導及び留意点	評価の視点
導入 5分	1 職場体験を振り返って、うれしかったことやつらかったことを考える。	<p>職場体験では、どんなことがうれしかったか、つらかったか。</p> <p>〈うれしかったこと〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分が包んだ商品が売れた</li> <li>・お店の人やお客さんからほめてもらった</li> </ul> <p>〈つらかったこと〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一日中立ちっぱなしだった</li> <li>・大きな声であいさつすること</li> <li>・どう接客してよいか分からなかった</li> </ul> <p>● 職場体験後にアンケートをとっておき、生徒の考えを把握しておくことも大切である。</p>	◆ 自分の体験を振り返ろうとしているか。
展開 35分	2 資料を読んで、私の気持ちが変わった理由を考える。	<p>○ 主人公が大きな声で頭を下げた理由について、考えさせる。</p> <p>自分でもびっくりするような大きな声で頭を下げたのはなぜだろう。</p> <p>● 主人公の気持ちが変化した理由を三つの視点に沿って考えさせる。</p> <p>〈仕事ができるようになった自分〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・すばやく袋に詰めることができるようになった</li> <li>・ほめられて嬉しい</li> </ul> <p>〈他者が認めてくれた自分〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・かごを取って行ったお客さんが自分のレジに来てくれたこと</li> <li>・「うまくなったね」というお客さんの言葉</li> </ul> <p>主人公が大きな声で頭を下げたのは、自らの充実感や他者から認められたことだけなのか。</p> <p>● 「他とかかわることの喜び」を実感したことが、主人公の気持ちを変化させた理由であることに気付かせる。</p> <p>〈他の人と気持ちがつながった自分〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「また、来るからね」というお客さんの言葉</li> </ul> <p>● 補助発問として、自分本位な気持ちで働いていた2日目の自分の姿と母が通う店の店員の姿を比較させることも考えられる。</p> <p>● 「他とかかわることの喜び」が、自らの充実感となり、生きがいのある生き方につながることに気付かせる。</p>	◆ 「他の人とかかわることの喜び」が主人公の気持ちを変えたことに気付いているか。
終末 10分	3 働くことに対する自分の考えを書く。	<p>○ 働くこととはどんなことか考えさせ、「私たちの道徳」P.174に記入させる。</p> <p>● 次の視点から発表させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の興味、適性、能力を生かす</li> <li>・生活を維持する</li> <li>・社会に奉仕、貢献する</li> </ul> <p>● 勤労の尊さや意義について見直すきっかけとしたい。</p>	◆ 勤労の尊さや意義について考えようとしているか。

## 私の職場体験

私たちの学校は、昨年から五日間の職場体験に取り組んでいる。私の体験先はショッピングセンターだ。

二日目、今日からは実際にフロアに立ってよいよ接客をする。私の仕事は、バーコードで支払いを計算する従業員さんの横で、お客さんの買った商品を袋に詰めることだった。

「いらっしやいませ。」 「ありがとうございました。」

従業員さんのきびきびした声に、私も気持ちが引き締まる。午前十一時を過ぎると、買い物客が増え、レジが混雑し始めた。次から次へと精算される商品を一生懸命詰めていたのだが、慣れない仕事のため、どうしても時間がかかってしまう。そんなとき、私のぎこちない手元を見ていたお客さんが、「もういいわ。自分で詰めるから。」と、私の手から商品を入れかけた袋とカゴを取っていった。

「こんなに一生懸命、やっているのに。それに、中学生だって分かっているのに、待ってなくてもいいじゃない。」と、悲しい気持ちになった。

「ただいま。」家に帰るとすぐ、テレビのスイッチをつけた。ソファーに寝転んでむくんだ足をさすっていた私に、

「今日はどうだった？」母が尋ねた。

「うくん、レジ係って結構簡単。一日中ずっと同じ仕事ばかりだったし。明日はアナウンス係をしてみたいなあ。」

私の言葉を聞きながら、なぜか母は黙っていた。

夕食の後、洗い物をしていた母が私に話しかけてきた。

「ねえ和美、お母さんが買い物をするスーパーに、いつも気持ちの良い笑顔で迎えてくれる人がいるの。応対もすがすがしくって。仕事で疲れている心が癒されるのよね。」

母の話を聞いているうちに、今日、自分が思ったことが、急に恥ずかしくなった。「明日、もう一度レジ係、頑張ってみよう。」私は心の中でそうつぶやいた。

三日目、今日はなるべくスムーズに、そして笑顔で仕事ができるように頑張ってみた。昨日の母の言葉が頭をよぎる。お客さんがいない時には、隣のレジの従業員さんの様子を注意して見ることにした。すると、ジャガイモなど、固くて重たいものは袋の下、卵など、割れたりつぶれたりしやすいものは袋の上に入れている。他にも同じ形のものや冷たいものはまとめて寄せる・・・など、いろいろな工夫をしていることが分かった。

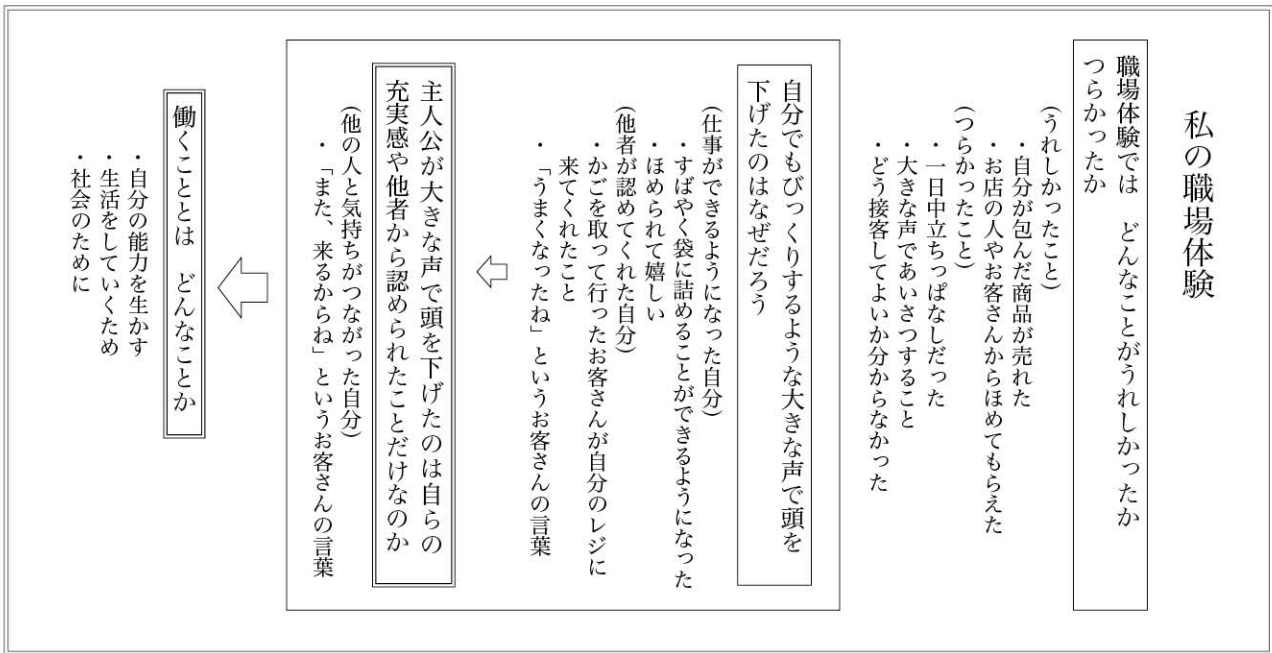
私もまねして詰めてみた。最初はなかなかうまくいかず苦労したが、隣のレジを何度も見、参考にしながら入れてみた。ふと顔を上げると、先日の女の人が目の前にいる。

私は、小さな声でおそろおそろ「いらっしやいませ。」とあいさつし、少しどきどきしながらも、目の前に置かれる品物を素早くすつきりと袋に収めていく。詰め終わった袋を女の人に差し出すと、「うまくなったね。また来るからね。」と声をかけてくれた。

「ありがとうございました。」自分でもびつくりするような大きな声で、私は頭を下げている。



板書計画



道徳の時間の指導内容		4- (5) 「勤労の尊さ」との関連		
月	主題名	資料名	内容項目	出典
4	勤労の意義	ディズニー そうじの神様が 教えてくれたこと	4- (5) 勤労, 公共の福祉	日文
10	勤労の尊さ	私の職場体験	4- (5) 勤労の尊さ	市道徳
2	奉仕の心の大切さ	私のボランティアの原点	4- (5) 勤労, 公共の福祉	日文
「中学校道徳読み物資料集」(文部科学省発行)との関連			各教科等との関連	
・掲載例なし			○受けつぎつくる人の姿 ○LESSON 3 For Our Future ○職場体験活動	美術 英語 特活等

「私たちの道徳」との関連	
P. 172~177	勤労や奉仕を通して社会に貢献する

道徳の内容の学年段階・学校段階の系統		4- (5) 「勤労の尊さ」
小学校第1学年及び第2学年	4- (2) 働くことのよさを感じて, みんなのために働く。	
小学校第3学年及び第4学年	4- (2) 働くことの大切さを知り, 進んでみんなのために働く。	
小学校第5学年及び第6学年	4- (4) 働くことの意義を理解し, 社会に奉仕する喜びを知って公共のために役に立つことをする。	
中学校	4- (5) 勤労の尊さや意義を理解し, 奉仕の精神をもって, 公共の福祉と社会の発展に努める。	

主題名 家族愛

4－(6) 家族愛

資料名 窓辺のラン

出典 大分市教師用道徳指導資料集編集委員会 作

ねらい 祖母の世話をする母の思いを知った主人公の気持ちを〈家族に対する父母の思い〉〈自分自身に対する思い〉〈家族に対する私の思い〉などに着目して捉えることにより、父母や祖父母に対する敬愛の念を深め、家族の一員としての自覚をもって充実した家庭生活を築こうとする態度をはぐくむ。

### 主題設定の理由

#### (1) 生徒の実態

この時期の生徒は、自我意識が強くなり、自分の判断や意志で生きていこうとする自立への意識が高まってくる。そのため、父母や祖父母の言動やしつけに、時として反抗的になることもある。しかも、かつてのような大家族の人間関係の中でしつけられ、喜怒哀楽を共にし、生活の苦労を分かち合いながら人間関係の機微を学んだり、家族の連帯を自覚したりする機会も少なくなってきている。

そのため、自分と家族とのかかわり、家庭生活の在り方が人間としての生き方の基礎であることを十分に理解できるようにすることが大切である。そのうえで、自分が家族の中でどのような立場にあるのか、また、家庭生活を営むうえで、自分は何のような役割を果たせばよいのかを考え、家族の一員としての自覚をもって積極的に協力していくことが大切であることに気付かせたい。

#### (2) 資料について

本資料は、祖母の入院というできごとがきっかけとなり、母の祖母に対する思いや母を心配する父の思いを知った主人公が、自分の今までの家族に対する在り方を見直し、自分が家族の一員としてできることを実践していこうとする姿が描かれている。

自分の成長を願い無私の愛情で育ててくれている父母や祖父母に対して敬愛の念を深め、家族を構成する成員相互の温かい信頼関係と愛情によって互いが深い絆で結ばれていることの自覚をもち、より充実した家庭生活を築こうとする態度をはぐくむのに適した資料である。

### 指導について

導入・展開では、資料を読み、父母の会話を聞いて「胸が締め付けられる思いがした」主人公の思いを〈家族に対する父母の思い〉〈自分自身に対する思い〉〈家族に対する私の思い〉の視点で考えさせることにより、自分の今までの家族に対する在り方を見直そうとしたことに気付かせたい。その後、主人公が母親に対してとってきた態度を謝り、大きな声であいさつをして家を出た時の気持ちを考えさせることにより、〈家族に対する私の思い〉を深め、家族の一員としての自分の役割に気付き、自覚をもって積極的に協力していくことや人間関係の機微を学んだり家族の連帯を自覚したりすることの大切さに気付かせたい。

終末では、これまでの自分を振り返り、無私の愛情で自分を育ててくれている家族に対する敬愛の念と、自分が家族の中で果たすべき役割について考えさせ、家族の一員としての自覚を高めたい。

学習指導過程

過程	学習活動	指導及び留意点	評価の視点
<p>導入・展開</p> <p>35分</p>	<p>1 資料を読み、父母の会話を聞いた時の主人公の気持ちを考える。</p> <p>2 翌朝、大きな声であいさつをして家を出た時の主人公の気持ちを考える。</p>	<p>○ 資料を読み、父母の話し声を聞いた時の主人公の思いを、「胸を締め付けられる思いがした」に着目して考えさせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>父母の会話を聞いた主人公は、どうして「胸が締め付けられる思いがした」と感じたのか。</p> </div> <p>● 主人公が、母親の祖母への思いを知ったり、自分自身にとってきた態度を振り返ったりして考えたことなどを、〈家族に対する父母の思い〉〈自分自身に対する思い〉〈家族に対する私の思い〉の視点から考えさせる。</p> <p>〈家族に対する父母の思い〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・母はもっと十分にお世話をしたいと思っている</li> <li>・母は最大限のことをするのは親子だから当然だと思っている</li> <li>・父は母の体のことも気遣っている</li> </ul> <p>〈自分自身に対する思い〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・母へ無愛想な態度をとってしまった</li> <li>・一生懸命祖母の世話をする母に、心配をかけていた</li> </ul> <p>〈家族に対する私の思い〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今の自分は家族に何ができるのか</li> </ul> <p>● 「わたしができる最大限のこと」の言葉に着目し、主人公が母親の言葉を自分自身のこととして受け止めたことに目を向けさせる。</p> <p>● 母親を気遣う父の言葉に母に対する思いやりにも気付かせたい。</p> <p>○ 家族への主人公の深い思いを、大きな声であいさつをして学校に向かった時の行動から考えさせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>主人公はどんな気持ちで家を出たのか。</p> </div> <p>● 家族のお互いの愛情を感じた主人公が自分の立場や役割を考え、家族の一員として自覚をもった行動をとろうとしていることに気付かせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・母親に心配をかけてはいけない</li> <li>・自分が今できることを考えよう</li> <li>・家族の一員として、今自分ができることを果たそう</li> </ul> <p>● 「どうしたの」としか尋ねなかった母親や「何でもない…」としか答えなかった主人公の言葉から、家族の連帯感や機微を感じ取らせたい。</p> <p>● 家族の心を落ち着かせてくれているランに水をやった行動から、主人公の家族愛を感じ取らせたい。</p>	<p>◆ 主人公が、家族に対する在り方を見直そうとしたことに気付いたか。</p> <p>◆ 家族に対する主人公の思いを捉えているか。</p>
<p>終末</p> <p>15分</p>	<p>3 家族の一員としての自分の思いを書く。</p>	<p>○ これまでの自分を振り返り、家族の中での自分の立場や役割について自分の思いを書く。</p> <p>● 無私の愛情で自分を育てている家族に対する敬愛の念と、自分が家族の中で果たすべき役割について考えを深めさせる。</p>	<p>◆ 家族の一員として、自覚をもって行動しようと考えているか。</p>

## 窓辺のラン

私の家族は、祖母・両親・姉の五人。両親は昼間仕事に出ており、祖母が家のことをやってくれていた。祖母は普段からしつけに厳しく、靴の脱ぎ方や言葉遣い、箸の使い方まで細かく私や姉に注意する。そんな祖母に対し、私は正直「うるさいなあ」と思うこともあった。

姉は大学受験を控えた高校三年生。私も中学三年生で高校受験だ。受験生を二人も抱えたわが家は皆の不安心とやらでいつもピリピリした雰囲気漂っている。けれど、そうした家の雰囲気を和らげてくれるものがある。それは祖母の趣味であるランの花だ。ランは咲かせることの難しい花で、ちよつと手を抜くとすぐ駄目になってしまう。祖母が大切に育てたランの花は近所でも評判で祖母の自慢の一つだ。この美しい花を見てると家族みんなの心が何となく落ち着くのだった。

ある日、学校から帰り着くと、いつもの「おかえり」という祖母の声がしない。祖母がいないことをいことに、制服も着替えずにそのまま自分の部屋で寝ころんでいた。しかし、いつまでたっても祖母が帰ってくる気配がない。外が薄暗くなってきた頃、電話が普段より大きく鳴った。

「おばあちゃん入院することになったの。でも心配しなくていいのよ。今夜はお母さんが病院で付き添うから、とりあえず家のことはお願いね。」

突然の母からの電話でびっくりした。祖母のことがだんだん心配になってきた。母からは家のことをお願いと言われたが、普段からあまり手伝いをしていなかった私は、何がどこにあるのかさえよくわからない。とりあえず、干してあった洗濯物を取り込んでいたところに、父と姉が帰ってきた。いつもと違う表情の父の顔を見て、胸騒ぎがしてきた。すぐに一緒に祖母の病院へ行ってみたが、祖母は集中治療室で面会謝絶だった。それでも「心配しなくていいのよ」という母の言葉を思い出し、すぐに退院できることを心から願った。

翌日から、母は毎日のように病院に通った。当然、家事はわたしたち姉妹ですることになった。誰もいない真つ暗な家に帰る日が続いた。姉と二人で行う炊事や洗濯は想像以上に大変だった。

祖母が入院して二週間がたった。面会はできるようになったものの、退院のめどは立たない。母は相変わらず付きつきりで見病している。ある日私は、母の「いつも家のことありがとうね。」の言葉さえ耳に入らず、無愛想に荷物を渡し終え、さつさと家に帰ってしまった。「いったいいつまでこんなことが続くんだろう..」。病院からの帰り道、受験のことなども気になっていた私は、次第に心が重たくなってきた。

その晩、暗い気持ちで夕食を済ませた後、自分の部屋でぼんやり窓の外を眺めていた。どのくらい時間がたつただろうか。隣の部屋から父と母の話し声が聞こえてきた。

「私、おばあちゃんをこの家でもつと十分にお世話したいと思っているの。」

母だった。しばらくして父は低い声で

「しかし、そうなったら今度は母さんの体が持たなくなると思う。今のまま、病院で専門的に見てもらった方がいいんじゃないかな。」

すると母は、

「私は、この家でおばあちゃんの面倒を見てあげたいの。どんなことがあつても。おばあちゃんのために私ができる最大限のことをしてあげたいの..。だつて親子じゃないの..」

母の声は震えて聞き取りにくかったが、私は胸を締め付けられる思いがした..。

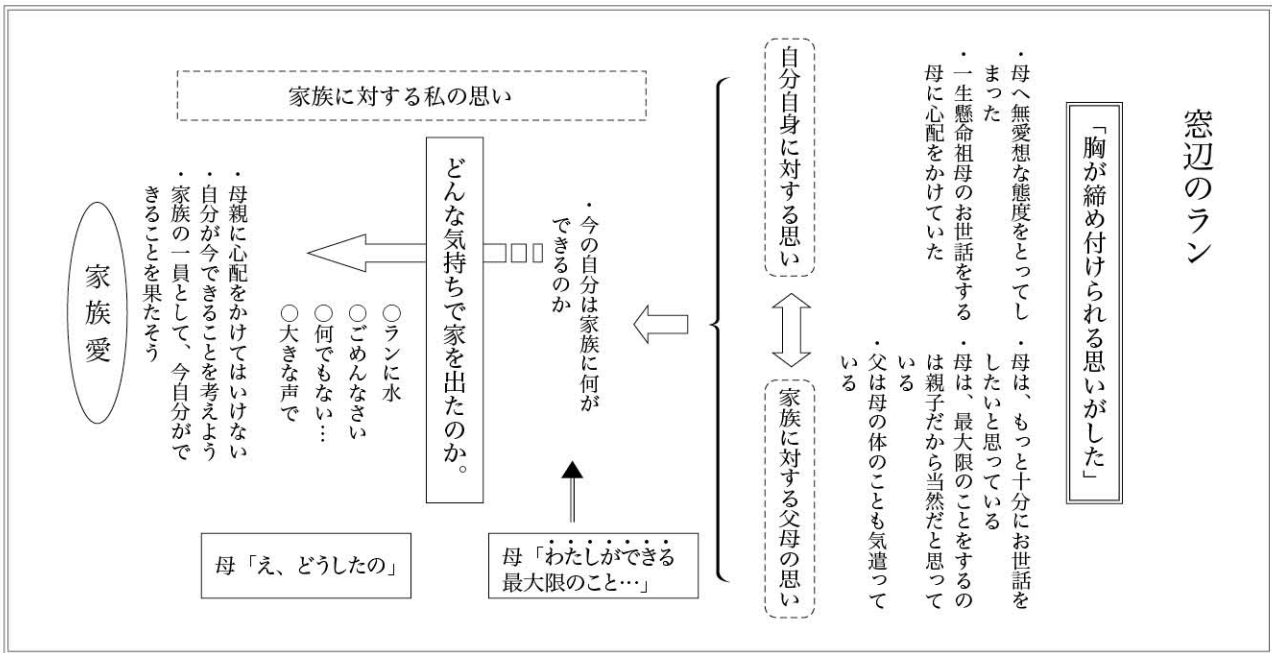
翌朝、私は祖母が大切にしている窓辺のランに水をやったあと、母に

「きのうは本当にごめんなさい..。」と言った。

「え、どうしたの」

「ううん、何でもなし..。じゃあ行つてきます。」と大きな声で家を出た。

板書計画



道徳の時間の指導内容

4- (6) 「家族愛」との関連

月	主題名	資料名	内容項目	出典
6	家族への敬愛	一冊のノート	4- (6) 家族愛	日文
7	親と子の絆	手紙 - 親愛なる子供たちへ-	4- (6) 家族愛	日文
10	家族愛	窓辺のラン	4- (6) 家族愛	市道徳

「中学校道徳読み物資料集」(文部科学省発行)との関連

各教科等との関連

・掲載例なし

- LESSON 5 Houses and Lives
- 家庭や家族の機能や地域とのかかわりを考えよう
- 家族関係をよりよくいしていこう
- 子どもにとっての家族を考えよう

英語  
技家  
  
技家  
技家

「私たちの道徳」との関連

P. 180~193 家族の一員としての自覚を

道徳の内容の学年段階・学校段階の系統

4- (6) 「家族愛」

小学校第1学年及び第2学年	4- (3) 父母, 祖父母を敬愛し, 進んで家の手伝いなどをして, 家族の役に立つ喜びを知る。
小学校第3学年及び第4学年	4- (3) 父母, 祖父母を敬愛し, 家族みんなで協力しあって楽しい家庭をつくる。
小学校第5学年及び第6学年	4- (5) 父母, 祖父母を敬愛し, 家族の幸せを求めて, 進んで役に立つことをする。
中学校	4- (6) 父母, 祖父母に敬愛の念を深め, 家族の一員として自覚をもって充実した家庭生活を築く。

## 「道徳の内容」の学年段階・学校段階の一覧表

	小学校第1学年及び第2学年	小学校第3学年及び第4学年
1 主として 自分自身に関すること	(1) 健康や安全に気を付け、物や金銭を大切に、身の回りを整え、わがままをしないで、規則正しい生活をする。 (2) 自分がやらなければならない勉強や仕事は、しっかりと行う。 (3) よいことと悪いことの区別をし、よいと思うことを進んで行う。 (4) うそをついたりごまかしをしたりしないで、素直に伸び伸びと生活する。	(1) 自分でできることは自分でやり、よく考えて行動し、節度のある生活をする。 (2) 自分でやろうと決めたことは、粘り強くやり遂げる。 (3) 正しいと判断したことは、勇気をもって行う。 (4) 過ちは素直に改め、正直に明るいい心で元気よく生活する。 (5) 自分の特徴に気付き、よい所を伸ばす。
2 主として 他の人とのかかわりに 関すること	(1) 気持ちのよいあいさつ、言葉遣い、動作などに心掛けて、明るく接する。 (2) 幼い人や高齢者など身近にいる人に温かい心で接し、親切にする。 (3) 友達と仲よくし、助け合う。 (4) 日ごろ世話になっている人々に感謝する。	(1) 礼儀の大切さを知り、だれに対しても真心をもって接する。 (2) 相手のことを思いやり、進んで親切にする。 (3) 友達と互いに理解し、信頼し、助け合う。 (4) 生活を支えている人々や高齢者に、尊敬と感謝の気持ちをもって接する。
3 主として 自然や崇高なもの のかかわりに 関すること	(1) 生きることを喜び、生命を大切にする心をもつ。 (2) 身近な自然に親しみ、動植物に優しい心で接する。 (3) 美しいものに触れ、すがすがしい心をもつ。	(1) 生命の尊さを感じ取り、生命あるものを大切にする。 (2) 自然のすばらしさや不思議さに感動し、自然や動植物を大切にする。 (3) 美しいものや気高いものに感動する心をもつ。
4 主として 集団や社会との かかわりに 関すること	(1) 約束やきまりを守り、みんなが使う物を大切にする。 (2) 働くことのよさを感じて、みんなのために働く。 (3) 父母、祖父母を敬愛し、進んで家の手伝いなどをして、家族の役に立つ喜びを知る。 (4) 先生を敬愛し、学校の人々に親しんで、学級や学校の生活を楽しくする。 (5) 郷土の文化や生活に親しみ、愛着をもつ。	(1) 約束や社会のきまりを守り、公德心をもつ。 (2) 働くことの大切さを知り、進んでみんなのために働く。 (3) 父母、祖父母を敬愛し、家族みんなで協力し合っって楽しい家庭をつくる。 (4) 先生や学校の人々を敬愛し、みんなで協力し合っって楽しい学級をつくる。 (5) 郷土の伝統と文化を大切に、郷土を愛する心をもつ。 (6) 我が国の伝統と文化に親しみ、国を愛する心をもつとともに、外国の人々や文化に関心をもつ。

	小学校第5学年及び第6学年	中学校
1 主として 自分自身に関すること	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 生活習慣の大切さを知り、自分の生活を見直し、節度を守り節制に心掛ける。</li> <li>(2) より高い目標を立て、希望と勇気をもってくじけないで努力する。</li> <li>(3) 自由を大切に、自律的で責任ある行動をする。</li> <li>(4) 誠実に、明るい心で楽しく生活する。</li> <li>(5) 真理を大切に、進んで新しいものを求め、工夫して生活をよりよくする。</li> <li>(6) 自分の特徴を知って、悪い所を改めよい所を積極的に伸ばす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 望ましい生活習慣を身に付け、心身の健康の増進を図り、節度を守り節制に心掛け調和のある生活をする。</li> <li>(2) より高い目標を目指し、希望と勇気をもって着実にやり抜く強い意志をもつ。</li> <li>(3) 自律の精神を重んじ、自主的に考え、誠実に実行してその結果に責任をもつ。</li> <li>(4) 真理を愛し、真実を求め、理想の実現を目指して自己の人生を切り拓いていく。</li> <li>(5) 自己を見つめ、自己の向上を図るとともに、個性を伸ばして充実した生き方を追求する。</li> </ul>
2 主として 他の人とかかわりに 関すること	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 時と場をわきまえて、礼儀正しく真心をもって接する。</li> <li>(2) だれに対しても思いやりの心もち、相手の立場に立って親切にする。</li> <li>(3) 互いに信頼し、学び合って友情を深め、男女仲よく協力し助け合う。</li> <li>(4) 謙虚な心もち、広い心で自分と異なる意見や立場を大切にする。</li> <li>(5) 日々の生活が人々の支え合いや助け合いで成り立っていることに感謝し、それにこたえる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 礼儀の意義を理解し、時と場に応じた適切な言動をとる。</li> <li>(2) 温かい人間愛の精神を深め、他の人々に対し思いやりの心をもつ。</li> <li>(3) 友情の尊さを理解して心から信頼できる友達をもち、互いに励まし合い、高め合う。</li> <li>(4) 男女は、互いに異性についての正しい理解を深め、相手の人格を尊重する。</li> <li>(5) それぞれの個性や立場を尊重し、いろいろなものの見方や考え方があることを理解して、寛容の心もち謙虚に他に学ぶ。</li> <li>(6) 多くの人々の善意や支えにより、日々の生活や現在の自分があることに感謝し、それにこたえる。</li> </ul>
3 主として 自然や崇高なもの にかかわりに関すること	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 生命がかけがえのないものであることを知り、自他の生命を尊重する。</li> <li>(2) 自然の偉大さを知り、自然環境を大切にする。</li> <li>(3) 美しいものに感動する心や人間の力を超えたものに対する畏敬の念をもつ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 生命の尊さを理解し、かけがえのない自他の生命を尊重する。</li> <li>(2) 自然を愛護し、美しいものに感動する豊かな心もち、人間の力を超えたものに対する畏敬の念を深める。</li> <li>(3) 人間には弱さや醜さを克服する強さや気高さがあることを信じて、人間として生きること喜びを見いだすように努める。</li> </ul>
4 主として 集団や社会とかかわりに 関すること	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 公德心をもって法やきまりを守り、自他の権利を大切にしながら進んで義務を果たす。</li> <li>(2) だれに対しても差別することや偏見をもつことなく公正、公平にし、正義の実現に努める。</li> <li>(3) 身近な集団に進んで参加し、自分の役割を自覚し、協力して主体的に責任を果たす。</li> <li>(4) 働くことの意義を理解し、社会に奉仕する喜びを知って公共のために役に立つことをする。</li> <li>(5) 父母、祖父母を敬愛し、家族の幸せを求めて、進んで役に立つことをする。</li> <li>(6) 先生や学校の人々への敬愛を深め、みんなで協力し合いよりよい校風をつくる。</li> <li>(7) 郷土や我が国の伝統と文化を大切に、先人の努力を知り、郷土や国を愛する心をもつ。</li> <li>(8) 外国の人々や文化を大切にする心もち、日本人としての自覚をもって世界の人々と親善に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 法やきまりの意義を理解し、遵守するとともに、自他の権利を重んじ義務を確実に果たして、社会の秩序と規律を高めるように努める。</li> <li>(2) 公德心及び社会連帯の自覚を高め、よりよい社会の実現に努める。</li> <li>(3) 正義を重んじ、だれに対しても公正、公平にし、差別や偏見のない社会の実現に努める。</li> <li>(4) 自己が属する様々な集団の意義についての理解を深め、役割と責任を自覚し集団生活の向上に努める。</li> <li>(5) 勤労の尊さや意義を理解し、奉仕の精神をもって、公共の福祉と社会の発展に努める。</li> <li>(6) 父母、祖父母に敬愛の念を深め、家族の一員としての自覚をもって充実した家庭生活を築く。</li> <li>(7) 学級や学校の一員としての自覚もち、教師や学校の人々に敬愛の念を深め、協力してよりよい校風を樹立する。</li> <li>(8) 地域社会の一員としての自覚をもって郷土を愛し、社会に尽くした先人や高齢者に尊敬と感謝の念を深め、郷土の発展に努める。</li> <li>(9) 日本人としての自覚をもって国を愛し、国家の発展に努めるとともに、優れた伝統の継承と新しい文化の創造に貢献する。</li> <li>(10) 世界の中の日本人としての自覚もち、国際的視野に立って、世界の平和と人類の幸福に貢献する。</li> </ul>

## 大分市教師用道德指導資料集編集委員

(学校名, 職名は作成時)

### 〈平成17年度〉

大分市立城南中学校	校長	堤	睦	三
大分市立戸次中学校	教諭	阿南	雅彦	
大分市立植田西中学校	教諭	大津	圭哉	
大分市立城東中学校	教諭	小野	富広	
大分市立原川中学校	教諭	川谷	宗久	
大分市立植田南中学校	教諭	河野	奈緒美	
大分市立植田東中学校	教諭	後藤	之乃	
大分市立植田中学校	教諭	田嶋	恵子	
大分市立王子中学校	教諭	徳丸	雅子	
大分市立植田南中学校	教諭	廣津	美明	
大分市立大分西中学校	教諭	森	裕佳	

### 〈平成18年度〉

大分市立野津原中学校	校長	松原	幹夫	
大分市立戸次中学校	教諭	阿南	雅彦	
大分市立植田西中学校	教諭	大津	圭哉	
大分市立城東中学校	教諭	小野	富広	
大分市立原川中学校	教諭	川谷	宗久	
大分市立植田東中学校	教諭	後藤	之乃	
大分市立植田中学校	教諭	田嶋	恵子	
大分市立王子中学校	教諭	徳丸	雅子	
大分市立鶴崎中学校	教諭	長尾	明徳	
大分市立植田南中学校	教諭	廣津	美明	
大分市立大在中学校	教諭	森	裕佳	

### 〈平成19年度〉

大分市立野津原中学校	校長	松原	幹夫	
大分市立戸次中学校	教諭	阿南	雅彦	
大分市立原川中学校	教諭	川谷	宗久	
大分市立植田東中学校	教諭	後藤	之乃	
大分市立城東中学校	教諭	田嶋	恵子	
大分市立王子中学校	教諭	徳丸	雅子	
大分市立大在中学校	教諭	森	裕佳	